60TH ANNIVERSARY

TRANSMISSION

JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL FUKUOKA

60TH ANNIVERSARY

TRANSMISSION

JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL FUKUOKA

トランスミッション【transmission】

1. 伝達すること　2. 変速機、伝動装置

各年代の先輩方が愛すべき福岡のまちをもっと住みよく、魅力あるまちにするために、
英知と勇気と情熱をもってJC活動に取り組んできた。

現役メンバーは、脈々と受け継がれてきたその伝統を胸に、組織の歯車となって、
FUKUOKAの明るい豊かな社会を築くために、現在も率先して活動を行っている。

今後もその培われてきた伝統は、後輩達に受け継ぎ伝えられていく。

60TH Anniversary

TRANSMISSION

JCI Junior Chamber International Fukuoka

序　文

“祖国再建”の使命に燃えてこの福岡に福岡青年会議所が創立されて、
今年で60周年を迎えるまでになりました。
志に燃えた福岡青年会議所の運動は、先輩方の熱い情熱と努力によって、
福岡のまちづくりに大きな影響を与えてきました。
今、私達は先輩方のその情熱と努力の結晶であるこの福岡で
活動することができる喜びを噛み締めています。
だからこそ私達は、福岡青年会議所の60年という歴史と伝統の
一年一年の積み重ねを踏みしめながら、
FUKUOKAの未来をイメージし続けなくてはなりません。
これまでも、そしてこれからも。
福岡を支え続ける青年経済人として。

60TH ANNIVERSARY
TRANSMISSION
JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL FUKUOKA

社団法人　福岡青年会議所　60周年記念誌

創立60周年を迎えて<挨拶・祝辞> …… 5
挨拶 第61期理事長
祝辞 ○福岡県知事○福岡市長○福岡商工会議所 会頭○福岡JCシニアクラブ 会長
○2013年度 JCI 会頭○2013年度 公益社団法人日本青年会議所 会頭
○2013年度 公益社団法人日本青年会議所 九州地区協議会 会長
○2013年度 公益社団法人日本青年会議所 九州地区福岡ブロック協議会 会長
○スポンサー JC 2013年度 社団法人宮崎青年会議所 理事長
○トリオ JC 2013年度 釜山青年会議所 会長
○トリオ JC 2013年度 社団法人下関青年会議所 理事長
○姉妹 JC 2013年度 香港城市青年会議所 会長

提言の歴史 …… 13

福岡青年会議所 歴代理事長紹介 …… 15
<第1期～第50期>

10年間の歩み
福岡青年会議所 歴代理事長紹介 …… 26
<第51期～第60期>
○第５１期理事長　廣田　稔
○第５２期理事長　井上　博行
○世界会議実行委員長　倉重　一男
○第５３期理事長　宮崎　鐘子
○第５４期理事長　小池　勝利
○第５５期理事長　富永　太郎
○第５６期理事長　新開　裕司
○第５７期理事長　大村　光
○第５８期理事長　大山　哲寿
○第５９期理事長　長沼　慶也
○第６０期理事長　末松　大和

60周年記念対談 …… 69

組織図 …… 87

編集後記 …… 98

創立60周年を迎えて。

社団法人福岡青年会議所第 61 期理事長
田川　幸平

Celebrate the 60th anniversary of foundation.

2013年2月4日、福岡青年会議所は創立60周年を迎えました。

戦後の復興が進む1953年、福岡の明るい未来を築くという目的の下に50名のメンバーが集まり、それから60年間、その年々に所属したメンバー自らが描く明るい福岡の未来を目指し、情熱をもって事業を行ってまいりました。在籍が40歳までという事もあり、常に人材の新陳代謝を繰り返すことで、60年間惰性に陥ることなく、若者らしい自由な発想と時代に即して変化にも柔軟に対応しながら物事に取り組んできたと考えております。一方で、創始の精神や今日の礎となっている伝統は、ＤＮＡとして脈々と引き継がれています。

人口が減少に向かっていく中で今後も発展していく為には、現役会員や特別会員はもちろんの事、その家族や従業員、行政・財界・市民の方々からも魅力的な団体と思って頂ける様に日々進化していく必要があります。我々は再度自らを見つめ直し、引き継がれてきた誇りある歴史や伝統を踏まえた上で、残すべきものは残し、変えるべきものは変えていく事で、次代へとその活動を繋げてまいります。

また、2010年に我々が考える福岡の明るい未来の形として「アジア交流首都宣言」を発表させていただきました。アジアの玄関口だけではなく、アジアを中心に国内外の人々が集う交流首都を目指すべきという理念の下で様々なプロジェクトの提言をさせていただきました。我々はそれを発表のみで終らせるのではなく、その理念実現の為に行動する団体でありたいと願っております。福岡市民の方々に広く我々の考えを発信し、目指すべき福岡へと発展させられる様活動してまいります。その為にも我々の世代が行動しなければ、現在の閉塞感は打ち破れないとの情熱と気概を持って行動してまいる所存です。

福岡青年会議所が60周年を迎える事が出来たことは、長きにわたり我々の活動にご理解いただきました行政、財界、市民の方々はじめ多くの関係者の皆様のお蔭と心より感謝を申し上げます。今後とも我々は、「創始の精神」を忘れることなく、愛する福岡の明るい未来の為に情熱と希望を持って行動してまいります。何卒変わらぬご支援・ご協力を賜ります事をお願い申し上げます。

60TH ANNIVERSARY
TRANSMISSION
JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL FUKUOKA

祝　辞

Congratulatory address

福岡県知事／小川　洋

福岡市長／髙島　宗一郎

福岡商工会議所 会頭／末吉　紀雄

福岡JCシニアクラブ 会長／眞鍋　博俊

2013 年度 JCI 会頭／キアラ・ミラニ

2013 年度 公益社団法人日本青年会議所 会頭／小畑　宏介

2013 年度 公益社団法人日本青年会議所 九州地区協議会 会長／岡田　憲明

2013 年度 公益社団法人日本青年会議所 九州地区福岡ブロック協議会 会長／馬場　良作

スポンサー JC 2013 年度 社団法人宮崎青年会議所 理事長／佐藤　公一

トリオ JC 2013 年度 釜山青年会議所 会長／ Kim Kyoung Tae

トリオ JC 2013 年度 社団法人下関青年会議所 理事長／伊藤　雅彦

姉妹 JC 2013 年度 香港城市青年会議所 会長／ Ban Chui

継承

受け継がれる大切さ、
次の世代に伝える大切さ。

Importance told to generation of succeeded the next importance

ここに栄えある60周年。

繁栄の願いを込めた祝いの言葉を未来に語り伝える。

The 60th anniversary that continued developing.

社団法人福岡青年会議所が創立６０周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

社団法人福岡青年会議所が創立60周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。福岡青年会議所におかれましては、創立以来、魅力ある地域づくりや青少年の健全育成など幅広い活動に取り組まれ、地域の発展に貢献してこられました。特に、皆さんが主導し創設された「アジア太平洋こども会議」は今年で25周年を迎えました。これまでに福岡県を訪れたアジア太平洋地域の延べ52カ国・地域の子どもたちは大きく成長し、今や各国、各分野で活躍しています。こども会議を巣立ったメンバーによるブリッジクラブも34カ国・地域で設立され、本県との交流が活発に行われるなど、本県の国際交流振興に大きく貢献する事業となっています。田川理事長をはじめ、歴代理事長、役員ならびに会員の皆さんのたゆまぬご努力に対し深く敬意を表します。60周年という節目を迎え、青年会議所の皆さんには、結束を一層強め、切磋琢磨され、青年経済人らしい情熱と行動力により、福岡地区はもとより、福岡県の活力ある発展に一層のご尽力をいただきますことを期待いたします。福岡青年会議所の今後ますますのご発展と、会員の皆さんのご活躍を心から祈念いたします。

福岡県知事　小川　洋

社団法人福岡青年会議所が創立60周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴青年会議所は、昭和28年の設立以来今日まで、会員の皆様のそれぞれの分野でのご活躍に加え、一致団結して、福祉やスポーツ、観光など、地域に密着した幅広い活動を一貫して展開され、地域経済の振興はもとより、活力と魅力あふれる地域づくりに多大な貢献をされておられます。さて今日、デフレや円高、エネルギーといった課題が山積し、また価値観の多様化、経済のグローバル化が進展する中、経済社会システムは大きな変革を迫られております。さらに福岡においては、地理的・歴史的な利点や国内外とのネットワークなどを背景に、アジア地域との人的・物的交流はますます活発になり、アジアの交流拠点としての役割を果たしていくことが求められてまいります。この60周年を契機に、会員相互の団結をさらに強め、“明るい豊かな社会を築く”若きリーダーとして地域社会の発展に貢献されることを期待しております。終わりに、福岡青年会議所のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝とご飛躍を祈念いたしまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。

福岡商工会議所　会頭　末吉　紀雄

社団法人福岡青年会議所創立６０周年にあたり、一言お祝い申し上げます。

福岡青年会議所におかれましては、昭和28年の結成以来、「修練」「奉仕」「友情」を活動の基本において、経済・産業の振興はもとより、明るい豊かな社会の実現を目指して、様々な活動に取り組んでおられますことに、深く敬意を表します。特に、昭和63年に実現したプロ野球球団誘致活動、平成元年からスタートし25周年を迎える「アジア太平洋こども会議イン福岡」、平成24年は8万人以上が参加した「NAKASU JAZZ」、女性マラソンの「ASIA BEAUTY MARATHON」、世界レベルの選手から一般市民までが参加するサイクルスポーツ「Tour de Fukuoka」など、福岡の文化、芸術、スポーツといった、まちの魅力を活かした大規模な事業を展開され、福岡を発信していただきますことは大変意義深いものと考えております。福岡青年会議所におかれましても、よりよい福岡の「ひとづくり」「まちづくり」を行うため、より一層、邁進されることを期待いたしますとともに、今後のますますのご発展とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

福岡市長　髙島　宗一郎

社団法人福岡青年会議所創立60周年を迎えられましたことを心よりお祝いいたします。

1953年、戦後の復興の進む中、志の高い諸先輩の努力で誕生以来、福岡市への提言・やすらぎ荘支援・プロ野球球団やJリーグの誘致、アジア太平洋こども会議など福岡の地域社会に大きな影響を与えるような素晴らしい事業を成功させてこられましたのも、歴代理事長をはじめ会員の皆さんの情熱とたゆみない努力のたまものと深く敬意を表す次第です。そしてそれは、青年のしがらみにとらわれない自由な発想、あふれんばかりの情熱、誰にも負けない行動力をいかんなく発揮してきたからこそ、市民の共感を得ることができ、そして行政や多くの団体、企業、家族の協力があり、このような事業が成しえたものと確信します。混沌とした社会、世界情勢の中、田川理事長はじめ会員の皆さんが、今後とも目的である、明るい豊かな社会を築くために、変革の能動者としてリーダーシップを発揮し、70周年、100周年に向け新しい歴史をつくっていただくよう祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

福岡JCシニアクラブ　会長　眞鍋　博俊

挑戦

伝えられてきたもの、
それは未来へ繋がる大切な言葉。

The one and it that has been told understanding
from still are important words connected with the future.

Dear Members of JCI Fukuoka,
On behalf of JCI members worldwide, I would like express my sincere congratulations on the celebration of your 60th Anniversary. This occasion provides JCI members with new opportunity to continue the momentum we have built while creating positive change. JCI Fukuoka is a leader in setting a strong example for communities within Japan and around the world.
There can be no denying the magnitude of the world's issues. However, JCI Fukuoka members bring motivation, ideas and resources to tackle these challenges. It is our individual responsibility to steer the future of our communities and focus attention on the Millennium Development Goals (MDGs). These targeted and achievable goals are the perfect way for us to focus our efforts toward creating impact. I know JCI Fukuoka continues to take the lead in advancing the MDGs within the Active Citizen Framework.
As JCI Fukuoka recognizes its achievements, look forward to the next 60 years and how we can all work together to create a positive impact. JCI Fukuoka is a leader in setting the standard, and I thank you in advance for all you will accomplish in the near future.
Thank you for all the magnificent achievements you have contributed to JCI.
Once again, congratulations on the 60th Anniversary of JCI Fukuoka.

親愛なる福岡JCメンバーの皆様

福岡JCの60周年を迎えるにあたり、全世界のJCIメンバーを代表し、お祝いを申し上げたいと思います。この記念はJCIメンバーに、我々が“Positive Change(積極的な変化)”を生み出しつつ構築してきた勢いを継続するための新たな機会を与えることとなります。福岡JCは、日本中、そして世界中で地域社会に力強い手本を示すリーダーJCです。世界に深刻な問題が多く存在することは疑う余地もありません。しかし、福岡JCのメンバーは、モチベーション、アイデア、そして底力をもってこれらの挑戦に立ち向かっています。我々の地域社会の将来を先導し、ミレニアム開発目標（MDGs）へ焦点を当てることは我々個々の責任です。これらの達成可能な目標は、世界にインパクトを与えるために我々が努力を注ぐのに最善のものです。その中で、福岡JCがアクティブシチズンの枠組みの中でMDGsを達成するために先導し続けると信じています。福岡JCが自身の功績を認めつつ、これからの60年間と積極的なインパクトを生み出すためにともに励むことを楽しみにしております。福岡JCはスタンダードを定めていくリーダーであり、近い将来、それを成し遂げるであろうことに先に感謝したいと思います。みなさんがJCIにもたらしてきた素晴らしい業績に感謝します。改めまして、福岡JCの60周年、おめでとうございます。

2013年度　ＪＣＩ　会頭　　キアラ・ミラニ

創立60周年の祝辞

本年創立60周年を迎えられるとのこと、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。昭和28年の創立以来60年の長きにわたり、産業の振興はもとより、青少年の健全育成、ボランティア活動など、福岡地域の活力あるまちづくりに多大な貢献をしてこられました。そして本年も『TRANSMISSION』をスローガンに掲げられた田川理事長の卓越したリーダーシップのもと、一致団結し、気概と覚悟を持ったJAYCEEとして主導力を高められ、未来志向な市民意識変革運動を展開されることと確信いたしております。さて本年、公益社団法人日本青年会議所では、「新しい時代への燈火となれ!」をスローガンに掲げ、日本の未来を切り開くために、「主張できる国民意識の醸成」「視野を広げたエネルギー議論」「地域からの日本再生」などの解決しなければならない諸問題に対し、全国の同志とともに、気概と覚悟を持って具体的な運動を展開してまいります。結びに、本年が貴青年会議所にとって素晴らしい年となることをご祈念申し上げますとともに、地域において、最も頼られ必要とされる青年の団体となることをご期待申し上げ、創立60年を迎えての祝辞とかえさせていただきます。

2013年度　公益社団法人日本青年会議所　会頭　　小畑　宏介

福岡ＪＣ６０周年によせて

社団法人福岡青年会議所の創立60周年を、九州地区内4,000名の会員とともに心よりお祝い申し上げます。また、2009年には九州地区会員大会の主管青年会議所としてのご尽力、そして毎年多くの人材を九州地区協議会へご輩出いただくなど、日頃よりの多大なるご理解とご協力に深く感謝申し上げます。貴青年会議所は、1953年2月4日、全国で35番目の青年会議所として設立され、以来60年間、愛する郷土福岡の明るい未来のために、地域発展、人材育成の分野を中心として、多くの事業や運動を展開されてこられました。創始の精神とともに創意に満ち溢れた青年の運動を連綿と受け継ぎ、情熱と高い志をもって実績を積み重ねることで地域発展に寄与されてこられた先輩諸兄をはじめとする、会員の皆さま方に対しまして、深く敬意を表する次第です。また、地元の発展に限らず、全国各地での風水害、震災をはじめとする多くの広域災害復旧にも積極的なご支援を賜り誠にありがとうございました。結びとなりましたが、社団法人福岡青年会議所の今後益々のご発展と、田川幸平理事長をはじめとする会員の皆さま方のご活躍により福岡の明るく豊かな社会実現に大きく寄与されますことを衷心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

2013年度　公益社団法人日本青年会議所　九州地区協議会　会長　岡田　憲明

社団法人福岡青年会議所が、創立６０周年という記念すべき大きな節目を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

創立から今日に至るまでの60年間、熱い情熱と高い志を持って故郷の地に青年会議所を興され、地域社会の発展にご尽力されました諸先輩の功績に心から敬意を表するとともに、諸先輩が築き上げてきた誇り高き志を受け継いだ現役メンバーの皆様に心からの感謝とお祝いを申し上げます。政治経済は未だに安定せず悪いニュースばかりが飛び交い、社会全体が少し疲れきっている時代だからこそ、我々青年だけは常に元気に輝き続け、あらゆる問題が山積している世の中に少しでも元気を取り戻して頂かなければなりません。そして、地域を牽引することが出来る頼れるリーダーへと成長していくことこそが、夢や希望をもつことのできる明るい豊かな社会を創造していくための原動力となると信じております。輝かしい未来へ向け希望がもてる地域へと成長し続けるために、福岡ブロック協議会は、福岡21会員会議所のメンバーと共にこれからも青年会議所運動を邁進してまいります。最後に、社団法人福岡青年会議所が、地域において最も頼られ必要とされる青年団体として益々発展し続けることと、メンバーの皆様の更なるご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

2013年度　公益社団法人日本青年会議所　九州地区福岡ブロック協議会　会長　馬場　良作

社団法人福岡青年会議所が創立６０周年を迎えられたことに、心からお慶びとお祝いを申し上げます。

心からお慶びとお祝いを申し上げるとともに、設立されてからこれまで永きにわたり日本を代表するLOMの一員としてご活躍された先輩諸兄、現役会員の皆さまに敬意を表する次第でございます。2012年度においては、九州地区会員大会を主管し、九州地区協議会の運動発信、構築の一翼を担うとともに会員の結束を固める機会をいただきました。本年度においても日本青年会議所との繋がりを密にしながら九州を代表するようなLOMとして、ともに切磋琢磨しながら地域に影響を及ぼせる運動や事業を展開していきたいと考えております。混沌という未知の可能性を切り拓くことがさらに難かしくなってきている現在、社団法人福岡青年会議所におかれましては、2013年度「TRANSMISSION」というスローガンのもと、60周年を迎える2月4日という良き日を節目として気持ちを新たにし、先輩方が積み上げられてきた功績に敬意を表する機会とするとともに、地域に影響を及ぼし続ける地域になくてはならない団体として、これからも変わりなきご尽力とご活躍が求められていると考えます。なお一層のご発展とメンバー皆さまのご健勝とご活躍を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

スポンサーJC 2013年度　社団法人宮崎青年会議所　理事長　　佐藤　公一

釜山JCを代表して心よりお慶び申し上げます。

皆さんこんにちは。私は2013年度釜山青年会議所会長キム・キョンテと申します。まず、今日の意味深いこの場に一緒に参加出来ることを本当に光栄に思います。そして福岡JCが創立60周年を迎えたことを、釜山JCを代表して心よりお慶び申し上げます。両JCは1965年から今日まで48年間トリオJCとして友情を深めてまいりました。これまで48年という長い間に福岡JCと釜山JCは青年指導者を養成するために持続的な発展と大切な縁を守って参りました。この全てが歴代先輩の方々と会員の方々の努力の結果だと思います。改めて感謝申し上げます。時代は大変早いスピードで変化しています。多くの組織はこの早い変化に対応して生き残るために熾烈に身もだえしています。しかし希望の道はただ新しさと変化だけを追及すればできることではありません。われわれの原則、所信、常識を大切に守って行く「JC　正道」が希望の道であると思います。原則が正しく守られる時に信頼が生まれます。原則を守ることによって葛藤と不信が無くなります。最後になりますが、釜山JCと福岡JCは今のようにお互いに励まし合いながら、学んだり交流したりして深い友情を築いて、共に発展することを心からお祈り申し上げます。

トリオJC 2013年度　釜山青年会議所　会長　　Kim Kyoung Tae

福岡ＪＣ６０周年によせて

親愛なる社団法人福岡青年会議所が、このたび創立60周年という記念すべき節目の年を迎えられましたこと、社団法人下関青年会議所を代表して心よりお祝い申し上げます。また、このような素晴らしい年の式典にお招き頂き、共にお祝い出来ることを光栄に思います。福岡青年会議所と私ども下関青年会議所は、60年の歴史の中でおよそ50年という長きに亘り友情を紡いで参りました。JCI－KOREA釜山を含めたトリオJC交流は、全国にも類を見ない形であります。近年は、お互いの事業への参加、スポーツ交流、ビジネス交流など活発な活動、運動を展開しており、海外民間外交の魁でありました。是非、これからもお互い来るべき100周年に向かい、地域青年会議所として「まち」に根差し、青年だからこそ出来ることを考え、失敗を恐れずに良い刺激を与え合いながら共に歩んで参りましょう。結びに、会員の皆様の益々のご活躍、ならびに先輩方の益々のご健勝、そして社団法人福岡青年会議所、牽いては福岡地域の益々のご発展を祈念致しまして、創立60周年のお祝いの挨拶とさせて頂きます。

トリオJC 2013年度　社団法人下関青年会議所　理事長　　伊藤　雅彦

チカラ

先代から受け継がれて来た思い。そして・・・期待する未来へ。

The thought inherited from the predecessor.
To and the future to expect.

On behalf of JCI City, Hong Kong, It is my great honor to
offer our congratulations to President Tagawa and
JCI Fukuoka, Japan on the occasion of your diamond anniversary
With 60 years of tradition and history, JCI Fukuoka continues its devotion to serving the community. Like the hardness of a diamond, JCI Fukuoka established an indestructible reputation to empower the youth for a better tomorrow and to create positive changes in society. Every year, the numerous projects organized by JCI Fukuoka offered opportunities for members to harness their skills to become future leaders as well as impacting society and raising awareness by addressing to the eight United Nations Millennium Development Goals.
This year also marks the 29th anniversary of the sisterhood pact between JCI Fukuoka and JCI City. Like the fire in a diamond, the flame of brotherly love between JCI Fukuoka and JCI City will continue to burn enduringly. Through sharing, we can strengthen the harmony across borders. Through communicating, we can make positive changes on global issues. Through understanding, we can break the ties of racial conflicts. Together, in friendship, let us work hand in hand to establish an everlasting world peace.
Lead by 50 passionate young people 60 years ago, JCI Fukuoka commenced on an enduring journey of making a brighter future for Fukuoka, trained and nurtured thousands of young leaders over the years. Like the luster in a diamond, the guidance from senior members and past presidents will act as a catalyst for members to shine as bright as ever to continue with its tradition and to build on top of its history impacting not only Fukuoka but the world as a whole.
Once again, congratulations to President Tagawa, your esteemed LOM and to all your past and present members for an outstanding 2013.

田川理事長と福岡JCの皆様に我々の祝辞を届けることが出来ることを光栄に思います。

香港シティJCを代表し、福岡JCの60周年記念（ダイヤモンド記念）において田川理事長と福岡JCの皆様に祝辞を届けることが出来ることを光栄に思います。60年という伝統と歴史の中で、福岡JCは地域に奉仕することに身をささげ続けてこられました。福岡JCがより良い未来のために若者を育て、社会に「Positive　Change」をもたらしてきたことによって得られた評価は、ダイヤモンドのように確固たるものです。福岡JCにより企画された数々のプロジェクトを通して社会にインパクトを与え、若者に機会を提供し、8つの「国連ミレニアム開発目標（MDGs）」への意識を高めています。また、今年は福岡JCと香港シティJCが姉妹提携を結んで29年目となります。福岡JCと香港シティJCの間にある兄弟愛の炎は、ダイヤモンドのように永遠に輝き続けるでしょう。我々がより共有化することで、国境を越えた調和をより強固なものにすることができるでしょう。我々がより対話をすることで、地球上の問題に「Positive　Change」をもたらすことが出来るでしょう。我々がより理解することで、民族間紛争の連鎖を断ち切ることが出来るでしょう。この友情のもとで共に手を取り合って、永遠に続く世界平和を実現していきましょう。60年前、50名の情熱的な青年に導かれ、福岡のより良い明るい将来を作るために福岡JCの長い旅が始まりました。そして長年に渡り、数千もの若いリーダーを育成してきました。先輩方や歴代理事長方からの指導を通して、機会を与えられたメンバー達が、伝統を受け継ぎ、福岡のみならず世界へインパクトを与えるように光り輝くことでしょう。改めまして、この素晴らしい2013年において、田川理事長と尊敬すべきLOM、そして先輩方と現役メンバーの皆様に祝意を表します。

姉妹JC 2013年度　香港城市青年会議所　会長　　Ban Chui

提言の歴史

力強く、そして大胆に前進。

It moves forward forcibly and boldly.

折々に生まれた意匠、思い、人のつながり、
そのすべてがJC前進の力となった60年。
その基幹である提言を中心に振り返る。

5周年

創立5周年記念式典
第7回日本JC全国大会福岡大会

10周年

1. 意欲的な財界を形成せよ
2. 都市づくりに「人間都市」の理念を導入せよ
3. 財界の運営に積極的態度を取れ

「福岡によせる期待と提言」―人間都市をめざして―

1.福岡市は新しい発展期を迎えた

①福岡市が目指すべき新しいビジョンは、人間都市（ヒューマン・シティ）である。人間都市とは、市民の人間性、自主性の回復された都市、つまりそこに住み、働くことが喜びとなるような都市である。言うまでもなく、それは市民自らが建設すべきものである。

②人間都市福岡の建設を可能にする背景は、第1に、九州経済の発展である。第2に、九州にとって福岡市が、首都的な地位と役割を持つことである、九州の発展と福岡市の発展は、表裏一体である。第3に、福岡市とその周辺部のすぐれた自然環境は必須条件である。

③我々は、人間都市福岡の建設を提唱する。

福岡市は、全国でもまれなほどその条件に恵まれており、市民と関係機関の結束した努力があれば、実現は可能である。　（一部抜粋）

2.福岡市の性格と役割

①福岡市は九州の首都である。

②福岡市は第三次産業を中心に発展すべきである。

③福岡市は九州経済発展の中枢的役割を果たすべきである。

これに基づいて、財界、市民、市当局、および関係各機関に対して、次の三つを提唱したい。同時にそれを、われわれの努力目標としたい。

15周年

『人間都市への提案』
―福岡によせる期待と提言第2集―

1.市民サークル活動を育てよう
2.シビックセンター“市民情報センター”をつくろう
3.渡辺通りに緑の大歩道をつくろう
4.中洲遊歩道をつくろう
5.下川端商店街を再開発しよう
6.博多湾を観光資源として活用しよう
7.福岡を低俗文化追放宣言都市にしよう

20周年

「福岡によせる期待と提言」の現況検証と今後への展開、修正の検証。心の通いあう豊かな町づくりのために『まず10人の隣人と仲よく』―提起― 人間都市を担う私たちの新たなる出発

30周年

『21世紀のこころを求めて―うるおい都市・ふくおか―』
（来るべき21世紀の福岡市民のひとりひとりが、こころにうるおいをもって暮らせるようにという思いのもと）

1.自然の営みを知り、もっと自然に親しもう　2.福岡の自然環境、海、山、川を守り育てよう
3.人間公害のない都市を　4.三世代が理解しあえる都市を

35周年

「街の勢いは賑わいです。その原点は人間の豊かさ、魅力、情熱、文化です。
街には賑わいが必要です。賑わいの中から活力も豊かさも生まれてきます。」

「人間都市宣言」「うるおい都市福岡」の提言のこころを受け継いで、明るい豊かな社会を目指して、街づくり、人づくり、心づくり運動を展開いたします。

―行動:全国大会、アジア太平洋こども会議、ウォーターフロント計画、球団誘致

40周年

豊かな『こころ』を次の世代に、
『みんなあつまれ地球市民』

45周年

『こころめぐり』
「夢に向かって行動する」

50周年

『よかひと　よかまち　よかくらし』よかばい
ふくおか!九州から日本をかえる原動力を福岡の手で実現していこう!G.N.S.（国民総満足度）ナンバーワン都市を目指して

55周年

私たちはJCらしさを活かし、福岡の明るい豊かな社会を築き上げて行きます。心の奥底から響きあうひとづくり、知恵と工夫と行動力で新たな懸け橋を作るまちづくり・くらしづくり

福岡のまちの明るい豊かなまちづくりに向けて掲げる、5つのまちづくり

1. 国際交流のあふれるまち福岡　2. 夢のあふれるまち福岡　3. 愛のあふれるまち福岡
4. 文化のあふれるまち福岡　5. 元気のあふれるまち福岡

57周年

『アジア交流首都宣言』

Project1　チャンスの交流!クリエイティブの創出

・アジア最大規模プロジェクト『日韓トンネル』
・アジア政治の交流拠点『東アジア共同体（AU）本部誘致』
・アジア中の知が集結『アジア産官学研究開発拠点』
・Fukuokaのシンボル『アジアのゲートウェイモニュメント』

Project2　感動の交流!エンターテイメントの演出

・「水の都市」福岡でワクワク『中洲エリア再開発』
・屋台を世界に発信!『屋台ブランド強化』
・アジアの音楽が集結『アジア音楽交流』
・アマチュアスポーツの聖地『アジアスポーツ交流』
・アジアに誇る中世博多『福岡の歴史発信』
・芸術家が集うまち『世界規模の芸術の祭典』

Project3　快適な交流!ホスピタリティの構築

・アジア最先端都心部の回遊性向上『LRT（Light Rail Transit）次世代型路面電車』
・おもてなしの心!「国際人」の育成『アジア外国語・国際理解の教育』
・アジア共同通貨への道キャッシュレス社会『相互利用できるマルチカード』

歴代理事長紹介

All the past president introduction

第１期～第 50 期

60TH ANNIVERSARY
TRANSMISSION
JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL FUKUOKA

創立について

第1･2期　橋上保久理事長
『慶応大学の同期生である銀座 和光の服部氏のすすめで、当時交友関係にあった炭鉱屋7名が集まったのが最初です。』

第３･４期　貝島正二理事長
『東京JCの堀越、三輪、服部から、福岡に青年会議所がないのはさびしいじゃないか、福岡に作ったらどうかという話は聞いていた。あるとき、橋上･伊藤剛平･伊藤傳之祐･久恒の諸君と会ったんですよ。創立準備会をやった帰りだとかで、いよいよ作るんだと。』

第６期　高松光彦理事長
『わびしい日でしたね。商工会議所の壁なんか、まだ戦争中のままだった････』

第1･2期　橋上保久理事長
『雪の降る寒い日に、石油かんに火をたき、ひや酒を飲んで発足会をした。われわれの手で、自らの行動で国土を良くしようと。大それた目標をかかげた。』

昭和28年2月4日
(社)福岡青年会議所発足

昭和２８年　２月４日　雨
一粒の麦、地に蒔かれたり

第1期・第2期　1953 年～ 1954 年（昭和 28 年～ 29 年）　橋上　保久　会員数：50 名

事業：1953 年・２月：福岡市他全県下有志により福岡青年会議所結成。福岡商工会議所で創立総会を開く
会費月額 300 円・入会金 2,000 円
・７月：日本 JC 西日本地区大水害救援本部を福岡 JC 内に設置
・10 月：毎月第 3 火曜日に例会を開くようになる
1954 年・10 月：福岡市へ街路樹 100 本を贈呈する

第3期・第4期　1955 年～ 1956 年（昭和 30 年～ 31 年）　貝島　正二　会員数：47 名

事業：1955 年・２月：緑の羽根 10,000 本購入して、緑の羽根運動に協賛
・３月：長崎平和記念像建設資金募集
・７月：会計年度を暦年に変更するなど決議する
1956 年・５月：久留米で第 4 回九州地区会員大会を開く
・８月：福岡 JC 奨学生規定制度を制定する

第5期　1957 年　（昭和 32 年）　伊藤　剛平　会員数：55 名

事業：1957 年・２月：定例総会を行い、年齢制限を 35 歳から 40 歳に引き上げることを決議する
・８月：熊本ほか水害地区へ救援物資を発送

第6期　1958年（昭和33年）　高松　光彦　会員数：71名

事業：1958年・2月：会費月額1,500円に改訂する
・5月：ライオンズクラブと共催で施設児童500名をサーカスに招待
・10月：第7回全国会員大会を福岡にて開催する

第7期　1959年（昭和34年）　武内　徳夫　会員数：77名

1959年・1月：第1回卒業生を送る夕べを開く
・12月：全国大会記念として噴水「希望の泉」（動物園前）を福岡市へ贈呈

第8期　1960年（昭和35年）　野上　恭敬　会員数：86名

事業：1960年・1月：JCレポート第1号発刊（以後毎月例会日に発行）
・2月：会員規律維持規定・会員表彰規定を制定する

第9期　1961年（昭和36年）　坂本　行雄　会員数：92名

事業：1961年・1月：商工会議所会頭及び副会頭と懇談会を開く
・2月：入会金を10,000円に改定

第10期　1962年（昭和37年）　高松　邦彦　会員数：94名

事業：1962年・2月：早稲田大学尾関守氏を招いて第1回マネージメントセミナーを開く
・9月：JC統一事業として市長その他と市政を語る会を持つ
定款の改正、目的・特別会員の資格・常務理事の新設・委員会運営規定の
改正など決議する

第11期　1963年（昭和38年）　喜多村　辰男　会員数：98名

事業：1963年・3月：第1回LT研修会を開き会員企業の報告と討議を行う
・10月：九州縦貫自動車道路建設促進要望の賛成署名を取りまとめる

第12期　1964年（昭和39年）　四島　司　会員数：98名

事業：1964年・6月：10周年記念事業中間発表
明るい町づくり協議会参加
第2回九州シニアJaycee の集い、福岡で開かる
・8月：東南アジア留学生と懇談会を開く

第13期　1965年（昭和40年）　大賀　禮太郎　会員数：112名

事業：1965年・1月：10周年記念事業発表「人間都市をめざして」を中心に経済記者と懇談会
・2月：経済団体連絡会議初会合（10周年記念事業「福岡における期待と提言」について）
・4月：福岡・下関・釜山、トリオ会議締結
・9月：九州で初めて優秀広報誌賞を受賞
・12月：「福岡における期待と提言」にJCI賞

第14期　1966年（昭和41年）　麻生　純三　会員数：118名

事業：1966年・5月：9日、6月19日　西公園埋立て中止を市に申し入れ
・11月：釜山JC金会長以下数名のメンバーが来福

第15期　1967年（昭和42年）　久野　桂一　会員数：120名

事業：1967年・1月：「明日の市民生活へのビジョン」と題して福岡JC新春座談会。RKBにて放送
・4月：ジョンソンアメリカ大使、東南アジア開発に日本の協力を福岡JCで語る
・9月：東南アジア留学生招待（国際委員会主管）
広報活動に対しプエルトリコ賞を受賞
・10月：姉妹都市オークランドへ鳥居を贈る

第16期　1968年（昭和43年）　中島　邦補　会員数：120名

事業：1968年・6月：1970年度JCIコンファレンス開催地に立候補
・9月：福岡JC創立15周年記念式典
・10月：日本JC第17回全国会員大会において優秀広報誌賞を受賞
記念事業「人間都市への提案」を発表、反響を呼ぶ

第17期　1969年（昭和44年）　栗栖　健一郎　会員数：123名

事業：1969年・4月：JCI副会頭ロキス・A・ペピン君来福
例会場がミタカホールより西鉄グランドホテルに変更される
・5月：1970年JCI福岡コンファレンス決定
・6月：市民会議「渡辺通りに緑の大歩道を！」

第18期　1970年（昭和45年）　田中丸　善司　会員数：153名

事業：1970年・4月：福岡JCレディース・クラブ発足
JCI福岡コンファレンス開催（貴賓　常陸宮殿下ご夫妻）　2300名参加
・10月：初の理事選挙が行われる

第19期　1971年（昭和46年）　後藤　隆雄　会員数：173名

事業：1971年・4月：社団法人化なる
・8月：初の理事長選挙が行われる

第20期　1972年（昭和47年）　洞　尚　会員数：194名

事業：1972年・3月：「ゴーヤングブルー」ラジオ広報開始（RKB毎日放送日曜夜）
・4月：政令都市発足記念祝賀パレード
・7月：「やすらぎ荘」に身障児招待
・8月：「明日の経営を求めて・・・」第1回福岡JC経営トップセミナー
・9月：「日本JCデー」「一本の苗、一つの心、大きな輪」夜須高原でヤングの集い
・10月：第1回福岡JC「広報セミナー」

第21期　1973年（昭和48年）　江口　昭八郎　会員数：234名

事業：1973年・3月：釜山空港に時計台を贈呈
・3月：創立20周年記念式典挙行
・4月：つくしJC承認証伝達式
・7月：第1回会員研修セミナー　AOYについて
・9月：JCデー統一行事
・11月：ハワイ文化経済交流施設団派遣

第22期　1974年（昭和49年）　金子　宜嗣　会員数：277名

事業：1974年・11月：釜山JC創立23周年記念式典参加

第23期　1975年（昭和50年）　近江　福雄　会員数：294名

事業：1975年・5月：博多どんたく初参加
・5月：第22回九州地区会員大会主管
・8月：JCデー統一行事

第24期　1976年（昭和51年）　古賀　秀策　会員数：323名

事業：1976年・2月：第1回L・I・Aセミナー
・9月：JCデー統一行事
・11月：第1回文化講演会

第25期　1977年（昭和52年）　加地　良一　会員数：329名

事業：1977年・5月：博多どんたく参加
・9月：JCデー統一行事
・11月：糸島JC承認証伝達式

第26期　1978年（昭和53年）　富永　恒二　会員数：339名

事業：1978年・ 3月：創立25周年記念式典
創立25周年記念行事「日本の歌よもやま」
創立25周年記念パーティー
・ 4月：JCデー統一行事推進最優秀賞受賞
・ 6月：トリオJCミニコンファレンス
・10月：JCデー統一行事推進優秀賞受賞

第27期　1979年（昭和54年）　榎本　一彦　会員数：337名

事業：1979年・5月：第1回経営スクール　於まいずる苑　テーマ「福岡の経営基盤と展望」
・6月：友好訪中団　北京～桂林～広州
・8月：TNC24時間チャリティマラソン番組募金運動

第28期　1980年（昭和55年）　冬至　洋一　会員数：365名

事業：1980年・ 4月：ロバート議事法セミナー
・ 4月：第1回KJ法セミナー
・ 6月：JC青年の船参加　横浜～香港～台湾～博多
・ 9月：福岡・ハワイ友好親善使節団ハワイ派遣
・11月：ハワイ桜の女王歓迎レセプション

第29期　1981年（昭和56年）　新川　宏輔　会員数：386名

事業：1981年・ 6月：JC青年の船参加　横浜～香港～基隆～横浜
・ 8月：第2回明日の福岡を考える青年経済人会議
・12月：JC市議団との懇談会

第30期　1982年（昭和57年）　青柳　泰秀　会員数：382名

事業：1982年・ 4月：アジア難民慰問事業　　於、香港
・ 9月：童歌集会「思い出そう子供のこり～今わらべ歌を～」
・11月：釜山JC30周年記念式典参加

第31期　1983年（昭和58年）　熊谷　信治　会員数：344名

事業：1983年・3月：創立30周年記念春の室内家族大運動会
・4月：パーフェクト例会　ゲスト金子信雄　テーマ「食べることの知恵」
・5月：創立30周年記念式典・懇親会
・6月：北方領土返還要求リレーマラソン　福岡県庁前～宗像
・7月：行革シンポジウム

第32期　1984年（昭和59年）　福永　周平　会員数：372名

事業：1984年・ 3月：アメリカ海軍士官との親善パーティー
第1回福岡JC健康駅伝大会
・11月：香港城市（City）JCとの姉妹JC調印式
・12月：JCデー統一行事「やすらぎ荘支援100万人募金運動」

第33期　1985年（昭和60年）　榎本　正弘　会員数：378名

事業：1985年・ 2月：禅道場入門　於、端石禅寺
・ 8月：JCデー統一行事「福岡こども使節団」韓国派遣（釜山～慶州）
・ 9月：JCデー統一行事「おやじの出番を考える集い」
・11月：釜山JC創立33周年記念式典訪問
・12月：留学生支援街頭募金活動

第34期　1986年（昭和61年）　中牟田　健一　会員数：403名

事業：1986年・4月：福岡JC中国経済視察団派遣（中華人民共和国）
プロ野球球団誘致シンポジウム
・7月：日韓交換こどもホームステイ（釜山来福）
・8月：福岡こども使節団派遣
・9月：～全国一斉6万人例会（100%例会）～

第35期　1987年（昭和62年）　中村　量一　会員数：388名

事業：1987年・ 4月：三世代交流ファミリーゲートボール大会　日本JCじゃがいも西日本地区大会
・ 7月：「～燃えよ、立ちあがれ今こそ九州プロ野球～」
リレーマラソン野球・誘致推進市民パレード・テレビ公開シンポジウム
日韓こども交換ホームステイ
・ 9月：インターナショナル運動会
・10月：国際児童絵画展

第 36 期 1988 年 （昭和 63 年） 財津　重美 会員数：396 名

事業：1988 年・2 月：福岡青年会議所 35 周年記念式典
・4 月：三世代交流ゲートボール大会
・8 月：日韓こども交換ホームステイ

第 37 期 1989 年 （平成元年） 石坂　博史 会員数：386 名

事業：1989 年・2 月：福岡ブロック第 1 回会員会議
・4 月：「平和台を赤のブレザーでうめつくせ」
メンバー 100 余名にて福岡ダイエーホークスを応援に
・7 月：第 38 回全国会員大会記念事業「アジア太平洋こども会議・イン福岡」
・9 月：社団法人　日本青年会議所「第 38 回全国会員大会・福岡大会」

第 38 期 1990 年 （平成 2 年） 真鍋　博俊 会員数：350 名

事業：1990 年・ 7 月：「第 2 回　アジア太平洋こども会議・イン福岡」
・11 月：第 26 回身体障害者スポーツ大会「後夜祭」

第 39 期 1991 年 （平成 3 年） 小林　専司 会員数：388 名

事業：1991 年・ 3 月：九州 JC シニアクラブ　合同総会・例会
・ 7 月：第 2 回アジア太平洋学校
・ 8 月：第 3 回アジア太平洋こども会議・イン福岡
・10 月：日韓サッカー大会
・11 月：ときめきフェスタ

第 40 期 1992 年 （平成 4 年） 樺島　逸兵 会員数：435 名

事業：1992 年・ 3 月：九州 JC シニアクラブ　合同総会・例会
・ 7 月：第 2 回アジア太平洋学校
・ 8 月：第 4 回アジア太平洋こども会議・イン福岡
・10 月：日韓サッカー大会
・11 月：ときめきフェスタ

第 41 期 1993 年 （平成 5 年） 菅原　正道 会員数：394 名

事業：1993 年・4 月：九州地区協議会マラソンリレー
・6 月：香港 City　JC 周年記念行事参加
・7 月：第 5 回アジア太平洋こども会議・イン福岡 ’93
40 周年記念式典・懇親会
J リーグを福岡に誕生させるための署名開始
・9 月：釜山 JC40 周年記念式典参加

第 42 期 1994 年 （平成 6 年） 河邊　哲司 会員数：402 名

事業：1994 年・ 3 月：アジア太平洋ミッション地球の風使節団　実施
・ 5 月：ケーブルビジョン番組制作「しっとうね福岡 JC」
・ 6 月：ラブアースクリーンナップ九州 ’94　JC スクールビジネスセミナー
・ 7 月：第 6 回アジア太平洋こども会議・イン福岡 ’94
・ 9 月：J リーグ設立総会・記念式典
・10 月：日本文化デザイン会議 ’94

第 43 期 1995 年 （平成 7 年） 安川　哲史 会員数：371 名

事業：1995 年・ 1 月：阪神大震災支援物資輸送
・ 3 月：地球の風使節団派遣
・ 7 月：第 7 回アジア太平洋こども会議・イン福岡 ’95
・ 9 月：ユニバふれあい交流イベント
・11 月：ブルックス　J リーグ昇格祝い

第 44 期 1996 年 （平成 8 年） 松山　政司 会員数：346 名

事業：1996 年・2 月 : 組織改革諮問会議、21 世紀創り諮問会議
・3 月 : 地球の風使節団派遣
・6 月 : JC スクールビジネスセミナー
・7 月 : 第 8 回アジア太平洋こども会議・イン福岡 ’96
・9 月 : ハートフル・ウォーキング IN 天神

第 45 期 1997 年 （平成 9 年） 吉松　修 会員数：343 名

事業：1997 年・ 3 月 : こども会議市民移管討論会　第 9 回アジア太平洋こども会議・イン福岡 ’97 派遣事業
・ 5 月 : 第 1 回 LD セミナー
・ 7 月 : 第 9 回アジア太平洋こども会議・イン福岡 ’97
・ 9 月 : ハートフル・ウォーキング IN 天神
・10 月 : アルミランド ’97 イン福岡　医療 NGO チャリティゴルフ

第 46 期 1998 年 （平成 10 年） 田中　彰洋 会員数：334 名

事業：1998 年・ 2 月：シティマラソン（こども会議参加）
・ 3 月：第 10 回アジア太平洋こども会議イン福岡 ’98　派遣事業
・ 7 月：第 10 回アジア太平洋こども会議イン福岡 ’98　やすらぎ荘 JC 招待キャンプ
・ 8 月：ハートフル・アドベンチャーラリー IN 博多の森
・ 9 月：45 周年記念式典・懇親会　・10 月：歴代理事長会議
・11 月：福岡のコミュニティ支援実行クラブ　・12 月：北九州 JC・福岡 JC 親善ゴルフ大会

第 47 期 1999 年 （平成 11 年） 新町　敦志 会員数：313 名

事業：1999 年・ 3 月：第 11 回アジア太平洋こども会議イン福岡 ’99 派遣事業
・ 4 月：西日本じゃがいも主管開催
・ 5 月：地球市民の日事業こどもサバイバルキャンプ
・ 7 月：第 11 回アジア太平洋こども会議・イン福岡 ’99
・12 月：事務局改装公聴会

第 48 期 2000 年 （平成 12 年） 藤野　利浩 会員数：305 名

事業：1999 年・ 3 月：第 12 回アジア太平洋こども会議イン福岡 ’00 派遣事業
・ 4 月：アジア太平洋こども会議イン福岡主管事業移管決議　九州地区洋上スクール開校
・ 5 月：第 1 回 APCC 戦略会議　・7 月：第 12 回アジア太平洋こども会議・イン福岡 ’00
・ 8 月：サバイバルキャンプ実施　・10 月：JCI 世界会議誘致決議
・11 月：札幌世界会議で「アジア太平洋こども会議」事業が JCI 平和教育賞受賞
・12 月：学校教育を考える討論会テレビ収録 「定款」及び「規定」改正

第 49 期 2001 年 （平成 13 年） 井上　貴博 会員数：296 名

事業：2001 年・ 1 月：例会会場の移転、ホテルニューオータニからグランド・ハイアット・福岡へ
・ 2 月：臨時例会「JCI 世界大会誘致ビットアンケート発表例会」
・ 4 月：JCI 世界会議国内 BID プレゼンテーション　JCI 世界会議誘致決起大会
・ 5 月：JCI 世界会議国内 BID 権獲得　こども会議の NPO 法人化
・11 月：福岡 JC・北九州 JC 友好 JC を締結

第 50 期 2002 年 （平成 14 年） 岩本　仁 会員数：313 名

事業：2002 年・ 4 月：第 3 エリア合同例会開催
・ 5 月：アスパックにて、JCI 世界会議誘致キャラバン実施
・ 6 月：50 周年記念提言準備諮問会議答申書提出
・ 7 月：50 周年実行委員会設置
・11 月：ラスベガス世界会議にて、2004 年 JCI 世界会議福岡大会誘致決定
・12 月：50 周年記念提言「よかひと、よかまち、よかくらし、よかばいふくおか」理事会承認

2003年の記憶

第 51 期　社団法人福岡青年会議所第 51 期理事長　廣田　稔

新たなる半世紀のスタート、
さあ一緒に創ろう、まちをひとを世界会議を！

ごあいさつ　Greeting

社団法人福岡青年会議所創立60周年、誠におめでとうございます。

私がJCに入会させていただいたのは1995年で、当時はこども会議の主幹をしており、主幹を外れるという時期でもあった為、「3年もしたら主幹を外れるから今の内にやっておいた方がいいよ。」と先輩方に言われ、8年間の内3年間はこども会議に携りました。その後2001年に専務理事、2004年に世界会議と、こども会議とその2本立てのJC生活でした。

こども会議、世界会議に携っていくなかで、これから九州はひとつになっていき、アジアそして世界で、福岡はリーダー的なまちでなくてはいけないと思いました。東京や大阪とは違い、アジアの中の福岡、九州の中の福岡と考え、飛び抜けていき突き抜けていかなければいけないまちであります。他のまちに遠慮することなく、どんどん福岡が発展していき、それがあって初めて福岡県も、九州全体も活性化していくと思います。
それはここ10年間JCを見ていても、より発言力が増し、JCに対する期待度が更に高くなったように思えます。若い人の声というものが、非常に期待されるようになっています。だからこそ、JCならではの色々な提言であり発言であり、どんどん言葉に出して行動していただきたいと思います。当時よりも今の方がさらにJCメンバーの発言に対して、周りの注目度が高くなってきている事を感じます。

自信を持って、「JCならではの」「JCだからこそできる」「30代の若者だからこそできる」行動や発言や色々な事をやって欲しいと思います。

現役メンバーにとっての最終の目的と言うのは個人の自己研鑽、まちづくりを通してメンバーが育っていく。メンバーが育っていくことがまちにとってプラスになる。事業への感動を通して、汗をかいて、自分を磨いてもらう。そんな活動を現役メンバーの皆様に行っていただきたいと思っております。

2003年度　主な事業内容　Main business in 2003

○2月5日　「トリオ会議」　西鉄グランドホテル

○4月18日　「4月度講師例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:飯野謙次氏（失敗学会）

○5月14日～15日　「広島定期交換会」　エクセル東急ホテル

○5月19日　「5月度狂言体験例会」　住吉神社　能楽殿　狂言講師　野村万禄氏

○7月12日～15日　「博多祇園山笠体感事業」　櫛田神社及びその周辺

○7月17日　「7月度例会」(英語だョ!全員集合)　福岡国際会議場　国際会議室

○8月18日　「8月度例会:親子で見ようプロ野球　例会」　例会一部　シーホークホテル&リゾート宴会場
例会二部　野球観戦:福岡ドーム　外野指定席

○8月30日　「2004年ASPAC セブ大会VIPランチョン」　フィリピン　セブ島　（大会サポート委員会　片山委員長）

○10月10日～12日　「やすらぎ荘招待事業」（JCキャンプ）やすらぎ荘支援事業

○10月18日　「10月度例会」　第一部　ベイサイドプレイスベイサイドホール
第二部　博多うまかもん市場

○11月6日　世界会議コペンハーゲン大会VIPランチョン　コペンハーゲン、ラディソンSASスカンジナビアホテル

○11月20日　「11月度講師公開例会」〈小さな会社☆儲けのルール　実践編〉
福岡国際会議場　国際会議室　講師:栢野克巳氏

○12月22日　「2003年度卒業生を送る夕べ　～感謝～」　グランド・ハイアット・福岡

2003年の世界と日本　The world and Japan in 2003

3月　・宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」が第75回アカデミー賞長編アニメ映画賞を受賞
・国際刑事裁判所がハーグ（オランダ）に設置される

4月　・東京ディズニーランドが開園20周年を迎える
・国際ヒトゲノム計画によってヒトゲノム解読の全作業を完了

5月　・プロスキーヤーの三浦雄一郎、世界最高齢（70歳）でのエベレスト登頂に成功
・個人情報保護法が成立する

6月　・Windows Server 2003が発売される
・有事関連法（武力攻撃事態対処関連三法）が成立する

7月　・世界水泳選手権100m平泳ぎで北島康介が世界新記録で優勝
・「ファミリーコンピュータ」が発売されてから20周年

8月　・住民基本台帳ネットワークシステムが本格的な稼働を開始する

10月　・日本シリーズで、ダイエー（現ソフトバンクホークス）が阪神を破り4年ぶりの日本一に輝く

11月　・ユネスコが第2回「人類の口承及び無形遺産の傑作（世界無形遺産）」28件を宣言する
日本からは人形浄瑠璃文楽が選ばれる

2月　50周年

京都会議

フレンズ対談

ジャパンナイト

ロム懇親会

世界会議キャラバンIN佐世保

第3エリア合同例会

2004年の記憶

第52期　社団法人福岡青年会議所第52期理事長　井上　博行

“つどいのまち福岡”世界と未来の「懸け橋」となろう～九州JCで創る世界会議～

ごあいさつ

この度、社団法人福岡青年会議所が創立60周年を迎えられ、現役会員のご尽力のもと盛大に記念式典並びに懇親会が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。また、60年に渡りその時代において、諸先輩方が叡智と勇気と情熱を持って、地域の振興発展にご努力されて来られたことに深く感謝と敬意を表します。私自身は1995年に入会させていただき2004年に卒業を迎えるまで、10年間福岡青年会議所にお世話になりました。こども会議10周年を経験させていただいたり、松山日本JC会頭のセクレタリーをさせていただいたり、会員拡大で福岡JCについてどう伝えるかを学んだり、事業系・政策系・交流系の委員会にも携わることができました。その時々の先輩方の発想力・実行力・指導力・統率力に驚き、憧れ、学ばさせていただいた10年間でした。世界会議にはLOMの総会での誘致決議より4年の間、国内BID権獲得、国際BID権獲得、九州内LOMの副主管承認など開催までの流れを理事長の近くで、または九州地区協議会の役員として係わらせていただきました。2004年度は11月の世界会議開催まであとは実行に移すのみという年でありました。世界会議という巨大な事業は福岡JCメンバーだけでは不可能な事業でした。『九州JCで創る世界会議』として、九州地区協議会、九州内各ブロック、各LOMに実行委員会に所属していただき、共に作り上げていただきました。また、歴代理事長をはじめとする福岡JCシニアクラブの皆様に、セネタープログラムや日本JC大同窓会などのシニアプログラムにご協力をいただきました。特に誘致決議後に卒業された先輩方にはシニアプログラムの計画より当日の事業実施までご尽力いただきました。当時の現役会員は、まず自らが集い、色んな方を巻き込み、その相手の立場に立って考え行動することができれば、垣根を越えて一つになり、大きな事業を成し遂げることができるということを体感することができたのではないかと思います。現役会員の皆様も地域振興発展に向けて、小さくまとまることなく大きな目標にチャレンジを続けて行かれ、今後ますます地域より必要とされる団体であり続けてくれますことを切望いたします。

2004年世界会議

2004年度　世界会議実行委員長　倉重　一男

この度、創立60周年を迎えるにあたり誠におめでとうございます。

これまで福岡の未来のために、JCしかできない活動・事業を通して、友情・奉仕・修練の3信条のもと、JCがリーダーとなるべき人材の育成を自然にできる団体であると卒業して改めて実感しています。私は2004年第59回国際青年会議所世界会議福岡大会の無事終了とともに卒業いたしました。改めて多くの皆様方のご支援、ご尽力そしてご協力を頂き、大成功に終えることができましたことを心より厚く御礼申し上げます。それまで、国際と言う場所には縁が遠かった福岡JCでしたが、2000年LOM内決議後、一気に突き進んだことを思い出します。訳も分からずとにかく「FUKUOKA」をPRするため、アジア・ヨーロッパ・アメリカ・南米・アフリカなど世界約30地域、毎月どこかで開催される国際会議に参加し、イングリッシュ博多弁を武器に、気づけば2002～04年の間に世界3周させられていました。その時に思ったことは、「世界に対して福岡の顔が必要だ!」と感じ、誘致から実施までとにかく福岡の気質である「元気」を世界中に発信しようと、積極的に突撃してまいりました。多くの節目となる機会がJCにはたくさんあります。その時、たまたま現役で在籍し、たまたま声がかかって、たまたま活動できる環境にあった、そしてたまたま最後に背中をポンッと押してくれる人がいたことなど、たまたまが重なり、私の人生の中で最大の経験をすることができ、大きな転機となった気がします。この大きな転機となる機会を掴むか、否かは、周りの意見もありましたが、その時の自分自身での大決断が必要であり、試されると感じました。私がもし世界会議実行委員長を受けていなければと思うと、やはり自分自身悔いが残ったでしょう。実際やり終わって感じたのは、私だけこのような経験をするのは本当にもったいないということでした。このような経験は一生に一度しかできないと思うと、このような機会がもっと多くあると他のメンバーも経験することができるのにと思いました。それから、私のモットーは「やったことない役は引き受け、やったことあることは変革する」になりました。是非皆さんも、一生に一度しかできない経験をしてください。その機会は必ずあります。その機会を掴むか、通り過ぎるかはあなたの大きな勇気と決断次第です。せっかく決めたものなら、その機会を楽しみましょう。それが福岡の元気発信です。

2004年度　主な事業内容　Main business in 2003

- ○5月18日　「講師例会　王子先輩をお迎えして」　グランド・ハイアット・福岡　講師:王子英先輩
- ○7月11日～28日　「世界こども会議招聘事業」　福岡市内各地
- ○7月24日　「APCC「We are the BRIDGE フェスティバル」」　福岡市役所ふれあい広場
- ○11月17日～27日　「JCI世界会議福岡大会　サンクスパーティー」　福岡国際会議場
- ○11月21日～26日　「第59回国際青年会議所福岡大会」
- ○11月21日　「開会式」　マリンメッセ福岡　参加人数〈来賓、国内外のJCメンバー及びOB、JCメンバー家族〉4,100名
- ○11月22日～25日　「ナショナル・ナイト」　マリンメッセ福岡
- ○11月23日　「基調講演『Leading with Passion』」　福岡国際会議場
  「記念市民講演」　福岡国際会議場　講師:若田光一氏、安藤忠雄氏
- ○11月26日　「JCI会頭主催晩餐会(GALA)」　マリンメッセ福岡

2004年の世界と日本　The world and Japan in 2004

- 3月　・九州新幹線の新八代～鹿児島中央駅間が開業する
- 4月　・新東京国際空港公団が民営化され,成田国際空港株式会社になる
- 5月　・裁判員法が成立する
- 6月　・巨人の清原和博一塁手が、対ヤクルト戦(神宮球場)で2000本安打を達成する
- 7月　・「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産(文化遺産)に登録される
- 8月　・北京のサッカーアジアカップで日本が優勝
  ・アテネオリンピックが開幕する
- 10月　・ローマで欧州憲法条約が締結される
- 11月　・アメリカ合衆国の大統領選挙で現職のブッシュ氏が再選される

マカオセネターゴルフ

香港シティ周年記念式典

アスパック

クマールJCI会頭公式訪問

九州地区協議会 世界会議キャラバン

フィンランドJC公式訪問

オランダJC訪問

12月20日　送る夕べ

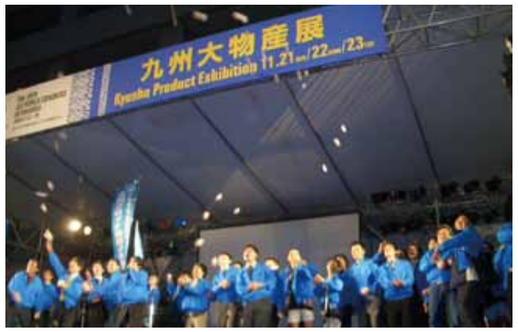
7月24日　APCC「We are the BRIDGE フェスティバル」

We are the BRIDGE.

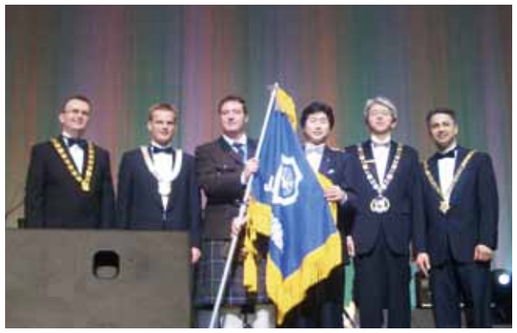
JCI

JCI

The 59th JCI World Congress
Entrepreneurs in Action
誓功
JCI
Fukuoka 2004


九州大物産展
Kyusha Product Exhibition

本部団 解団式
Japan Jaycees Closing Ceremony



2005年の記憶

第 53 期　社団法人福岡青年会議所第 53 期理事長　宮﨑　鐘子

Get together！『集い～交わり～結ぶ』
行動する元気な福岡JCの確立

ごあいさつ　Greeting

社団法人福岡青年会議所創立60周年、誠におめでとうございます。

私は創立40周年の年に福岡青年会議所と出会い、入会し、そしてその後20年の時を経て、今ここに創立60周年のご挨拶文を書かせて頂けることを心より光栄に思っております。

創立以来今日までの60年間、福岡青年会議所はその時その時代を捉えながら「英知と勇気と情熱」を持って、愛する我がまち福岡に沢山の歴史を刻み込んできたといっても過言ではありません。

私が理事長に就任した2005年度は前年度に開催されたJCI世界会議福岡大会の御礼まわりの年として、国内外の青年会議所を訪問し、ひとりでも多くの仲間に感謝の念を伝えることが大きな使命の年でした。

思い起こせば40数年前に田中丸善司歴代理事長が、「いつの日か後輩たちがJCI世界会議を福岡で開催することを夢みて」と、この言葉を後輩に託され、そして多くの先輩方がその想いを引き継ぎ、全員一丸となって2004年にJCI世界会議福岡大会を見事にやり遂げました。また同時に「九州JC」という大きな存在も、この世界会議誘致活動を通して新たに生まれました。国内外の各地を御礼訪問する中で、いつも九州JCの仲間が一緒にいてくれる心強さ、頼もしさがあり、世界会議を終えた後も「九州はひとつ」の絆が確固たるものであることを実感したことが昨日のことのように思い出されます。また、誘致活動中は「FUKUOKA」のフレーズをなかなか上手く発音してもらえなかった国も多々ありましたが、JCI世界会議福岡大会終了後の御礼訪問の際には、はっきりと「フクオカ」と発音していただき、「FUKUOKA」が認知されたと実感できた瞬間でありました。この年の御礼まわりの訪問は、JCメンバーの絆の強さや、国外における「FUKUOKA」の認知度の向上や、これまでの福岡青年会議所の歩みの重さを再認識できた年でありました。

また、2005年はもう一つ私にとって決して忘れることのできない大きな出来事がありました。就任して間もない3月20日に起こった西方沖地震です。この震災に際して、被災地、被災者に対する支援活動を行うJCメンバーの姿は、世界会議を通じて培った仲間の絆、結束、我がまち福岡を想う強い気持ちを抱いた大変頼もしく且つ温かいものでした。人は人によって支えられ活かしあって生きていることを、メンバーそれぞれがあらためて実感できた出来事でもありました。

そして、この震災を通して、行政、地元企業、市民の皆様と支援活動を行う中、福岡青年会議所に対する期待の大きさも実感しました。それは「変化を恐れない、情熱を持ったひたむきな若き集団」として活動する福岡青年会議所の本来あるべき姿への期待であると感じました。

最後に、この創立60周年を迎えるにあたり、この言葉を以て結びとさせて頂きます。

『今年、ロンドンオリンピックでの日本の選手たちの「ひたむきな姿に多くの人々が感動しました。また、東北の被災地の子どもたちの「ひたむき」に生きる姿に、多くの人々の心が動きました。「動く」JAYCEEの皆さん、こんな時代だからこそ「英知と勇気と情熱」を持って、「ひたむき」に・・。ひたむきさは人の心を動かすということを信じて。』

2005年度　主な事業内容　Main business in 2005

○1月22日　京都会議　京都市「祇園円山かがり火」

○3月～　西方沖地震に関して「福岡ブロック協議会連携のもと支援活動」

○4月～5月　西方沖地震支援、復興活動関連「元気ばい福岡」運動を行政、七社会と連携のもと行う

○4月16日～17日　「九州地区JCサッカー選手権大会」　雁ノ巣球技場、コカ・コーラ球技場

○4月19日　「親子関係からみる教育のあり方に関する事業（4月度講師公開例会）」グランド・ハイアット・福岡
講師：師範塾理事長　木村貴志氏

○5月26日～29日　ASPAC・マカオ大会　中華人民共和国マカオ特別行政区

○6月20日～8月31日　「九州はひとつ」を実現する事業　東九州自動車道早期実現のための署名活動
経済団体訪問および福岡ドーム、津屋崎海岸、他　『190万人署名』

○6月26日～29日　香港JC　24周年記念パーティー　中華人民共和国　香港特別行政区

○7月23日　会頭選挙　サマーコンファレンス　名古屋市「炉端DINNING　BAR　てしごと家　金山店」
「We are the BRIDGE フェスティバル2005 supported by LOTTE」　福岡市役所前ふれあい広場

○9月26日～10月28日　「The Sunflower Project 1」居酒屋花ざかり冷泉店

○10月1日　全国大会　姫路市「北京閣　本館」世界こども会議褒賞受賞

○10月8日～10日　やすらぎ荘招待事業　社会福祉法人　夜須高原福祉村　やすらぎ荘

○10月24日～30日　世界会議　オーストリア・ウィーン　世界こども会議褒賞受賞

○11月3日　「更なるアジアの窓口　福岡」を実現する事業　福岡市中央市民センター

○11月12日　「福博の伝統文化伝承事業」―ふれてみらんね！福博文化の「夢産民」を育てるばい！―
旧博多小学校跡地、承天禪寺、寺町界隈

○12月20日　「卒業生を送る夕べ」　ホテルニューオータニ博多

2005年の世界と日本　The world and Japan in 2005

2月　・中部国際空港（愛称セントレア）が開港する

3月　・愛知万博（愛称，愛・地球博）が開幕する

4月　・個人情報保護法が施行される
・ペイオフが完全施行される

7月　・知床の世界遺産（自然遺産）登録が決定する

8月　・ハリケーン「カトリーナ」がアメリカ合衆国南部に上陸する

9月　・第44回衆議院議員総選挙で，自民党が圧勝する
・小泉純一郎自民党総裁が第89代内閣総理大臣に指名される

10月　・郵政民営化関連法案が成立する

11月　・歌舞伎がユネスコの世界無形文化遺産に登録されることが決まる

12月　・日本政府はアメリカ・カナダ産牛肉の輸入再開を決定する

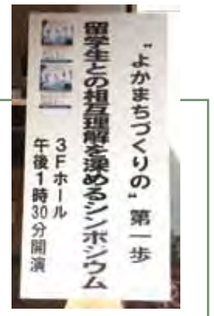
4月19日　親子関係からみる教育のあり方に関する事業

5月　第19回ノーサイドクラブ全国大会in福岡

7月23日　We are the BRIDGE フェスティバル2005 supported by LOTTE

4月16日　九州地区JCサッカー選手権大会

9月～10月　The Sunflower Project



11月3日　更なるアジアの窓口福岡を実現する事業

11月12日　福博の伝統文化伝承事業

2006年の記憶

第54期　社団法人福岡青年会議所第54期理事長　**小池　勝利**

「夢動力」
大きな、大きな夢を描き、一人ひとりの個性が光り輝く魅力あふれる団体となり、
日本一、地域を愛する、そして愛される青年会議所を目指して

ごあいさつ　Greeting

『　萬　燈　行　』

内外の状況を深思しましょう
このままで往けば、日本は自滅するほかありません
我々はこれをどうすることも出来ないのでしょうか
我々が何とかするほか無いのです
我々は日本を易（か）えることが出来ます
暗黒を嘆くより、一燈を付けましょう
我々はまず我々の周囲の暗を照す一燈になりましょう
一人一燈なれば、萬人萬燈です
日本はたちまち明るくなりましょう
これ我々の萬燈行であります
互いに真剣にこの世直し行を励もうではありませんか

安岡正篤

青年会議所では、「異なりを認めながら一つを生きる」それぞれ一人ずつは、置かれている立場も環境も考えも役割も少しずつ違いはありますが、組織は同じ理念、同じ目的に向かって突き進みます。そこで重要になるのがやはりJC理念の共有であると思います。

60周年を迎えるにあたり、まずはJCの理念をもう一度みなさんで共有したうえで、今後のJCがどうあるべきかを見定めるよい時期が来ていると思います。みなさんは、この変革の時代をもっと楽しんでください。そしてもっとアグレッシブに行動するのです。みなさんが一番理解していると思いますが、行動しなければ何も生まれないのです。また、この機会に福岡青年会議所の中・長期ビジョンを明確に打ち出し、行動を起こし続ける。このサイクルをコツコツ積み重ねていけばJCが理想とする社会が必ず実現できることでしょう。福岡の未来の為に、こども達の未来の為に、これからのみなさんのご活躍に期待します。

2006年度　主な事業内容　Main business in 2006

○2月16日　「2月度公開例会」　福岡市民会館　　講師:水谷修氏

○3月28日、6月14日、9月12日、11月28日　「子どもたちの未来を考え地域社会との連携を意識した事業」　佐世保学園

○4月14日　「4月度例会　2016年目指せ福岡・九州オリンピック」都久志会館
パネリスト:塚田芳樹氏、中森康弘氏

○5月17日　「5月度講師例会」　エバーグリーンマリノアホテル　講師:吉田安政氏

○6月11日　「夢を掴め　「情熱CHA輪PIC号」」
中ノ島公園、福岡市役所西広場より出発、岸記念体育館内JOCに到着

○6月15日　「6月度短縮例会」　ホテルニューオータニ博多
「オールメンバーの集い『クロス・ドリーム』」　ホテルニューオータニ博多
「トリオ会議」　ホテルニューオータニ博多

○7月19日　「7月度JCI公認トレーナーコーチング例会」　ホテルニューオータニ博多　講師:中村泰彦先輩

○9月9日～10日　「セミナーショーケース福岡」　福岡国際会議場

○10月6日～11月3日　「歴史と文化を育んだ福岡城　夢の紡ぎ推進運動」
福岡城内、マリノアシティ、天神大丸エルガーラパサージュ広場、福岡市役所西側広場

○10月17日　「10月度講師例会」ホテルニューオータニ博多　講師:中村信喬先輩

○10月27日～29日　「やすらぎ荘JCキャンプ」　やすらぎ荘

○10月30日、12月11日　「夢市民プロジェクト」　福岡市役所

○11月20日　「11月度講師公開例会」　都久志会館　講師:三宅久之氏

○11月23日　「トリオ会議」　釜山グランドホテル中宴会場

○12月10日、17日　「見直そう日本の歴史と精神性」普及活動
「紙芝居　エルトゥールル号の遭難」　博多小学校表現の舞台、旧冷泉小学校

○12月15日　「卒業生を送る夕べ」　ホテルニューオータニ博多

2006年の世界と日本　The world and Japan in 2006

2月　・トリノ（イタリア）で冬季オリンピック開幕
・世界の推計人口が65億人突破

3月　・第1回 ワールド・ベースボール・クラシックが開幕

6月　・FIFAワールドカップ™ドイツ大会の開幕

7月　・アメリカ航空宇宙局（NASA）がスペースシャトル「ディスカバリー号」の1年ぶりの打ち上げに成功

8月　・国際天文学連合（IAU）が惑星の定義の変更を決定、冥王星は惑星から除外されることになる
・iPS細胞（人工多能性幹細胞）の作成が発表される

9月　・安倍晋三氏が第90代内閣総理大臣に指名され、安倍内閣が誕生する

12月　・FIFAクラブワールドカップ2006の開催

5月度講師公開例会

8月 「見直そう日本の歴史と精神性」倫理と道徳の回復を目指して

6月 福岡・九州オリンピック招致決起大会

6月15日 オールメンバーの集い「クロス・ドリーム」

9月 子どもたちの未来を考え地域社会との連携を意識した事業

10月 夢市民プロジェクト

10月 歴史と文化を育んだ福岡城 夢の紡ぎ推進運動

12月15日 送るタベ

2007年の記憶

第 55 期　社団法人福岡青年会議所第 55 期理事長　富永太郎

“愛する者のために、自ら実践する”

ごあいさつ　Greeting

社団法人福岡青年会議所の60周年に際して、心からお祝いを申し上げます。また、これまでの先人たちの努力に敬意を示し、また自分自身がその一員であったことを誇りに思います。

2007年は、JC活動の基軸は、愛する者への思いであるとして、301名のメンバーとともに1年間活動をさせていただきました。2004年に開催した、JCI世界会議福岡大会のお礼に関することも終了し、長年続いた“訳ありLOM”ではない、本当に自由な活動が可能な1年であったと思います。

このあいさつ文を執筆するにあたり、久しぶりに2007年の理事長所信を読み返してみました。すると青春時代を振り返るときに似た、なんとも気恥ずかしい気持ちがふつふつと湧き出てきました。当時、自分の思いをどのように表現すればメンバーに伝わるかと、推敲を重ねて精一杯記述しました。そして、年度途中で、壁にぶつかり悩みを抱えるたびに読み返しながら、組織の長としてメッセージにブレがないようにする拠り所でもありました。しかしながら、理事長を務めさせていただいてからも5年間JCに在籍し、その後も多くの経験を重ねるうちに、さらに成長する機会を得たのだと思います。まだまだ未熟な年代において、精進する日々を積み重ねることにより、成長が可能となります。

シニアの一員として、現役の皆さんの積極的なJC活動は、まさに誇りです。そしてまた、現役がシニアを誇りに思ってもらえるように、今後も自己研鑽を積み重ねていきたいと思います。再開するたびに互いに成長を感じあえる、そのような心地いい緊張感のある関係でありたいと思います。そして、この素晴らしい福岡JCが今後も多くのリーダーを輩出する組織であり続けることを強く希望いたします。

2007年度 主な事業内容　Main business in 2007

○4月17日　「4月度例会～チョットここだけの話ですが、スポーツってどう?～」　ホテルニューオータニ博多
講師:下田功氏

○5月21日　「5月度例会『たった30日でこどもが変わる～食による心と体の改造計画～』」　ホテルニューオータニ博多
講師:大地といのちの会代表　吉田俊道氏

○6月19日　「6月度短縮例会」　ホテルニューオータニ博多
「オールメンバーの集い『愛の同窓会』」
「トリオ会議」

○7月3日～11月19日　「生ごみリサイクル元気野菜作り(心の畑で育てよう　いただきます～ごちそうさま)」
福岡市立照葉小学校

○7月6日　「伝えたいこと～心の宝物を贈ろう」
福岡市内小中学校、平和台陸上競技上、ソラリアプラザ、福岡市役所、柳川市民会館、中村学園大学

○7月17日　「7月度例会　～アジア太平洋こども会議・イン福岡青年会議所～」　海の中道
青少年海の家、つどいの広場及びプレイホール

○7月21日　「We are the BRIDGEフェスティバル2007」　福岡市役所ふれあい広場

○8月1日～28日　「若者JC塾」　福岡青年会議所メンバーの職場

○9月24日　「スポーツ好き!?ぜんいんしゅうごう!!～We are the Player.2007～」平和台陸上競技上

○10月17日　「10月度例会～博多2000年物語～」　ホテルニューオータニ博多　講師:長谷川法世氏

○11月15日　「11月度例会　オッペケペ～世界を駆け抜けた炎の男川上音二郎と貞奴～」　ホテルニューオータニ博多
講師:講談師　神田紅氏

○11月23日　「食卓の向こう側　in　食育フェスティバル(いただきます～ごちそうさま)」　中村学園大学

○12月17日　「卒業生を送る夕べ」　ホテルニューオータニ博多

2007年の世界と日本　The world and Japan in 2007

1月　・防衛庁が防衛省になる

5月　・フランスの大統領選挙決選投票でニコラ・サルコジ氏が当選する
・国民投票法が成立する

6月　・ケネディ宇宙センターから、スペースシャトルアトランティス号が発射

7月　・第21回参議院議員通常選挙で自民党が大敗し、
民主党が参議院の第一党(最多数の議席を占める政党)になる

9月　・月探査衛星「かぐや」の打ち上げが成功する

10月　・日本郵政(JP)グループが発足する

12月　・韓国大統領選挙で李明博(イ・ミョンバク)氏が当選する

5月21日　5月度例会たった30日でこどもが変わる
～食による心と体の改造計画～

8月28日　若者JC塾

7月～11月　生ごみリサイクル元気野菜作り（心の畑で育てよう　いただきます～ごちそうさま）

10月16日　野球大会IN広島

9月24日　スポーツ好き!? ぜんいんしゅうごう!!
We are the player 2007

7月21日　We are the BRIDGE フェスティバル2007

11月23日　食卓の向こう側in食育フェスティバル

アジア太平洋こども会議IN福岡

2008年の記憶

第 56 期　社団法人福岡青年会議所第 56 期理事長　新開裕司

「響く」福岡らしい文化あふれる明るい都市の創造

ごあいさつ　Greeting

福岡青年会議所創立60周年おめでとうございます。

現役の皆さんの日々の活動をいつも頼もしく思っています。

さて、私が理事長を務めさせて頂いた2008年は丁度創立55周年を迎える年でした。

物質的・経済的な面からだけの指標向上を目指すだけでなく、心のゆとり・豊かさにおいても総体的に満足出来る社会環境の構築を目指し、「よかひと・よかまち・よかくらし」の3つのビジョンを掲げた50周年から5年間の中間総括と60周年に向けての指針の確認をする年でした。また、2004年に開催されたJCI世界会議を経験させていただき、国際交流都市・「つどいのまち福岡」の発展の為に歩んできた私たち自身の道程、想いを今一度メンバー全員で共有する事が大切な年でもありました。その為の式典開催や例会委員会と合同で開催させてもらった記念講演についてみんなで毎晩意見を戦わせていた光景が懐かしく思えます。

55周年記念式典に関わっておられた担当の室や各委員会の方々も大変だったと思います。
同時にアジア太平洋こども会議も20周年を迎える記念の年でした。未来につなげてもらいたい福岡の大切な心、文化として捉え積極的に関わりを持たせていただきました。

特別委員会を2委員会設置させていただき、博多祇園山笠をはじめ福岡在籍のプロスポーツチームの方々との交流の経験はこども達にとって良き思い出になっている事と思います。また、2009年九州地区大会主管LOMに立候補させていただくご縁をいただき、限られた日数の中で推薦頂いた福岡ブロック協議会（当時の藤木）会長をはじめ各LOMの皆さんには大変お世話になったことを今でも有り難く思っています。

他にも単年度事業として環境やいじめ、人としての倫理を問いかける事業や公益法人格を目指す団体として先程述べた55周年記念講演会では「榊原英資氏」において頂き、また各種セミナーの開催、研修対象者を広げるためにJCIユニバーシティジャパンの方々にご協力を頂いたことにも感謝しています。いかにして福岡のもつ魅力・文化に付加価値をつけるか!また創造していくか!という課題はこれからも続くテーマだと思います。

現役の皆さんには若さがあります。経験や知識を得ていくことも大切なことですが、時には型にはまらず、元気が取り得の未完成な集団として何事にもチャレンジし必要な事には挑戦していく。未完成の集団だからこその素晴らしさを感じることの出来るJCであって欲しいと思います。

60周年を迎えた福岡青年会議所が今後も、地域から必要とされる、また誰よりも福岡の発展、未来に想いを持っている組織として活躍されることを楽しみにしています。

2008年度　主な事業内容　Main business in 2008

○2月18日　「2月度講師例会」　ホテルニューオータニ博多　講師:「福岡城市民の会」石井理事長、岡部事務局長

○4月17日　「4月度例会―交響―」　八仙閣

○5月16日　「飲酒運転撲滅「0（ゼロ）からの風」上映例会」　大博多ホール

○6月7日～10月15日　「『学園!緑のカーテン』プロジェクト～響け!朝顔のハーモニー～」
当仁小学校、和白小学校、吉塚小学校、高取小学校、田島小学校、金武小学校、横手小学校

○6月17日　「6月度例会　「アジア太平洋こども会議in福岡」過去、現在、未来・・・」　ホテルニューオータニ博多

○6月28日～7月13日　「響けオッショイ!世界のこどもたちに～we are the osshoi 2008」
中村学園大学、海ノ中道青少年の家、福岡市役所及び中洲西大橋

○7月17日　「7月度講師例会」　ホテルニューオータニ博多　講師:「福岡・自然流健康ダイエット教室」瀬野文宏先生

○7月21日　「こども会議20周年記念交流イベント　～響きあう!我ら地球市民!～」　福岡国際センター

○9月6日　「60周年への展望『響く。ここから生まれる明日への創造』」　ホテルニューオータニ博多
「55周年記念式典・懇親会」　ホテルニューオータニ博多
「トリオ会議」

○9月27日　「こどもスポーツイベント　We are the Players 2008!スポーツを遊ぼう!」
さわやかスポーツ広場及び香椎浜球場

○10月16日　「10月度例会」　住吉神社内能楽堂　講師:福岡青年会議所OB横田先輩、橘家園太郎師匠

○10月17日～19日　「やすらぎ荘JCキャンプ」　やすらぎ荘

○11月1日　「Learning by doing!響きあおう!」　福岡商工会議所

○11月15日～16日　「命はまだ輝き続ける事業『生命のメッセージ展』　『ミュージカル　ハッピーバースディ』」　都久志会館

○11月28日　「11月度公開例会　創立55周年記念講演～新しい国のかたち～」都久志会館　講師:榊原英資氏

○12月16日　「卒業生を送る夕べ」　ホテルニューオータニ博多

2008年の世界と日本　The world and Japan in 2008

3月　・ロシア連邦の大統領選挙でメドヴェージェフ第一副首相が当選する

4月　・後期高齢者医療制度はじまる

7月　・洞爺湖（とうやこ）サミットが開幕する

8月　・北京オリンピックが開幕する

9月　・麻生太郎氏が第92代内閣総理大臣に指名される

10月　・下村脩（しもむらおさむ）ボストン大学名誉教授の
ノーベル化学賞受賞が決定する
・円高が急速に進み、13年ぶりに1ドル＝90円台となる

11月　・アメリカ合衆国大統領選挙で、バラク・オバマ民主党候補が当選する
・裁判員候補者名簿に登録された人への通知書発送がはじまる

12月　・日本とベトナムが経済連携協定（EPA）に署名する

1月度例会

仮入会オリエンテーション切幡寺（篠栗）

5月22日　広島定期交換会

7月13日　響けオッショイ

6月～10月　緑のカーテンプロジェクト

「こどもスポーツイベント
We are the players　2008!スポーツを遊ぼう」

9月6日　55周年記念式典・懇親会

11月15日～16日　「命はまだ輝き続ける事業」『生命のメッセージ展』『ミュージカル ハッピー バースデイ』

7月21日　こども会議20周年記念交流イベント

2009年の記憶

第 57 期　社団法人福岡青年会議所第 57 期理事長　大村　光

All is One,One is All.
ひとつの意思とひとつの勇気。
それをもつ者が集まれば、世界は面白いほど変化していく

ごあいさつ　Greeting

　このたび社団法人福岡青年会議所の創立60周年が関係各位のご支援とご協力により、ここに迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。

　さて、私が理事長を務めさせていただいた2009年では、九州の同志が一堂に集う「九州地区大会」を主管させていただき、日本国内ではどこよりもアジア諸国に対し物理的に距離が近いという私たちのアドバンテージをフルに活用しながら、将来「九州」という広域的地域としていかに私たちがアジアと向き合い、文化的交流を深め、またビジネスチャンスを掴み取ることができるのか、またしかし一方では、真なるグローバル化とは、己の「根」を知らずして達成しうるものでは決してなく、日本人として、その「根」を意識しながらいかに生き、またいかにして次世代の「根」を育んでいくのか、以上のようなテーマを掲げ、様々なフォーラム等を実施し大成功をおさめることができました。

　また、これに合わせる形で実施した「NAKASU JAZZ」。このイベントは、主たる運営機能を中洲町における地域の人々へ徐々に移しながら受け継がれ本年ではや開催四回目。一般来場者数も延べ85, 000人を数える地域住民と福岡青年会議所との共同体によって運営される九州の一大イベントに成長いたしました。私にとってこれらの出来事は、ひとえに福岡JCメンバーの豊かな想像力と、それを支える地域の人々の温かさ、また福岡・博多人の元来持つその自由かつ闊達な気質によるところが大きいと思っていますし、そのような環境で青年会議所に携わることができたことを今となっても大変誇りに思っています。

　私は、そもそも青年会議所の運動は、溢れんばかりの情熱をもった若者達が、社会の既存の価値を疑い、それらを突き抜けることにより、社会価値の総面積を押し広げ、新しい未知の可能性を創造していくことにこそあると信じています。

　今、こうして60周年という節目の年を迎えるにあたり、福岡青年会議所のメンバー一人ひとりが、その社会的使命を身にまとい、全身全霊で青年会議所運動に邁進されることにより、福岡・九州更には日本が更に発展し、明るい豊かな社会の実現に寄与されることを心より祈念申し上げます。

2009年度　主な事業内容　Main business in 2009

○2月18日　「2月度公開例会」　ホテルニューオータニ博多　講師:北川正恭氏

○4月16日　「4月度講師公開例会」　ホテルニューオータニ博多　講師:占部賢志氏、山口秀範氏

○5月20日　「5月度例会　『建てるものは“夢”目指すは“無限の可能性”』」　ホテルニューオータニ博多　講師:佐々木雄三氏

○6月17日　「6月度例会」　ホテルニューオータニ博多
「オールメンバーの集い」「トリオ会議」

○6月21日～8月28日　「徳育のス･メ　ドリカムキッズ･キャンパス」　光薫寺、福岡市内の小学生が集まる団体様の会場

○7月17日　「7月度公開例会」　ホテルニューオータニ博多　講師:武田邦彦氏

○8月8日　「8月度ファミリーレクレーション例会～マグロがツナぐ夏」　ベイサイドプレイス～能古の島

○8月28日～30日　「九州地区大会2009in福岡」　福岡国際会議場他

○8月29日　「九州地区大会2009in福岡　メインフォーラム」　福岡国際会議場
コーディネーター:江口克彦氏、アシスタント:武藤麻美氏
講師:中田宏氏、新浪剛史氏、唐池恒二氏、ジグメ･ティンレー氏、ペマ･ギャルポ氏
「徳育のス･メ　教育再生タウンミーティング」　講師:八木秀次氏、橋下徹氏
「NAKASU　JAZZ　NIGHT 2009」　福岡市博多区中洲大通り
「大懇親会」　福岡市役所　ふれあい広場

○8月30日　「九州地区大会2009in福岡　大会式典」　国際会議場　講師:孫正義

○10月9日～11日　「やすらぎ荘JCキャンプ」　やすらぎ荘支援事業

○11月13日　「11月度例会　『目覚めよ!美しき日本人。一闘うコラムニスト勝谷誠彦氏が語る』」　ホテルニューオータニ博多
講師:勝谷誠彦氏

○12月16日　「卒業生を送る夕べ」　ホテルニューオータニ博多

2009年の世界と日本　The world and Japan in 2009

1月　・バラク･オバマ氏が第44代アメリカ合衆国大統領に就任

3月　・ワールドベースボールクラシックで日本が優勝

5月　・裁判員制度がスタート

6月　・歌手のマイケル･ジャクソンさんが急死

7月　・日本で46年ぶりに皆既日食が観測
・若田光一さんが宇宙から4か月半ぶりに帰還

8月　・全国初の裁判員裁判が始まる
・衆議院総選挙投開票　民主党が歴史的勝利

9月　・民主党･鳩山代表が第93代内閣総理大臣に決まる

10月　・オバマ大統領のノーベル平和賞受賞が決まる

12月　・宇宙飛行士･野口聡一さんが宇宙長期滞在へ

2月6日　九州地区大会キャラバン

6月17日　トリオ会議

8月28日　九州地区大会

6月23日　「NAKASU JAZZ NIGHT」協力依頼

6月17日　オールメンバーの集い

8月29日　NAKASU JAZZ 2009

6月23日　広島定期交歓会　ゴルフ

6月22日　広島定期交換会

徳育のスゝメ　ドリカムキッズ-キャンパス

8月8日　ファミレク～マグロがつなぐ夏

8月3日　地区大会PR(KBCにて)

7月27日　We are the BRIDGE フェスティバル2009

12月16日　卒業生を送る夕べ

2010年の記憶

第58期　社団法人福岡青年会議所第58期理事長　大山 哲寿

一以貫之～高い志と熱い情熱をもって～

ごあいさつ　Greeting

福岡青年会議所、創立60周年誠におめでとうございます。

私は16年間、福岡青年会議所に在籍致しました。青年期の殆どの時間を福岡青年会議所と共に過ごしてまいりましたが、本当に沢山の方々との出会いを頂き、普段では体験することのできない経験を通じて、多くの感性を磨くことが出来たことが、私のかけがえのない財産です。

入会のきっかけは、15歳の時に初めて知った「アジア太平洋こども会議」。大人になった時に、今一度携わってみたいと思い、私は福岡青年会議所の門を叩きました。それ以降、様々なひとづくり・まちづくりの事業に関わってきましたが、その中で大会誘致から運営まで係わった「JCI世界会議福岡大会」「日本青年会議所九州地区福岡大会」が特に印象的でありました。

理事長時代には、諸先輩方が福岡の未来のために、長きに亘り行ってきた活動や想いをいまの時代にそった形にチェンジして発信出来れば、とのことから【アジアに開かれたまちFukuoka】をコアとして、3つの事業をシナジーさせる事により、一層のインパクトを与えたいと心掛けました。

福岡市民1万人へ街頭アンケートを行い、それを元に福岡のまちの30年の夢溢れるビジョンを福岡の有識者や学生に直接意見を求めて提言書を作成し、TVや新聞や街頭ビジョンなどを用いて広く発表を行った「アジア交流首都宣言」。今では、博多山笠・博多どんたくに続く、福岡の新しい誘客コンテンツとして成長した「NAKASU JAZZ」。

「Tour de Fukuoka」では、観光庁のインバウンド事業として韓国をはじめ国内外から多くの方々に自転車を通して、福岡のまちを楽しんで頂き、そして今後の自動車・自転車・歩行者のすみ分けの部分でも新たな提言が出来たのではないかと思っております。

最後になりましたが、貴重な経験をさせて頂いたことを心より感謝申し上げますと共に、福岡青年会議所の益々の発展を祈念しております。

2010年度　主な事業内容　Main business in 2010

○2月17日　「2月度講師例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:林達夫氏

○4月14日　「4月度講師公開例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:西村晃氏

○6月16日　「6月度例会」　グランド・ハイアット・福岡
「オールメンバーの集い　～57年の歩み～」　グランド・ハイアット・福岡
「トリオ会議」

○6月27日　「真の国際人育成プログラム」　八重洲博多ビル

○7月20日　「7月度講師公開例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:溝畑宏氏

○8月18日　「8月度講師公開例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:金子哲雄氏

○8月27日～28日　「NAKASU　JAZZ 2010」　貴賓館前特設ステージ、清流公園特設ステージ、中洲中央通り内特設ステージ

○9月1日　「アジアに開かれた福岡のまちづくりについての公開討論会」　アクロス福岡
田村馨氏、ニック・サーズ氏、大山哲寿氏　　司会:中島浩二氏、細谷めぐみ氏

○9月3日　「提言書『アジア交流首都宣言』を発信」　福岡市役所

○10月9日～11日　「やすらぎ荘JCキャンプ」　やすらぎ荘支援事業

○10月20日　「10月度講師公開例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:田母神俊雄氏

○11月13日　「11月度スポーツ例会」　舞鶴公園球技場

○11月20日　「ビジョン策定セミナー　～よか街よか企業は揺ぎ無いビジョンから～」　博多グリーンホテル2号館
講師:玉木康裕氏、溝口薫平氏、渕上順一郎氏

○11月28日　「Tour de Fukuoka 2010　～トップランナーシティFUKUOKAがアジアの未来を創る～」
アイランドシティ、ベイサイドプレイス博多、市内各所

○12月15日　「卒業生を送る夕べ　～希望～」　グランド・ハイアット・福岡

2010年の世界と日本　The world and Japan in 2010

1月　・沖縄・名護市長選挙で基地移設反対派の稲嶺進氏が当選

2月　・カナダでバンクーバー冬季オリンピックが開幕

3月　・ワシントン条約会議が開幕　大西洋クロマグロの取引規制が焦点に

4月　・ワシントンで核セキュリティーサミットが開催

5月　・中国で上海万博が開幕

6月　・南アフリカでサッカーワールドカップが開幕
・民主党党首に菅直人氏　菅新内閣が発足

10月　・ノーベル化学賞に北海道大の鈴木章名誉教授と米・パデュー大の根岸英一特別教授
・羽田空港新国際線ターミナルが開業

11月　・アジア太平洋経済協力会議（APEC）が横浜で開幕

1月18日　新春例会

2月17日　2月度講師公開例会

4月14日　4月度講師公開例会

5月16日　ファミレク

8月27日　NAKASU JAZZ 2010

6月21日　APCC チャリティーゴルフ

10月9日　やすらぎ荘支援事業

11月13日　スポーツ例会

12月17日　送る夕べ

11月28日　Tour de Fukuoka 2010

2011年の記憶

第 59 期　社団法人福岡青年会議所第 59 期理事長　**長沼　慶也**

～突破～ 既成概念を破り、変革と挑戦の姿勢をダイナミックに

ごあいさつ　Greeting

60周年を迎えるにあたり、まずは創立から今日に至るまでの長い歴史を築きあげてこられた先輩諸兄に感謝申し上げます。これまでの多くの功績によって大きな信頼を創りあげていただいたお陰をもって、現在の福岡JCが、大きなビジョンを描き、自由な創造力で福岡の明るい豊かな社会づくりに奔走できる環境下にある事は云うまでもありません。さて、個人的にJCを振り返り思い出深い経験でいうとオリンピック誘致です。50周年の提言において「九州オリンピック」を打ち出し、2004年の世界会議を終え、次はオリンピックだという風が吹き2005年に九州地区協議会にオリンピック誘致検討委員会が設けられ、その委員長を拝命したのです。当時は誰しもが「オリンピックなんて無理だ」「そんなの夢で終わる」と冷やかされたものでしたが、その年の5月に当時の市長である山崎広太郎先輩が立候補を検討すると発信されました。その後、正式に立候補し、最終的に「福岡VS東京」という構図となり、2006年8月末のJOC総会まで熱い戦いが繰り広げられました。行政、経済界、各諸団体によって構成された「福岡・九州オリンピック招致推進委員会」の事務局長を拝命し、招致活動から実施計画にまで携わらせていただく貴重な経験をさせて頂きました。残念ながら結果は負けてしまいましたが、その逞しい福岡市の動きが賞賛され、NEWS　WEEK（米）では世界で最もホットな10都市に選定されました。その要因は首都の東京に真っ向から勝負に挑む力強さというものでした。このように国内のみならず世界へ福岡という都市力を発信できたこと、そして次なる機会で立候補する際はその実績や経験が大きな功をなすことはあきらかです。いつの時代か福岡・九州オリンピックがこの福岡の地で開催されることでしょう。そこで、是非とも現役メンバーの皆様にお伝えしたい事は、この福岡にとって価値ある事であれば、どんな壮大なことでも絶対に出来ると信じて突破していただきたいという事です。私自身、現在でも胸に秘めていますが、招致運動の際にある経済界の方から「すべてにおいて東京は福岡の10倍の規模だ。しかし蟻でも巨象を倒す事ができる。あらゆる角度から百本の矢を打ち込め」「不可能を可能にするのがJCだろ」と激をいれられたのです。その後、出来る事なら何でもやろうと言って、国内で83万名もの署名を集めるなど毎日が事業のような日々でした。その頂いた言葉が理事長を拝命した際のテーマとなった「突破」なのです。理事長をさせて頂いた2011年はご承知のように、東日本大震災が発生しました。福岡青年会議所としてこの震災にどのように向き合い、復興に向けてどのように力添えをしていくのかを考えた時、規模の大きさからみても官民一体となった組織が必要だと感じ、行政機関、経済界との協働でDO For Japan「がんばろう日本」福岡・九州推進協議会を設立いたしました。物資や義援金、災害ボランティア派遣など、官民一体となって活動させていただき、現在もなお継続中です。また、「To the Asia, To the world, We can do it! 」と題した、これからの福岡を担う大学生と留学生で合宿をおこない、エネルギー問題をテーマにグループディスカッションをおこない提言発表をおこなった国際人育成事業。福岡市でアジアを代表する市民マラソン開催の実現へ向け実施した女性限定の「ASIA BEAUTY MARATHON 2011 」。新たな食文化の創造しようと、市内飲食店150店舗の協力を得て、独自の博多どんぶりを生み出した「博多どんぶりフェスティバル」の実施。そして、アクロス福岡を貸し切った「福岡フォーラム」では、大前研一氏をはじめ各界を代表される講師陣をお招きし、「アジアの拠点都市を目指して」をテーマに、多岐にわたるフォーラム、セミナー、アートの祭典をすべての委員会が力を結集し、広く一般市民の皆様に発信することが出来ました。震災後、いつまでも喪に服しても日本は元気になれない。福岡から元気を被災地へ届けよう。そう心に決め、復興支援と地域に対するJC活動の両立を全メンバーで図りました。最後になりますが、個人的にJC活動を通して体感した事ですが、やり遂げることによって大きな成長が得られます。自分の限界を突破する事こそ、個人の成長、ひいては地域の活性化へと繋がるものだと確信しています。歴史が物語るように、時代を動かすのは青年の使命であります。使命感をもってJC活動に励んでください。60周年を心よりお祝い申し上げます。

2011年度 主な事業内容　Main business in 2011

○2月16日　「2月度講師公開例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:間宮吉彦氏

○4月13日　「4月度講師公開例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:鈴木重幸氏

○6月14日　「ビジネスマッチング会」　観山荘

○6月15日　「6月度短縮例会」　グランド・ハイアット・福岡
「オールメンバーの集い」「トリオ会議」

○7月2日～3日　「To the Asia, To the world, We can do it!」　立命館アジア太平洋大学
講師:龍造寺健介氏、河原成美氏、横山研治氏

○7月20日　「7月度講師公開例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:浜野安宏氏

○8月18日　「8月度講師公開例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:小寺圭氏

○8月26日～27日　「NAKASU　JAZZ　2011」
貴賓館ステージ、清流公園ステージ、中洲メインストリートステージ、IPホテルステージ

○9月24日　「福岡フォーラム2011　～アジアの拠点都市をめざして～」
アクロス福岡　各会場（イベントホール、国際会議場、円形ホール、セミナー室）
・「福岡フォーラム2011　～アジアの拠点都市をめざして～　メインフォーラム」　アクロス福岡イベントホール
講師:大前研一氏
・「アジア経済協働推進フォーラム」　講師:吉田和正氏、孫泰蔵氏
・「アジア一魅力あふれるFUKUOKAをめざして」
講師:高城剛氏、中島浩二氏、福井康子氏、高島宗一郎氏、長沼慶也氏
・「ART Feeling ～福岡から“あかり”を～」　ゲスト:日比野克彦氏、出展アーティスト
・「福岡フォーラム2011　子どもたちの無限の可能性を育てよう!」　講師:横峯吉文氏
・「福岡フォーラム2011　経済人育成セミナー」講師:重光悦枝氏

○10月8日　「ASIA　BEAUTY　MARATHON 2011」　大濠公園及び舞鶴公園西広場

○10月13日　「10月度講師公開例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:田中豊氏

○11月16日　「11月度講師公開例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:アントニオ猪木氏

○11月20日　「Tour de Fukuoka 2011」　アイランドシティ、ベイサイドプレイス博多、市内各所

○11月26日～30日　「博多どんぶりFESTIVAL」　ツバメの杜広場、及び博多から天神

○12月14日　「卒業生を送る夕べ　～感謝～」　グランド・ハイアット・福岡

2011年の世界と日本　The world and Japan in 2011

1月　・世界のインターネット利用者は20億人、携帯電話の契約件数は50億件を超えた

2月　・ニンテンドー3DS発売

3月　・東北新幹線「はやぶさ」デビュー
・東北地方太平洋沖地震　&　福島第一原子力発電所事故
・九州新幹線鹿児島ルート（博多駅～鹿児島中央駅）全線開業

4月　・イギリス、ウイリアム王子結婚式

6月　・6月26日～7月17日 ドイツで2011 FIFA女子ワールドカップが開催される
サッカー日本女子代表が初優勝

10月　・国連の推計で世界人口が70億人に達する

1月17日　新春例会

Do for Japan

香港城市青年会議所30周年記念式典

3月26日　東日本大震災支援物資受付

6月6日 がんばろう日本山笠宣伝隊

6月14日　ビジネスマッチング

7月2日　To the Asia,To the World,we can do it!

8月5日　仙台七夕祭り博多どんたく訪問団

9月24日　福岡フォーラム2011

8月26日　NAKASU JAZZ 2011

11月26日　博多どんぶりFESTIVAL

10月8日　ASIA BEAUTY MARATHON 2011

11月20日　Tour de Fukuoka 2011

2012年の記憶

第 60 期　社団法人福岡青年会議所第 60 期理事長　　末松　大和

BEING AND DOING
存在意義を確立し、Leaderとして行動しよう！

ごあいさつ　Greeting

社団法人福岡青年会議所創立60周年、誠におめでとうございます。
私は2004年世界会議の年に入会致しました。世界中のJayceeが福岡に集うという素晴らしい瞬間に立ち会う事が出来、また2009年には九州地区大会を主管し、実行委員長という大役を任せていただきました。
これまでを振り返ってみると、やはり、JCはLeader育成機関であることを痛烈に感じました。
日々の委員会活動において、会社の規模や社会的地位も全く関係ない中で人間関係を築いていくこと。事業において、事前調査を行い、計画を立て実施すること。各種大会において、日本のみならず、世界各地に出掛けて見聞を広げる事…。全てが素晴らしく、得難い経験でありました。全てがLeaderになるための経験であり、JCで得たものを会社に、家庭に持ち帰り、社会に還元していく。そしてそれは、歴史や伝統というものとしてJCに残っていく。このような好循環を生み出すのはJCならではだと思います。
そして理事長を務めさせていただいた2012年は、まさにこれまでのことを実践する一年となりました。京都会議を皮切りに、世界会議台北大会まで全ての大会において過去最大級の参加者で各地を訪れ、また各事業においても、メンバー一人ひとりが積極的に参加し、この福岡がより魅力的なまちになるための第一歩になったことは間違いありません。
最後になりますが、60周年という節目の年を迎えるにあたり、メンバー一人ひとりが自らの存在意義とJCの存在意義を確立し、使命感をもって運動を展開することにより、社会に貢献されることを心よりご祈念申し上げます。

2012年度　主な事業内容　Main business in 2012

○2月15日　「2月度講師公開例会」　パピオアイスアリーナ　講師:村主章枝氏
○4月12日　「4月度講師公開例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:藻谷浩介氏
○5月17日　「5月度講師公開例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:大庭宗一氏
○6月7日～10日　「ASPAC香港大会」
○6月14日　「オールメンバーの集い」　グランド・ハイアット・福岡
○7月21日　「サマーコンファレンス」　横浜市　福岡LOMナイト　日本JC副会頭　富永太郎NIGHT
○8月3日～4日　「キッズモールFUKUOKA2012」　～こども達と地域をつなぐ懸け橋～
○8月25日　「九州地区会員大会2012　INみやざき」　シーガイヤ・コンベンションセンター宮崎観光ホテル
○9月7日～8日　「NAKASU JAZZ 2012」
○9月8日　「福岡ブロック事業（自転車レース）」
○10月13日　「日本JC全国会員大会 北九州大会 FUKUOKA JC LOM NIGHT IN 北九州」
○10月16日　「10月度講師公開例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:榎本一彦氏
○11月10日　「福岡マラソン祭り&FUKUOKA・食・THE・ROOTS」　天神中央公園
○11月14日　「11月度講師公開例会」　グランド・ハイアット・福岡　講師:安里繁信氏
○11月18日～23日　「世界会議」　台北 世界会議LOMナイト in 台北
○12月12日　「卒業生を送るタベ～FINAL　STAGE～」　グランド・ハイアット・福岡

2012年の世界と日本　The world and Japan in 2012

1月　・澤穂希選手　バロンドール受賞
　　・NASAの月探査機グレイルBが周回軌道に到着
3月　・300系新幹線引退
　　・国勢調査局の推計で世界人口が70億人を突破する
4月　・新東名高速道路開通　新東名高速道路御殿場JCT―浜松いなさJCT開通
5月　・東京スカイツリー開業
6月　・大島優子　AKB総選挙1位
7月　・ロンドンにて第30回夏季オリンピック開催
9月　・自民党　安倍総裁誕生
10月　・山中伸弥医学博士のノーベル生理学・医学賞受賞決定
11月　・2012年アメリカ合衆国大統領選挙　バラク・オバマ大統領の再選
　　・任天堂が世界に先駆けて「Wii U」をアメリカで発売
12月　・衆議院議員総選挙（第46回衆議院議員総選挙）。自民党が与党に返り咲いた

1月18日　新春例会

1月20日　京都会議

5月13日　福岡ブロック大会IN糸島

6月14日　オールメンバーの集い

8月3日　キッズモール

8月25日　九州地区会員大会2012INみやざき

9月7日･8日　NAKASU JAZZ 2012

9月8日　福岡ブロック事業（自転車レース）

10月13日　全国会員大会北九州大会

11月10日　福岡マラソン祭り&食ザルーツ

記念対談 世界会議成功の鍵は、福岡JCに脈々と受け継がれる「ホスピタリティ」

第50期理事長 岩本　仁 氏 × 第51期理事長 廣田　稔 氏 × 第52期理事長 井上博行 氏 × 第59回福岡世界会議実行委員長 倉重一男 氏 × 第53期理事長 宮﨑鐘子 氏

世界会議の国際BID権を獲得した岩本仁・第50期理事長、その跡を継いで各LOMをまとめあげ、九州JCの実現を図った廣田稔理事長（51期）。2004年に理事長を務めた井上博行氏（52期）は、実行委員長である倉重一男氏とともに世界会議を成功へと導いた。そして世界会議への協力を感謝して九州、世界各地を廻った宮﨑鐘子理事長（53期）。福岡JC初の大事業のために奔走した4人の理事長と実行委員長、世界会議の裏側と当時の思いを聞いた。

JCに「できるかできないか」の議論は不要

岩本:ここにいるメンバーは、世界会議に何らかの形で関わった5人だけど、そもそも世界会議は僕より前に47期目の新町理事長が決意して、藤野利浩理事長（48期）が、福岡JC臨時総会でJCI世界会議誘致決議をし、井上貴博理事長（49期）が国内BID権を獲得していた。だからもう僕の時には国際BID権をとって、世界会議をやるしかないという状況だったんだよ。そこでどのような世界会議にするかを考え、その年のスローガン「ホスピタリティあふれるまち、福岡をめざして!　May I help you?　夢をかたちに!」にも記したように、「ホスピタリティ」のあるものにしたいと思った。また僕はずっとこども会議を担当していたから、小さい頃から国際社会に慣れ、「May I help　you?」と話しかけられるようでなければ、福岡は国際都市にはなりえないと思ったんだよね。世界会議開催前の福岡JCは一時期、本当に内向きで日本の国内大会ですらあまり積極的に参加してこなかった。それがこの機会に各ブロック、九州ブロックへの出向はもちろん、世界会議やASPACにも参加するようになった。その姿を見て、本当はみんなもそういう機会を求めていたんだと気づいたよ。行ったら行ったで、それぞれに気づきもあったと思う。JCの出向は、普通の旅ではできない経験だからね。僕も強引にいく方だから諸事情を考えずに進めちゃってみんなには申し訳なかったし、最後は福岡を世界にPRするためにチャーター便まで出しちゃった(笑)。でも僕はいつも言うんだけど、JCではできるかできないかを議論するのではなく、やるかやらないかが重要。あのときも、やると決めたんでやるしかなかったんだ。僕の場合、最初は反対もされて心細かったけど、最終的にはみんなが賛成してくれたからチャーター便だって飛ばせたんだ。まあ、僕が副理事長なら反対したよね(笑)。（当時副理事長の）廣田、ありがとな!

廣田:反対してもムダでしたよね(笑)。

世界会議に向けて九州がひとつに

廣田:直前理事長の岩本さんが国際BID権をとりにいく中で福岡ブロックをまとめてくれていたから、僕らは九州JC全体をまとめにいく必要があった。僕は自分自身が動くことでLOMのメンバーにもその姿勢が伝わっていくんじゃないかと思っていたので、自ら九州各地を廻ったんだよね。世界会議が近づいてきて、“やらなきゃいかん”ってところまできていたのもあるけど、大きな目標を掲げてみんなで向かうことで、世界会議はできあがっていったんじゃないかと思う。そういう積み重ねを通して、最終的には福岡ブロックの20LOMに加えて、九州6ブロックの56LOMすべてから副主管の合意をもらえたからね。

井上:この年の九州地区役員の打上げでは、地区大会主管の佐世保JCの山懸理事長に「九州地区大会のために各地を廻った自分より九州を廻っている人に、この場を締めてもらいたい」と言われて、廣田理事長が会の最後のあいさつをなさったんですよね。それくらい当時の九州は世界会議に向けて盛り上がっていたんです。その事実を僕ら後輩が受け止めねばならんという状況でした。そもそも九州JCという言葉は、井上貴博理事長の時代、国内BID権をとりにいくときにできたもの。広島JCが先行していて、次の横浜JCは都市として大きい。普通にやったならば3番手という状況で福岡は手を挙げてしまっている。それをひっくり返すため、九州でやる世界会議にする必要があったんです。実際、福岡一都市で世界各国に対処できるかといったら、そこまでのポテンシャルはなかった。九州全体だから、国際都市としての開催が可能になったんですよ。そしてやるからには福岡のメンバーだけでなく、九州のメンバーにもやりがいがあったと感じてもらえるようにしたかった。その代わり、九州中から無茶苦茶言われましたけど(笑)。「まだ決まらんとか!?」「何を手伝ったらいいか早く教えろ!!」とかね。

廣田:各LOMも世界会議に協力すると決めたら、すごかったからね(笑)。

“福岡の顔”になるという決意

井上:僕らの役割は先輩方が誘致からいろいろ積み上げてきたものを、実行に移すだけだったから不安はなかったんです。ただ会社に行けないので、会社は大丈夫かなとは思ったけど(笑)。

倉重:僕も会社のことは本当にどうなっちゃうんやろ…というのはあったけど。最初に岩本仁理事長から話があったときは、「僕の担当は誘致だけですよ!」って話だったし(笑)。でもJCIの人たちにあいさつに行ったりしているうちに、“顔役”が必要だなって思いました。いわば福岡JCの突撃隊。“日本の福岡”だとわかってもらわなければならなかったんです。それで実際に誘致が決まって、契約書であるBIDブックにサインをしなければならなくなったんですけど、実行委員長の名前を書く欄があって…誰がなるんかなぁと(笑)。

一同:(爆笑)

倉重:この流れのまま僕に来るのかなぁと…。

岩本:それは僕が申し訳なかったんだよね。顔役がころころ変わるわけにはいかないから、僕が理事長の時代に誘致実行委員会の委員長に倉重を指名しちゃったんだ。僕より2つ年下の倉重を委員長に指名したってことは、翌年は世界会議の実行委員長。同時に卒業年度だから理事長はさせんよって言っているようなもんだから…。

倉重:そういう事情もあったから、委員長指名に「ちょっと待ってくれ」と言いましたよ。そうしたら、いろんな先輩方から話が来る。「(委員長は)お前しかおらんったい」とか(笑)。外堀を埋められるわけよ。でも福岡での世界会議はもう二度とないかもしれない。こういうチャンスのときに、たまたまお声がかかったということを前向きに考えた。これまで“国際的なもの”というのはおもしろいなと思っていたけれど、直接携わってはこなかったしね。悩んで悩んで引き受けたから、スッキリした。受けたからには絶対「福岡」という名前を売ってこようと思ったし、僕が“福岡の顔”になろうと思ったんです。

ブロックと地区、日本が手を取り合う組織

井上:それで彼が実行委員長になると決まったから、腐れ縁の僕は応援せないかんし、(理事長を)やらないかんと思っていた。それでも当時、理事長を引き受けるかどうかで悩んでいたら、この人(倉重)が、「やるっちゃろ?」とか聞いてくるし、「まさか逃げんやろ?」と(笑)。

倉重:「もちろんよね?」って(笑)。

井上:理事長になったのは、この人に言われたのが大きかったね!世界会議は代表がJCI会頭で、№2が実行委員長。僕はあくまで一地域JCの理事長でしかないから、委員長と海外に行ってもほとんどセクレタリー扱い(笑)。でも国内は理事長が重視されるから、日本中に頭を下げて回るのが僕の役割だった。

倉重:そこは国内、海外で住み分けしてたね。だから実行委員長の僕は世界中を廻った。世界を知らないからこそ知ろうと思った。3年間で世界を3、4周くらいして、後でこんなに世界中廻っているのは他にいないと言われたよ(笑)。

一同:(爆笑)

倉重:僕は日本の各種大会のキャラバンと同じようなつもりでいて。「キャラバンなら日本中いかないかん。なら、その世界版やろ?」と。だから世界の各種大会にできるだけ顔を出すのが普通だと思っていたんだけど、JCIから「世界3周するやつ、おらんばい!」って(笑)。これを行った後に言うわけよ。でもおかげで世界中に仲間ができたね。実行委員会も、九州中、日本中の仲間を組織として組み込むことを考えた。COCと呼ばれる実行委員会と、LOMとの組織が表裏一体で意思の疎通を図れるように、理事長が組織編制を考えてくれて。実行委員会の中にブロックを入れて、地区を入れて、“ニッポン”を入れた。鹿児島JCの矢野地区会長や日本JC室長で大阪JCの小松常任、横浜JCでJCI世界会議支援委員会の北川委員長は毎回福岡まで来てくれて。その人たちも含めて、すべてひとつの運営側となっていただきました。

“福岡の顔”になるという決意

世界を３周以上めぐって福岡をＰＲ

倉重:実行委員会はでっかい会議室に“ロの字”形式で座り、その周りにオブザーバーがいて。メンバー全員が遠すぎて見えないんよね!

宮﨑:多分100人近かったんじゃないですか?　毎回、議案も30くらいあって!

倉重:その中でもCOCとは何かということと、JCIとの関係についてというような組織論は深く話し合った。そうすることで共通認識が生まれ、組織が表裏一体で動くように落としこんでいったんだ。そういう実行委員会での議案は、JCIの本部があるセントルイスで年に2回行われるJCI理事会の席で僕が報告するんです。理事会では次の会頭が誰かという話も出るので、その会頭候補もしっかり押さえる。また“福岡LOMナイト”で世界中の会員をもてなして、「福岡頼みますばい」というPRを必ずする。これが唯一のPRの場だし、そこに必ず倉重がいるということが大事だったんです。さらにターゲットを絞って、各国で行われている国内大会でもPRしたり。直接足を運ぶことで「(世界会議に)行くよ」と言ってもらえるからね。そのほかの世界会議の中身の作りこみは、表裏一体のLOMの委員長に任せたよ。「ホスピタリティ」を忘れないようにするということは、一致していたからね。晩餐会での食事に世界中の人が食べやすくて温かいものをお出しすることや、世界会議のラベルを貼ったワインを提供するなど、これまでJCに脈々と受け継がれてきた「ホスピタリティ」をさまざまな場面で表すことができたと思う。いろいろトラブルもありましたけど。

一同:(笑)

倉重:当時、三野原事務総長には見えないように問題を収めてもらったりだとか…。自分は公式プログラムに則って動かなければならない立場だったので。それで廣田直前理事長の担当が“アイムソーリーデスク”!　何かあったら、謝っといてください!　アイムソーリーだけお願いしますって(笑)。

廣田:そうそう!　僕はアイムソーリーだけ言えばいいっちゃねって(笑)。

世界会議で生まれた九州JCの団結力

倉重:期間中は本当にいろいろあったけど、みんな最後は、会場となったグランドハイアット前の喫茶店のソファーに寝てたよね。最後の一人が帰るまで帰れんって言って。誰が来てもすぐに対応できるようにね。当時、渉外担当の古賀富彦委員長なんてマイ枕持ってたもんね!　喫茶店のど真ん中でみんな寝とるとよ。「あれいいとかいな?」って思ったけど(笑)。

宮﨑:どうにかしろと言っても、どうしようもなかったんですよ!

倉重:この世界会議では、すべてにおいて「ホスピタリティ」を徹底した。見えないところでは、駐車場をずっと手配してくれていた人や、駅や空港でのボランティアなど。地区・ブロックもみんなで協力してくれてね。「和風旅館　鹿島本館」を“九州の館”として借り切って、宿泊先の不足に対応してくれたり。当時、九州地区会長の矢野さんたちや九州各ブロック全体が福岡JCに協力してくれたことも、恩義に思っている。みんなの協力のおかげで、この世界会議を通して、福岡を、九州を、世界に発信できたんじゃないかなと思うんだ。

宮﨑:だから私の理事長としての使命は、世界会議でお世話になった世界、アジア、日本中の人たちのもとへお礼に廻ることだと思っていました。そんな中、理事長就任3ヶ月目に西方沖地震が起こった。あのとき福岡JCだけではどうしようもなかったところに、福岡ブロックのメンバーが「何かするよ」と集まってくれた。当時避難所だった九電記念体育館で行った被災者への支援活動に、ローテーションを組んで協力してくださったんです。世界会議にはそれぞれ語りつくせないほどたくさんの意義があったと思いますが、この大会を九州全体でやったことのひとつの証が、あのときの団結力や絆だったんじゃないかと思うんです。

九州JCの団結力

福岡JCの力を実感した50周年式典

廣田:現役メンバーは今、60周年の記念日に向けて準備をしているんだろうね。僕がまだまだ自分が理事長と呼ばれるのに慣れていない頃に、JCは50周年を迎えた。式典は島塚実行委員長と現役メンバーが取りまとめ、その内容にもかなり工夫をしてくれてね。あの50周年はほかのLOMにとって、ひとつのロールモデルになったんじゃないかと思うし、メンバーの力量を改めて感じたよ。あのときも全国のLOMの人が来たけど、60周年もいっぱい来るっちゃなか?還暦のお祝いやもんね。

岩本:ほんと福岡JCってすごいのよ、歴代の先輩方が作りあげてきたものが。世界会議のときも、死んでも先輩たちに恥をかかせちゃいかんって思ったもん。いつもみんなで話すんだけど、福岡JCのメンバーはたいしたもんだと思う!世界の中にあってもそう思うよ。これからもメンバーには、国際大会などのチャンスに積極的に挑戦してほしいね。

記念対談 福岡JCを、より有意義な団体に、そして、進化していくリーダーに！

第54期理事長 小池勝利 氏 × 第55期理事長 富永太郎 氏 × 第56期理事長 新開裕司 氏

聞き手　山本恭平・60周年記念委員会副委員長

地域を活性化させるため、まちを、人をリードしてきた福岡青年会議所の理事長たち。日本JCの監事として出向した小池勝利54期理事長に、同じく副会頭として活躍した55期理事長の富永太郎氏。さらに、象徴としての福岡城の在り方を提案した新開裕司56期理事長は、つねに地域に問題提起をし続けてきた。そんな彼らにまちづくりと、リーダーについて話を聞いた。

新開　歴代理事長

富永　歴代理事長

小池　歴代理事長

自ら足を運び、地域の声を聞く意義

小池：俺が理事長の時、福岡城址を有効利用するために、天守閣建築も含めた事業を議論したんよ。その時の委員長は新開でさ。「文献にも載ってないし、福岡城に天守閣なんて無かったんじゃないか」という意見もあったけど、「俺たちが『在る』と言うたんなら、在るんじゃ！」と(笑)。メンバーもがんがん盛り上がってね。みんなあの委員会を誇りに思ってやっていたよな。JCは新しいものを生み出さないかん。無いものを生み出す、ダメと言われているものを突破する、それがJC。当時、その思いを新開に託したら、見事にやってくれたよ！

新開：僕もこの事業に関わるまでは福岡城にはあまり興味がなかったし、県外から知人が来たら太宰府に連れて行くのが普通で、そのことに違和感もなかった。でも住んでいる地域に自分たちの心が詰まった特殊な設備は必要だと思ったし、それが福岡城だという主張も解る。やっぱり海外の人たちは、日本らしいものを見て喜ぶしね。そういう意味でも議論する価値はあると思った。福岡城の史実をよく調べれば鴻臚館もあるから、具体的に天守閣を造るための活動をしてもよかったけれど、いわゆる“ハコモノ”を造ればいいという話じゃないとも思ったんだ。だから、実際に僕らがやったことは、今この地域に住んでいる人たちが福岡城をどのように認識しているかを知り、街づくりに活かしていくことだった。もともと世界会議のときにもヒアリングしていたんだけど、天守閣を建てる、建てないは別として、2006年の「集客交流都市」実現に福岡城のような“象徴”が必要になるんじゃないかと考えたんだ。別に福岡城じゃなくてもいいんだけど、ここに文化遺産があって、地域のみなさんの心が詰まっている、ということに焦点を当てることが、地域の象徴となるようなものが必要だという問題提起になるんじゃないかと。そして、子どもたちはその議論や活動に関わることで、福岡の歴史を学ぶことになるだろうなと。

小池：そういえば、近隣の小学生が福岡城の貼り絵を作ってくれて。何かを感じてくれたんだなと、あの時は感動したね。

新開：実際、地域の人たちは観光客が増えることを望んではいなかったけれど、委員会のメンバーが自分の足で地域の人の声を聞き取りに行くということに意味があったんだ。

小池：いい委員会だったよな。みんな集まってワイワイ、個性派集団でさ。

富永：個性派だけに、衝撃的な議案も結構ありましたね(笑)。

本当に信頼できる仲間に出会える場所

富永歴代は「食卓の向こう側in食育フェスティバル」「伝えたいこと～心の宝物を贈ろう」など、JCの家族をテーマにした事業を展開しました。仕事とJC、そして家族についてはどうお考えですか？

富永：よくどれが一番かなんて話題になるけれど、どれが大事というものではないよね。仕事、JC、家族、どれも質が違うものだから、全部しっかりバランスをとっていかなきゃいけない。会社がうまくいかなくてJCでの活動が厳しくなる場合もあるけれど、そういうときはJCだけじゃなく社会活動を全部一度止めて会社を立て直し、それから社会活動をするべきだと思う。ただ同時に、余裕があるからJCの活動をするというのもまた違うよね。無理をしながらJCをやることで、自分自身も大きくなるものだから。僕は幸運なことに、理事長もさせてもらえたし、日本JCにも出向させてもらえた。それは自分の環境が整っていたこともあるけど、何よりみんなに支えてもらったからできたこと。そういう深い関わりの中では、良くも悪くも人間の本性が見えてくるよね。だからこそ、JCでは本当に信頼できる仲間にも出会えるんだと思う。

新開:確かに。そう言う意味では、JCメンバーは“裸になる勇気”を持たないかんわけですね。

富永:言いたいことは解るけど、新開さんが言うと、うがった見方をされるね(笑)。

小池:そうそう、若い頃新開は、怒りながら全裸になったことがあったな(笑)。あれは最高だった!

新開:ハハハ!そんなこともありましたね。でも裸の付き合いができる人とは、ずっと本当の付き合いができるよね。それと、富永さんが言うように、立場が人を成長させていくのは確かじゃないかな。

師匠の姿に、自分の理想を追い求める

小池:JCにも家族にも会社にも、それぞれ自分の理想とする形があるよね。そういう意味でJCでは先輩、師匠が大事だね。素晴らしい、ついていこうと思う人をいかに早く見つけられるか。師匠の姿に、自分の理想を追い求めていくわけだから。

新開:本当にそうですね。入会してすぐのASPACで、僕が委員会の他のメンバーより先に1人で仙台入りしたことがあって、それを知った富永さんが食事に誘ってくれたんよ。それがきっかけで、2年目は富永さんの委員会を希望したんだけど、それがJCIの総務委員会だったから、周囲には世界会議も控えているから大変だぞと言われてね。でも実際に委員会に行くと、大変なことは富永さんがやってくれているわけ。僕の人生で、あまりそういうリーダーは見たことがなかったんよ。山笠でも、リーダーは下に仕事を振るのが当然だったから。

小池:すごいいい話やん。太郎(富永)はそういうのを全然見せんもんね。

新開:その委員会の縁で、3年目には常務理事になるよう声をかけていただいた。その時も周囲からは大変だと言われたけど、やっぱり僕らに適した仕事を振ってくれる。世界会議の年だから、地区でも日本でも、普段僕らには見せん顔で富永さんは戦っていきよるわけよね。そういう富永さんを見ていたから、僕もメンバーを大事にせないかんって思ったんだよね。小池さんも、とても人を大事にしていて、まさにその典型やね。

小池:いやいや、それは後輩がかわいかったからだよ。後輩がかわいいから本気で厳しいことも言うし、配慮もするということじゃないかな。現役のメンバーにも、素晴らしい師匠を見つけてほしいよね。そして自分も、本気になってメンバーを愛し、メンバーのためにどういう風にしてやらんといかんのかをしっかりと考えてほしいんだ。

外に出た経験がLOMを変える

新開:この間、60周年を迎えるに当たっての田川理事長のあいさつを聞いて、やることは多少変わろうとも、思いの部分でこうやって福岡JCが繋がっていけばいいんやなって思った。先輩にお世話になったという思いとか、上の人がいろいろ考えてくれたから今のチャンスがあるということを理解することとか。僕が最短期間で理事長になったのは、そういう思いの積み重ねの結果よね。理事長にならんと、お世話になった人に気持ちを返せないと思ったからさ。

富永:そうやってリーダーになったら、もしメンバーのモチベーションが低いのならば、それは組織で上に立っている人間のせいだと気付くよね。モチベーションを高めるのは上の仕事なんだと。

小池:俺は監事で、富永も副会頭として日本JCに出向したけれど、そこで経験を積んで帰ってくると、自分が理事長になったときに必ずLOMのやり方は変わるよね。まちの活性化に繋がった事業、色んなものを巻き込んだ事業をいろいろ見てフィードバックするわけだから。そうやって出向した経験をまちづくりやLOMに活かすことは、LOMにとっても自分にとっても素晴らしい進化になると思う。自分の環境が許すのであれば出向して、その経験や思いを伝える場をぜひ作ってほしい。それが、福岡JCが、より有意義な団体に、そして進化していくリーダーになっていくことにつながり、福岡が九州、西日本を引っ張っていくことにつながっていくと思うんだ。

記念対談 はちゃめちゃであれ!

それがJCの魅力、JCの力強さ

聞き手　真木智也・60周年記念委員長

**魅力的なまちのビジョンを描き、
人をひきつける文化の創設を目指した3人の歴代理事長。
大村光氏(57期理事長)、大山哲寿氏(58期理事長)、
長沼慶也氏(59期理事長)が当時を語る。**

ジャズで中洲を再生。粋な大人の街へ

大村:理事長時代を振り返ってというのがこの対談のテーマだけど、僕は当時、何もやっていない(笑)。「NAKASU JAZZ」を立ち上げたときだってあいさつ廻りをしていただけで、実際には中岡副理事長、大山副理事長が進めてくれた。気が付いたら話が進んでいたんです(笑)。そもそものきっかけだって真木君が、太宰府のジャズ喫茶に飛び込みで企画を持ちかけたこと。自分はジャズに興味はなかったが、企画はクラシックや絵画といったそんな敷居の高いものではなく、もっとカジュアルで老若男女に受け入れられるものでなければならないと思ったんです。

大山:僕も事業を進めはしましたが、演歌くらいしか知らず…(笑)。ただ、もともと中洲には数十年前、4000人近いミュージシャンがいて、今でもジャズを演奏するような場所もある。そういう文化・歴史がある大人の街には、ジャズが似合うと思ったんです。

エンターテインメントシティ創設への起爆剤

大村:今の時代は、安さや合理性に迎合した店や悪い意味での大衆文化ばかり。そんな中で、大人のまちであり、社交場であり、大人が行きたくなるようなまちとして、まずは中洲を復活させたかった。粋な文化と、美学が根幹にあるようなまちにね。

長沼:大村理事長の年に「NAKASU JAZZ」がうまれ、大山理事長時代には、「Tour de Fukuoka」をおこない、同時にアジア交流首都宣言を作成した。少子高齢化、人口減少が進むなかで、もっと国内外、特に成長著しいアジア諸国からビジネス・観光の両面で流動人口を増やしてく必要性を訴えました。そして私が理事長に就いて、「エンターテインメントシティ創造室」をつくり、「アジアビューティマラソン」や「博多どんぶり事業」など、スポーツや食、アートといった新たな文化創造事業をおこないました。そのような、「まち」にとっての人を引きつける磁力のようなソフトをJCが生み出していく事は大切な事と考えます。

1万人の声が形に…30年後のビジョン

大山:僕の理事長時代は、福岡の30年後のビジョンを考えていました。そもそも夢や希望があるまちとはどんなまちなのか。1万人アンケートを多角的に検証し、これまでの歴史を踏まえて、今後の福岡がどうあるべきかという結論を出したのが「アジア交流首都宣言」でした。僕たちは行政でもないしお金もないが、このまちへの想いはある。それが「NAKASU JAZZ」のように形になって、最終的にまちの文化になればいいと思うんです。そうそう、「NAKASU JAZZ」には副産物があって、新規のイベントとしては27年ぶりの歩行者天国を実現したんです。福岡ではそれまでどんたくと山笠、ホークスの優勝パレードとシティマラソン以外では道路を使ったイベントができなかった。新しいことをするには、過去の事例をぶっ壊さないといけない。JCはそういう文化が生まれるきっかけづくりをしているんです。

そのときのベストを尽くせ

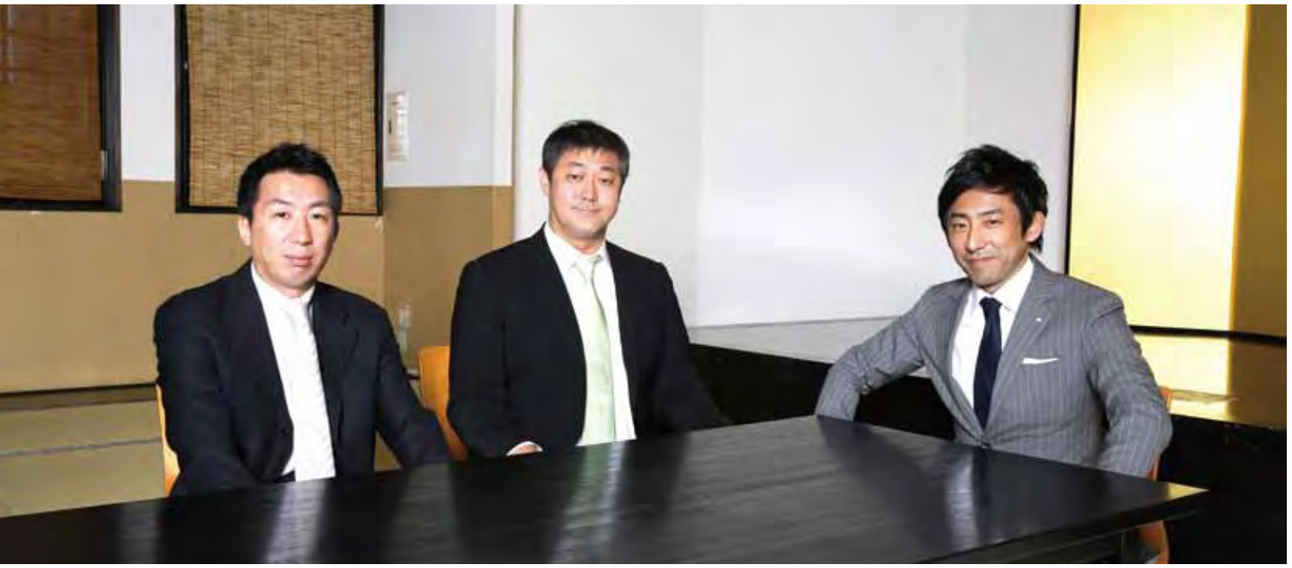
続けることに縛られず、そのときのベストを尽くせ

大村:「NAKASU JAZZ」も最終的には中洲町連合会中心の運営となり、JCの手を離れることになります。もともとJCは事業だけを行うことが前提の団体ではないし、また、それを続けるかどうかは別問題。個人的には継続事業は後輩を縛ってしまうし、続かない方がいいと思っています。そのときベストだと思うことを現役世代にはやってほしい。大山君の言う“事例をぶっ壊す”のように、勢いと雰囲気と“何となく”。そのはちゃめちゃ感がJCの魅力なんだから。

大山:そうですね。尋常の発想なんか高が知れるし、たいてい誰かがやってしまっている。僕自身、おもしろいと思うことしかやりませんでした。常に楽しみながら怒っている感じでしたね(笑)。

大村:仲良くケンカするみたいな!

大山:喜怒哀楽だらけ。感動したり、涙することもJCにはあって。それがあるから、がんばれたんですよ。



世界とのつながりは、今も大きな財産

大村:僕も任期中、ずっと楽しかった。九州地区大会のためにLOM廻りばかりしていたけれど、ステキな人が世界中にいたし、最高でした。世界会議も楽しかったですね!

田川:本当にそうですね!昔の仲間に会うと、ビックリするぐらいあの頃の話で盛り上がりますもんね(笑)。

大村:世界中廻ったもんなぁ!スケジュール的には大変だったけど、あの年齢だからできる無茶だったね。

長沼:当時、アフリカ担当副理事長とかいらっしゃった(笑)。渡航するのに何種類もの予防接種を注射されて。

大村:そうそう!ヨーロッパ担当、アメリカ担当とか。おかげで世界中に多くの仲間ができました。

長沼:私もオリンピック誘致の際には、アテネ五輪開催時のギリシャの会頭からいろいろな人を紹介いただきご縁を賜ったり、理事長時代には実現できなかったけど、広報誌の対談でシラク元大統領にアプローチをおこなったりしましたね。担当委員長の笠君が「取材にパリまで行くんですか?」と嘆いてましたが(笑)。いずれにしろ、JCIのIであるインターナショナルな部分を、有効に活用する事は大きな可能性を秘めていますし、私自身大きな財産となっています。

日本を改めて見直して
一番身近な福岡を魅力的なまちに
していくことが大切

自分たちの根を見直し、魅力的なまちをつくる

大村:JCIは国際組織でとても博愛主義に満ちた団体ですが、我々が活動する中、一方でとても危険だなと思うのは、グローバリズムというコンセプトが安易に大きくなりすぎていること。その前に、一度自分たちの「根っこ」を見直し、自分達が一体何者なのかということを捉えながら他者と触れ合っていく必要がある。そうでないと何の説得力もないと思うんです。そのためには教育や歴史認識も非常に重要ですね。海外に門戸を広げるのは大いに結構だし、昨今の情勢からみて、他国と敵対する必要はないけれど、日本を改めて見直して、一番身近な福岡を魅力的なまちにしていくことが大切。私たちは、自分のこどもたちが暮らしやすい、「福岡に生まれてよかったばい」と言えるようなまちをつくっていかないといけないのです。

記念対談 手を取り合う相乗効果

行政とJCが語り合い、手を取り合う 相乗効果が生み出す“まちづくり”への大きな力

聞き手　真木智也・60周年記念委員会委員長

首長として福岡市をリードする髙島宗一郎市長と、末松大和直前理事長、田川幸平理事長のトップ会談が実現。福岡の魅力と、その未来について語り合った。

福岡をアジアから世界のリーダー都市へ

末松:本日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。先日、福岡が国際会議の数で東京に次いで第2位になりましたね。国際都市としての位置づけがまた一歩進んだという証拠だと思います。ただ私は都市がさらに魅力的になるためには、もっと人が集まる場所になるべきだと思います。そのためにはまちそのものが持つ魅力を最大限に引き出すことが重要だと考えます。その点、福岡にはスポーツという強みがあります。野球、サッカー、ラグビー、バスケット、これらすべてにプロチームがありますし、国際的なマラソンの大会や、大相撲も開催される。これほど多くのスポーツが根付いているのは、東京・大阪・名古屋ぐらいです。さらに、「山笠」「どんたく」という伝統の祭りのほか、我々が2009年から開催している「NAKASU JAZZ」「ミュージックシティ天神」などの音楽イベントもある。伝統文化と新しい文化がマッチしているのも福岡というまちの魅力のひとつです。また暮らしの面では、適度に田舎で適度に都会。非常にコンパクトで住みやすいまちだと思うんです。私は委員長時代からこのスポーツを前面に出したまちづくりを考えてきましたが、JCはこれら多くの魅力を発信しながら、福岡をより住みやすいまちにすることに取り組んでいきたいと考えています。市長は福岡の魅力をどのようにお考えですか?

市長:末松さん、私が話すことを残しておいてくださいよ!(笑)　それでは行政的な側面から、私はお話ししますね。先日、国連ハビタット主催の世界都市フォーラムがナポリで開催されました。そこで世界の名だたる都市の市長と、それぞれの都市政策について話す機会があったんです。「人と環境と都市の調和がとれたアジアのリーダー都市を目指す」ことを私は公約として掲げていますが、福岡はアジアのリーダー都市どころか、世界のリーダー都市になれると、このときに確信しましたね。なぜなら福岡は、サスティナブルシティー※としての機能を体現できている、世界でも珍しい地域だと改めて感じることができたからです。海外から来た方は福岡を「ビューティフル」だと言う。清掃が行き届いていて、均一性のとれた街並みが美しいそうです。また、空港が市街地から近いために建物の高さ制限があるというデメリットの反面、これほどスカイラインが整っている街はなかなかない。さらに生活という観点では、福岡市の漏水率は極めて低い。これはインフラの整備を積極的に進めてきたからです。そもそも、水を使う量も大阪に比べて半分くらいなんですね。使った水を再生してトイレや散水に使っていることも理由のひとつですが、節水教育というソフト面が整っていることも大きいのです。福岡がビューティフルである背景には、知恵の積み重ねと、勤勉で真面目な日本人の気質があるのだと思います。漏水が少ないのは定期的なメンテナンスによるものだし、取水口にゴミがたまれば毎日掃除をする。また、一級河川がないというデメリットを克服するため、海水を淡水化する技術も生まれた。子どもの頃から身についた習慣や気質で、今のサスティナブルシティーを築いてきたわけです。福岡はこのような都市機能というハード面と教育などのソフト面の両方がそろう、サスティナブルなシステムがあらゆる面で活きていてほぼ完成形に近い都市なんです。

※サスティナブルシティー：環境を損なわずに持続していくことが可能な都市のこと。環境負荷を可能な限り低減し、持続的な発展と生活の質の向上を目指す。

子どもたちが国際社会で戦えるための教育

田川:世界のリーダー都市になるために、福岡は今後どのようにあるべきでしょうか?

市長:アジアに開かれた都市としてのポテンシャルを、どう開花していくかが大切ですよね。まずコミュニケーション力が大事。それには、福岡のこどもたちが日本で一番英語が話せるようになるような教育をしたいと思っています。以前、毎週ネイティブスピーカーによる授業を行った学校と、年間25時間しか行われなかった学校とでリスニングの成績を比較したところ、1年間で6.7ポイントも差がついたんです。この結果を受けて、今年度からすべての学校でネイティブスピーカーによる授業を毎週行うことにしました。また昨年、市内の全中学校から1名ずつを韓国のプサンのグローバルビレッジという英語研修施設に派遣しました。ここは英語を勉強する上で、きわめて条件の整っている施設なんです。たとえば警察や税関のような、日常生活の中で実際に経験する場所とシチュエーションを再現し、英語でどう話せばいいのかを身をもって学ぶ。他国の人間も一緒に学ぶので、日本の子も「負けてたまるか」と競うように学ぶわけですね。このように、早いうちから海外というものに対してハードルを下げていくことが重要です。たとえばインドのこどもたちはみんな英語を話すし、押しも強い。今後はそういう国が世界でどんどん台頭していくでしょうね。そういう国の、よりハングリーに育ったこどもたちと、日本のこどもたちは競争していかなければならない。そのスキルをつけるための教育が必要だと思っています。

日本を支える青年をグローバルに育成

末松:JCが毎年支援している「アジア太平洋こども会議」が、今年25周年を迎えます。また一昨年は福岡にグローバルな人材を育てる活動の一環として、APUと協力し、ミーティングからプレゼンまでを英語で行う授業に大学生を参加させました。そもそもJCは人材育成機関であり、育成のための機会を設けることでリーダーを育てていくリーダー育成機関です。まずはJCの中で学び、それを社会の皆様にどう還元していくか。今後もJCとして考えていこうと思っています。

田川:先ほど末松の方からも話がありましたが、これからの日本を支える青年たちが社会に出る前に、国際社会と触れ合う機会を作ることは大事なことだと思います。そういう点ではAPUのような大学が福岡にあるべきだと思います。また、本来日本人が持っている「奥ゆかしさ」やアイデンティティーは、世界中からリスペクトされる非常に大切なもの。単に英語が話せてコミュニケーションができるだけでなく、国際教育と道徳教育を両輪とする必要があると思います。

行政とJC、それぞれの持つ強みとは

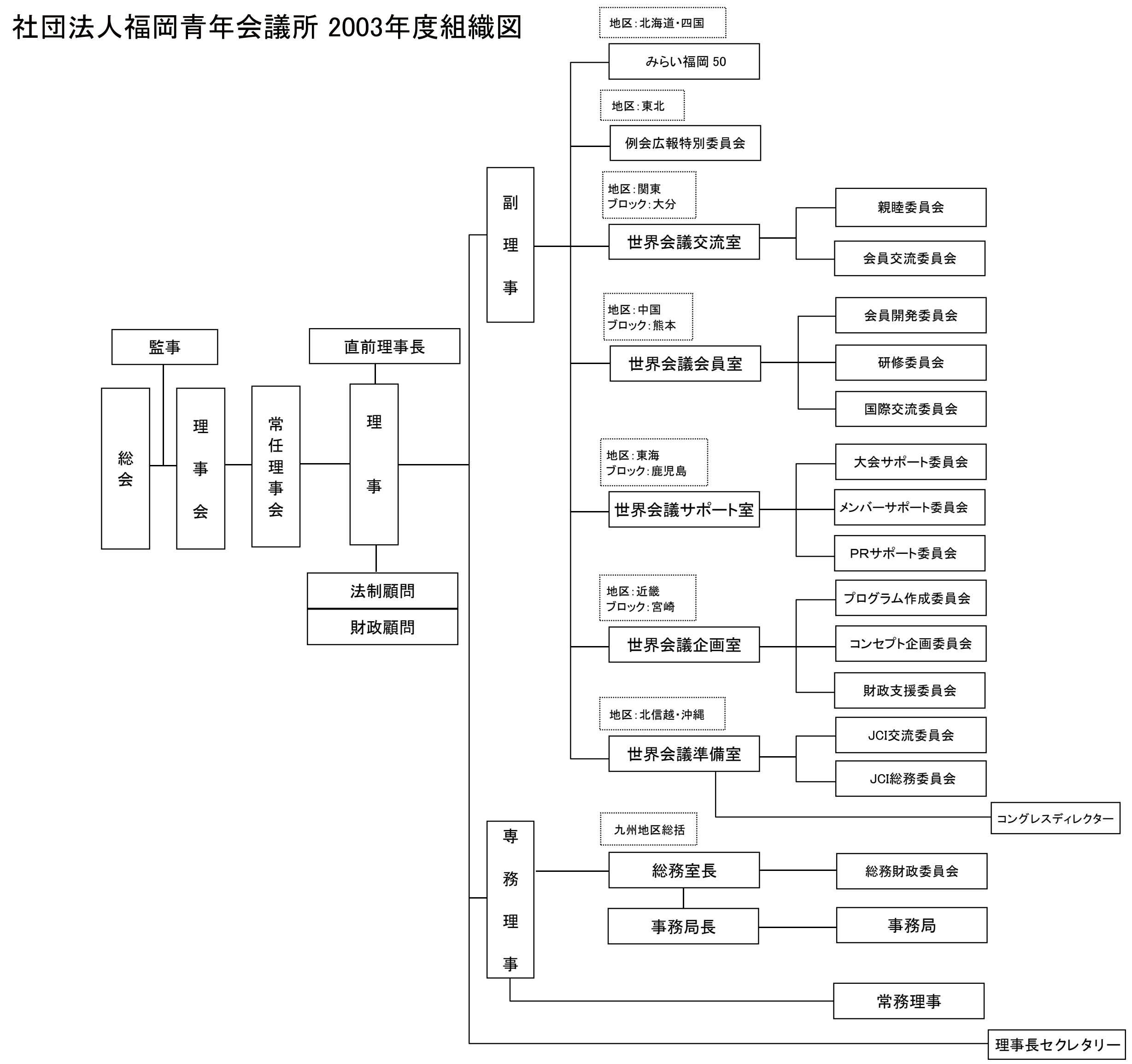
田川:市長と私たちは同世代。自分たちのこどもたちが住みよいまち、にぎわうまちをつくり、こどもたちに引き継いでいく義務があると思うのです。

末松:今後の福岡のためにもぜひまた市長のお考えをうかがって、ともに企画を練ったり、語りあっていけたらいいですね。

市長:JCと行政は、今まで連携が少なかったというのが現実だと思います。私たち行政は、議会でのコンセンサスが必要ですし、いろんな人のご意見がありますから、状況に応じて動きにくいところがあります。ただ、まちづくりという点では、行政が動けば街全体がトータルで動きます。一方、民間は自分たちの判断で決めることができるし、スピード感がある。しかしオーソライズがないので、まちづくりというところまではなかなかいかない。その真ん中で遊軍として動けるというのが、JCの一番の強みだと思うんです。市民の中からわき起こったものですから、フットワークの軽い動きもできるし、自分たちの考えを実行できる。2010年のアジア交流首都宣言のような、ああいう夢のある絵というのはJCにしか描けないと思います。市民にコンセンサスを得ていく、まちににぎわいを作っていく、市民と一緒になって盛り上げていく。まさにこれはJCにしかできないこと。今後いろんなことを話し合えば、もっとお互いに解り合える。行政とJCが協力すれば、相乗効果でもっともっと大きな力になると思います。これからお互いに協力し合いながら、グローバルなトレンドを福岡に取り込み、さらに福岡のいいところ、いいものを世界に発信していきましょう。

組　織　図

Organizational chart



社団法人 福岡青年会議所　　2003 年 度　委 員 会 編 成 表

理事長	廣田 稔															専務理事
副理事長	島塚 裕明	吉次 正利			井上 恵美香			久保 慎一郎			倉重 一男					友清 照和
室 特別委員会	みらい福岡50 特別委員会	例会広報 特別委員会	世界会議交流室		世界会議会員室			世界会議サポート室			世界会議企画室			世界会議準備室		総務室
室長 特別委員長	宮﨑 勝德	堺 哲哉	三坂 真		木原 雄秀			小池 勝利			浜崎 太郎			宮﨑 鐘子		大内田 英樹
委員会			親睦委員会	会員交流委員会	会員開発委員会	研修委員会	国際交流委員会	大会サポート委員会	メンバーサポート委員会	PRサポート委員会	プログラム作成委員会	コンセプト企画委員会	財政支援委員会	JCI交流委員会	JCI総務委員会	総務財政委員会
委員長			長野 吉弘	福田 久徳	大江 晋	堀内 恭彦	栗栖 慎治	片山 俊男	阿部 正樹	古賀 弘一郎	渡辺 剛	兼平 一郎	野田 浩仁	毛利 文彦	富永 太郎	田篭 美弘
副委員長	江利田敬一郎	穴井 幸一郎	森 君夫	正木 研次	鬼塚 活人	大曲 隆太	島田 隆一	高橋 努武	日高 偉嚴	安武 健一郎	用松 克浩	力武 博司	山本 慎一	古賀 富彦	高力 夏男	南條 一也
	安河内 裕一	永江 啓一郎														
総括幹事	高山 久徳	秦 真二郎	沖 賢一	井上 慶一	野口 護	平井 秀布巳	野上 正嗣	堀 宏行	田代 実	堤 和与志	宿久 徹太郎	山本 直史	後藤 昭文	坂野 直樹	岩井 満則	伏見 太郎
運営幹事	永田 秀幸	境 達哉	清島 光広	玉井 収	後藤 昭南	神宮司 匡邦	山川 一俊	仁田 篤志	庄司 誠	岩隈 良弘	明田 勝	三吉 俊弘	田所 享	奥元 浩史	野村 幸治	中野 洋市郎
会計幹事	坂口 正雄	内田 重人	中岡 生公	安達 真也	阿利 欽章	太田 喜之	牧 祐仁	大森 一馬	森田 征幸	平塚 裕一郎	立山 茂樹	高松 裕敬	藤 浩士	国武 隆治	新開 裕司	原口 智
広報幹事	春田 克起	松尾 敬一	田川 幸平	秀嶋 康成	田中 一樹	熊手 祭佐己	乙藤 朋弘	瀬尾 浩之	大神 健二	尾家 旬子	野中 俊雄	古川 元紹	田平 裕隆	橋田 和義	前田 美登子	伊藤 孝
委員 1.	今村 正弘	池田 賢治	安部 典明	糸瀬 淳二	古賀 信光	安部 洋	麻生 宏	池田 浩行	石河 勲	市川 浩	天野 宅志	尾﨑 賢太郎	梅津 啓二郎	久我 幹能	大村 洋之祐	今泉 寿哉
2.	江藤 知明	石橋 広盛	井川 博雄	金本 伸一	最所 靖典	稲富 勝也	梅原 英一郎	江口 豊久	今尾 彰伸	稲田 豊久	石橋 聡	香月 康孝	岡田 須美子	竹原 久人	鍛冶 誠一郎	上林 泰啓
3.	加地 良貴	梅津 修一	太田 新治	後藤 慎吾	曽里田 和典	大川 浩司	近藤 大量	小堤 利夫	江口 竜也	岩本 司	内田 一治	川上 晋平	後藤 繁識	富田 裕二	木原 新太	江口 純一
4.	金岡 弘人	坂本 健一郎	國府田 篤	佐嘉田 英樹	友杉 隆志	大山 哲寿	庄嶋 毅	近藤 博文	長﨑 浩一	梶原 幸正	小川 英男	長﨑 七和	長沼 慶也	浜田 守通	椎葉 龍彦	大空 孝男
5.	須藤 英一郎	佐藤 賢太	貞久 雅利	白濱 隆	中牟田 万平	島塚 克也	住本 真理	近見 敏	西 忠彦	鷹尾 剛	貝塚 英樹	平川 泰之	林 健司	福井 淳一	濱田 洋	柳澤 賢二
6.	田中 寛次	田麦 純一	高尾 幸英	瀬田川 勝弘	新見 英親	中村 信二	時任 毅	野元 健一郎	平田 文仁	立花 嗣久	新納 弘明	三木 孔	松林 幹雄	福田 千夏	林 彰	田中 裕司
7.	津留 敦	辻 長光	長野 博行	薙野 英児	福島 庄治	藤井 薫	成田 性潤	畠堀 仁和	松永 幸子	中西 勇一	林田 琢磨	山本 真	満生 匡昭	前田 俊輔	廣田 佳代子	松岡 弘一郎
8.	中野 栄二	花村 美月	星野 恵子	藤木 弘光	福田 篤	松尾 龍亮	増﨑 有紀	山本 周史	山下 賢二	山口 正剛	原田 邦生	渡辺 和彰	山口 博士	前村 敬一	武藤 晃嗣	吉田 善太郎
9.	西村 潤	福田 庸之助	中尾 浩二	宮﨑 竜也	山鹿 政則	溝江 将光	大村 政勲	吉田 賢太郎	尾籠 秀俊	縄田 憲吾	松見 彰満	高倉 浩之	吉岡 健太郎	山口 倫	本村 弘美	岡部 周二
10.	東 直史	堀 秀明	石川 鉄也	馬場 英樹	草野 真由美	岡本 達也	野口 和弘	原田 浩司	森 誠賢	灘辺 亮	森田 晋史	吉田 宏幸	井上 友貴	月岡 靖記	住吉 祐一郎	有働 健一郎
11.	水城 四郎	山田 訓敬	山下 久史	田中 太朗	養父 秀樹	森田 浩文	坂口 大司	大塚 誠司		池田 長正	沖 能成		長野 毅	重久 陽一	鬼木 誠	中村 太一
12.	村田 英治郎	山本 信博														
13.	籾井 公貴	府内 栄佳														
14.	入江 有二	江崎 知都世														

直前理事長
岩本 仁

監事
井上 博行
甲斐田 孝

法制顧問
三野原 信二

財政顧問
柴田 伊智郎

事務局長
(大内田 英樹)

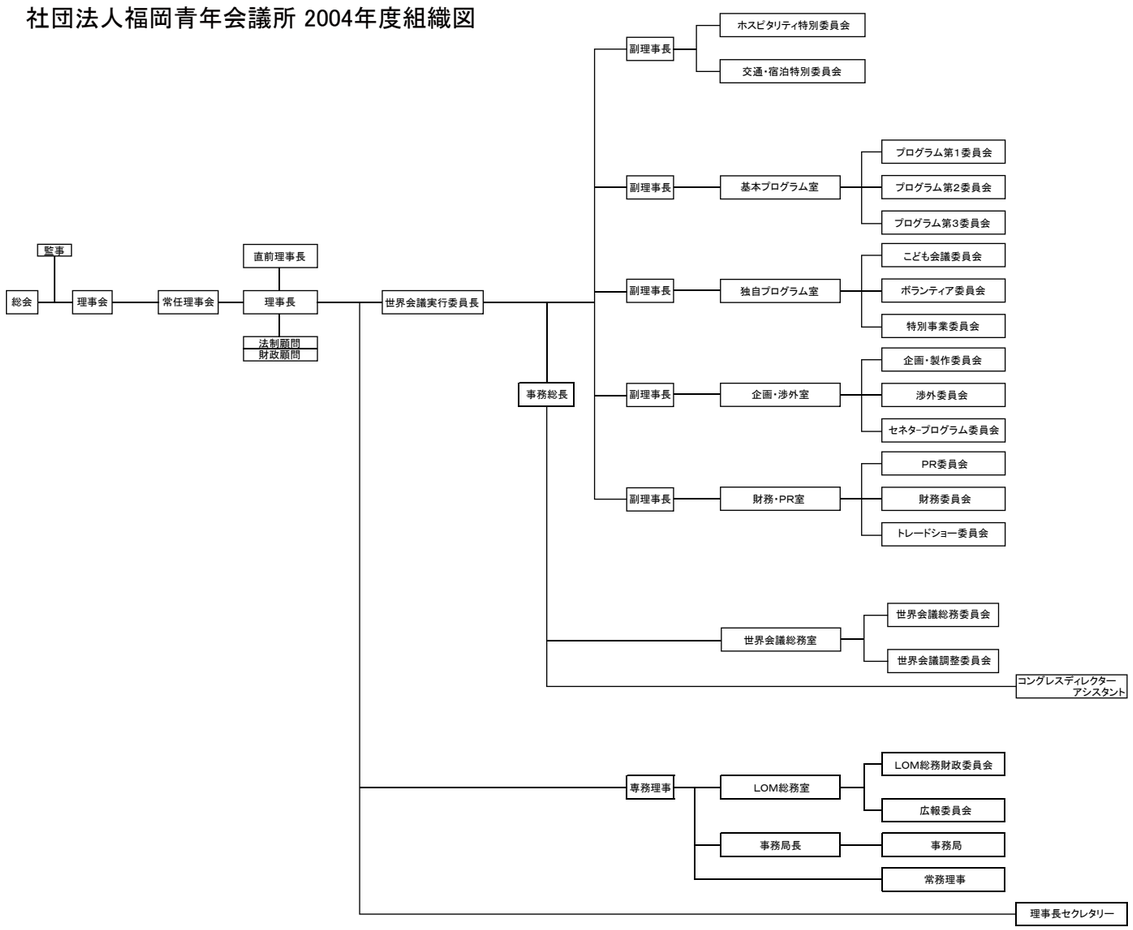
常務理事
大村 光
安武 健一

理事長セクレタリー
具島 秀男
丹野 敬栄

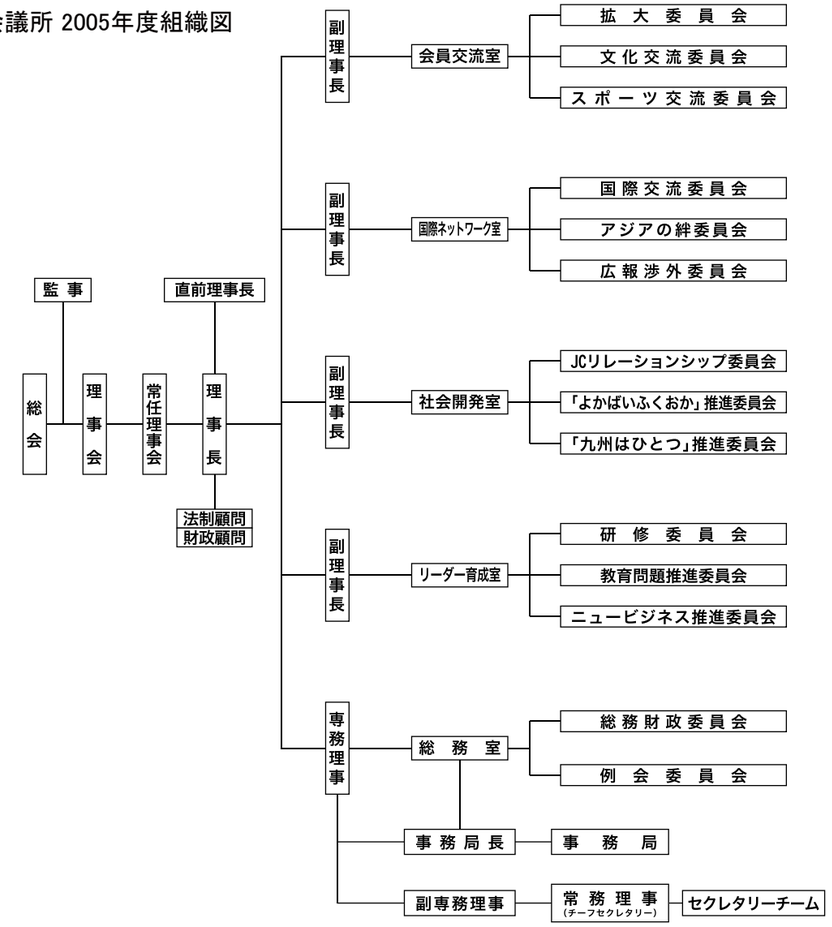
コンデレセクレタリー
大久保 柾幸
川口 慎介
中井 健雄
吉田 元彦

休会者
大谷 明治
稲員 英作
西崎 晃

社団法人福岡青年会議所 2004年度組織図



社団法人福岡青年会議所 2005年度組織図



社団法人 福岡青年会議所　　2004年度　委員会編成表

理事長　井上　博行

世界会議実行委員長　倉重　一男

世界会議事務総長　三野原 信二

副理事長	浜崎 太郎		吉次 正利		友清 照和		宮崎 鍾子		久保 慎一郎			専務理事 富永 太郎
室 特別委員会	ホスピタリティ特別委員会	交通・宿泊特別委員会	基本プログラム室		独自プログラム室		企画・渉外室		財務・PR室		世界会議総務室	LOM総務室
室長 特別委員長	兼平 一郎	長野 吾弘	渡辺 剛		大江 晋		市川 浩		阿部 正樹		毛利 文彦	堀内 恭彦
委員会			プログラム第1委員会	プログラム第2委員会	プログラム第3委員会	こども会議委員会	ボランティア委員会	特別事業委員会	企画・制作委員会	渉外委員会	セネタ-プログラム委員会	PR委員会
委員長			森 君夫	長崎 七和	用松 克浩	島田 陽一	野上 正嗣	大山 哲弟	伏見 太郎	古賀 富彦	高力 夏男	田所 亨
副委員長	岡本 達也	島塚 克也	田川 幸平	六井 幸一郎	明田 勝	太田 善之	乙藤 朋弘	高橋 努武	廣田 佳代子	川口 慎介	中野 洋市郎	安武 健一
運営幹事	力武 博司	平川 恭之	増崎 有紀	佐嘉田 英樹	伊藤 孝	田中 一樹	後藤 昭南	山川 一俊	貞久 雅利	友杉 隆志	坂口 正雄	永田 秀幸
会計幹事	馬場 英樹	大神 健二	清島 光広	内田 重人	山下 久史	坂口 大司	真島 秀男	綱田 憲吾	高松 裕敬	吉田 賢太郎	梅原 英一郎	森田 征幸
広報幹事	権葉 龍彦	野元 健一郎	中尾 浩二	山口 正剛	丹野 敬栄	野口 和弘	高倉 浩之	池田 長正	木村 弘美	井上 友貴	近見 敏	瀬尾 浩之
(出向理事)										長沼 慶也		
委員1.	大村 洋之祐	石橋 広盛	安部 洋	江利田敬一郎	安部 貴朗	入江 有二	江口 純一	大川 浩司	尾崎 賢太郎	池田 浩行	上林 泰啓	梅津 啓二郎
2.	大森 一馬	糸瀬 淳二	天野 宅志	大村 政勲	太田 新治	江口 竜也	境 達哉	田麦 純一	佐藤 賢太	沖 能成	小堤 利夫	坂本 健一郎
3.	奥元 浩史	稲田 豊久	井川 博雄	尾籠 秀俊	玉井 収	立山 茂樹	重久 隆一	西村 潤	田代 実	庄司 誠	近藤 博文	藤 浩士
4.	香月 康孝	江藤 知明	石川 鉄也	鍛冶 誠一郎	辻 長光	新見 英親	住本 真理	濱田 洋	田平 裕隆	立花 嗣久	高山 久徳	中村 太一
5.	川上 晋平	草野 真由美	後藤 繁雄	梶原 幸正	林田 琢郎	松岡 弘一郎	曽里田 和典	福島 庄治	長野 博行	福田 千夏	田中 裕司	平田 文仁
6.	田中 寛次	鷹尾 剛	竹原 久人	星野 恵子	前田 俊輔	松林 幹雄	月岡 靖記	松尾 龍亮	堀 宏行	山口 倫	島堀 仁和	平塚 裕一郎
7.	林 彰	中西 勇一	浜田 守通	山本 敬三	山下 賢二	森田 晋史	春田 克紀	満生 匡昭	前村 敬一	吉田 宏幸	原田 浩司	武藤 晃嗣
8.	原田 邦生	福田 篤	溝江 将光		吉岡 健太郎	山本 周史	古川 元紀	高松 浩二	久保 尊善	城戸 弘則	山田 訓敬	下田 隆士
9.	水城 四郎	碇井 公貴	小野 明		巻村 仁志	忍田 武人	長谷 武	清田 和也	松山 智也	川畑 康太郎	森口 一貴	梅野 徹
10.	三吉 俊弘	柳澤 賢二	新井くに子			池田 美香	森山 新樹	細川 日出光	渡邊 順	松本 泰明	花田 孝則	藤井 法雄
11.	山口 博士	松田 聡	鷲津 正一			守 隼人		岡本 成史				岳 将士
12.	山本 綠	岡本 虎丸										
13.	楠本 健一	都知木 英夫										
14.	長谷川 剛											
15.	矢野 俊陛											
16.												
17.												
18.												

副理事長	久保 慎一郎			毛利 文彦			富永 太郎			友清 照和			専務理事 白濱 隆	
室 特別委員会	会員交流室			国際ネットワーク室			社会開発室			リーダー育成室			総務室	
室長 特別委員長	兼平 一郎			渡辺 剛			古賀 弘一郎			大村 光			後藤 昭文	
委員会	拡大委員会	文化交流委員会	スポーツ交流委員会	国際交流委員会	アジアの絆委員会	広報渉外委員会	JCリレーションシップ委員会	「よかばいふくおか」推進委員会	「九州はひとつ」推進委員会	研修委員会	教育問題推進委員会	ニュービジネス推進委員会	総務財政委員会	例会委員会
委員長	山川 一俊	安武 健一	島田 陽一	庄崎 毅	乙藤 朋弘	岡本 達也	中岡 生公	新開 裕司	坂野 直樹	熊手 祭佐己	正木 研次	永江 啓一郎	野上 正嗣	大山 哲寿
副委員長	坂口 大司	國府田 篤	野口 和弘	中野 洋市郎	田中 一樹	大曲 陸太	田川 幸平	加地 良貴	吉田 俊貴雄	中尾 浩二	秀嶋 康成	庄司 誠	後藤 昭南	穴井 幸一郎
総括幹事	神宮司 匡邦	佐嘉田 英樹	川口 明広	平井 秀布巳	立山 茂樹	南條 一也	石川 鉄也	太田 新治	鬼塚 活人	明田 勝	安河内 裕一	大神 健二	山鹿 政則	具島 秀男
運営幹事	清島 光広	坂口 正雄	橋田 和義	森口 一貴	春田 克紀	野中 俊雄	住吉 祐一郎	池田 長正	花田 孝則	近藤 青高	最所 靖典	小野 明	養父 秀樹	清田 和也
会計幹事	入江 有二	国武 隆治	井上 雅之	田麦 純一	巻村 仁志	沖 能成	川畑 康太郎	松尾 敬一	大塚 誠司	森田 浩文	鷲津 正一	平田 文仁	尾籠 秀俊	秦 勝良
広報幹事	梅野 徹	北野 秀雄	山本 綠	岡部 崇	金子 智明	楠本 健一	前田 美登子	馬場 英樹	倉元 俊幸	忍田 武人	高松 浩二	青柳 智子	森山 新樹	新井くに子
(出向理事)				吉田 元彦		中井 健雄		太田 喜之	長沼 慶也			山口 博士		
委員1.	江崎 知都世	梅津 啓二郎	石橋 聡	井川 博雄	阿利 欽章	天野 宅志	安部 洋	池田 賢治	池田 美香	江藤 剛	上林 泰啓	今尾 彰伸	大空 孝男	稲田 豊久
2.	大野 政成	大森 一馬	糸瀬 淳二	池田 浩行	久保 尊善	住本 真理	貝塚 英樹	井上 友貴	岡部 周二	鬼木 誠	岳 将士	大村 政勲	岡本 虎丸	有働 健一郎
3.	尾崎 賢太郎	後藤 慎吾	川上 晋平	伊藤 孝	重久 隆一	時任 毅	金岡 弘人	江口 純一	城戸 弘則	梶原 幸正	玉井 収	岡本 成史	佐藤 賢太	鍛冶 誠一郎
4.	菅 道文	近藤 大量	木原 新太	立花 嗣久	島塚 克也	都知木 英夫	後藤 繁雄	大久保 柾幸	久我 幹能	草野 真由美	中沢 亘	高松 裕敬	曽里田 和典	権葉 龍彦
5.	鷹尾 剛	友杉 隆志	坂本 健一郎	島堀 仁和	慕蒲 徹秀	西 忠彦	瀬尾 浩之	荻田 英二	黒木 健一郎	国本 広次	中村 太一	田中 寛次	秦 真二郎	高橋 努武
6.	平塚 裕一郎	長崎 七和	辻 長光	福島 庄治	高倉 浩之	林 彰	丹野 敬栄	川口 慎介	香田 博	仁田 篤志	濱地 洋幸	渕辺 亮	福田 康之助	竹原 久人
7.	福田 篤	平川 泰之	濱田 洋	松田 聡	月岡 靖記	藤井 法雄	長野 毅	田所 亨	高山 久徳	野口 護	府内 栄佳	東 直史	牧 祐仁	藤 浩士
8.	堀 宏行	三吉 俊弘	福井 淳一	水城 四郎	長谷 武	碇井 公貴	松本 泰明	小野 秀幸	難野 英究	野村 幸治	吉田 賢太郎	松岡 弘一郎	吉田 善太郎	細川 日出光
9.	満生 匡昭	森田 晋史	伏見 太郎	原 健三朗	古川 元紀	矢野 俊陛	山田 茂伸	野元 健一郎	福田 千夏	増崎 有紀	土田 敏博	松林 幹雄	吉田 宏幸	前村 敬一
10.	柳澤 賢二	渡邊 順	本村 弘美	清水 龍平	松永 幸子	山下 賢二	北山 英樹	廣田 佳代子	前田 俊輔	溝江 将光	西村 勉	村上 一孝	松山 真介	守 隼人
11.	山田 訓敬	井上 博司	山本 真	鶴 成次	山本 周史	大迫 順平	樋口 優史	楠本崎 政和	大西 豊郎	宿久 徹太郎	小津和 敦	岩尾 一豊	和泉 宏幸	山本 敬三
12.	横元 浩司	欽 宏新	山田 勝彦		貞国 秀幸	野村 勇太	池本 潤	原 有希	齋藤 英之	吉岡 健太郎	石村 善孝	小池 孝典	田村 邦明	伊藤 忠相
13.	樋口 明	井上 哲	川井田 貢		池上 慎太郎	松本 倫明	岩田 香穂	増田 成泰		山口 茂	平畑 和之	山本 浩史		末松 崇
14.	熊本 太郎	田島 敬悟	下田 亨		山田 広美					山崎 尚典				富永 泰輔
15.	野中 史明													

直前理事長
廣田　稔

監事
木原 雄秀

法制顧問
大内田 英樹
三坂 まこと

財政顧問
小池 勝利

事務局長
古賀 弘一郎

常務理事
新開 裕司
中岡 生公

理事長セクレタリー
最所 靖典
橋田 和義

コングレスディレクター
アシスタント
金岡 弘人
住吉 祐一郎
中井 健雄
秀嶋 康成
松永 幸子
安河内 裕一

休会者
稲員 英作
西崎 晃

直前理事長
井上 博行

監事
小池 勝利
浜崎 太郎

法制顧問
大江 晋
堀内 恭彦

財政顧問
阿部 正樹
市川 浩

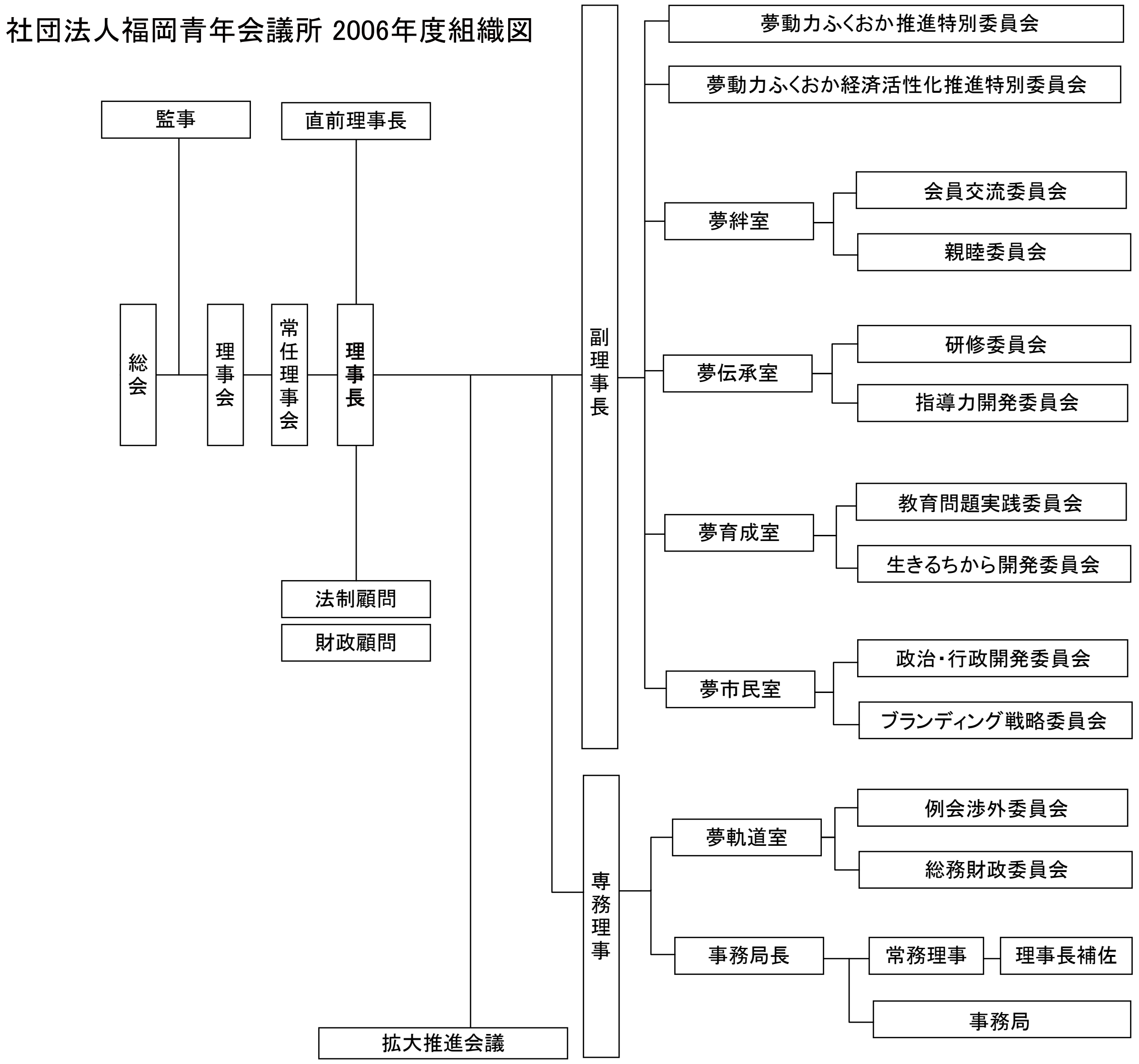
副専務理事
高力 夏男

事務局長
(後藤 昭文)

常務理事
田平 裕隆

セクレタリー
末松 大和
原田 浩司
松山 晋也

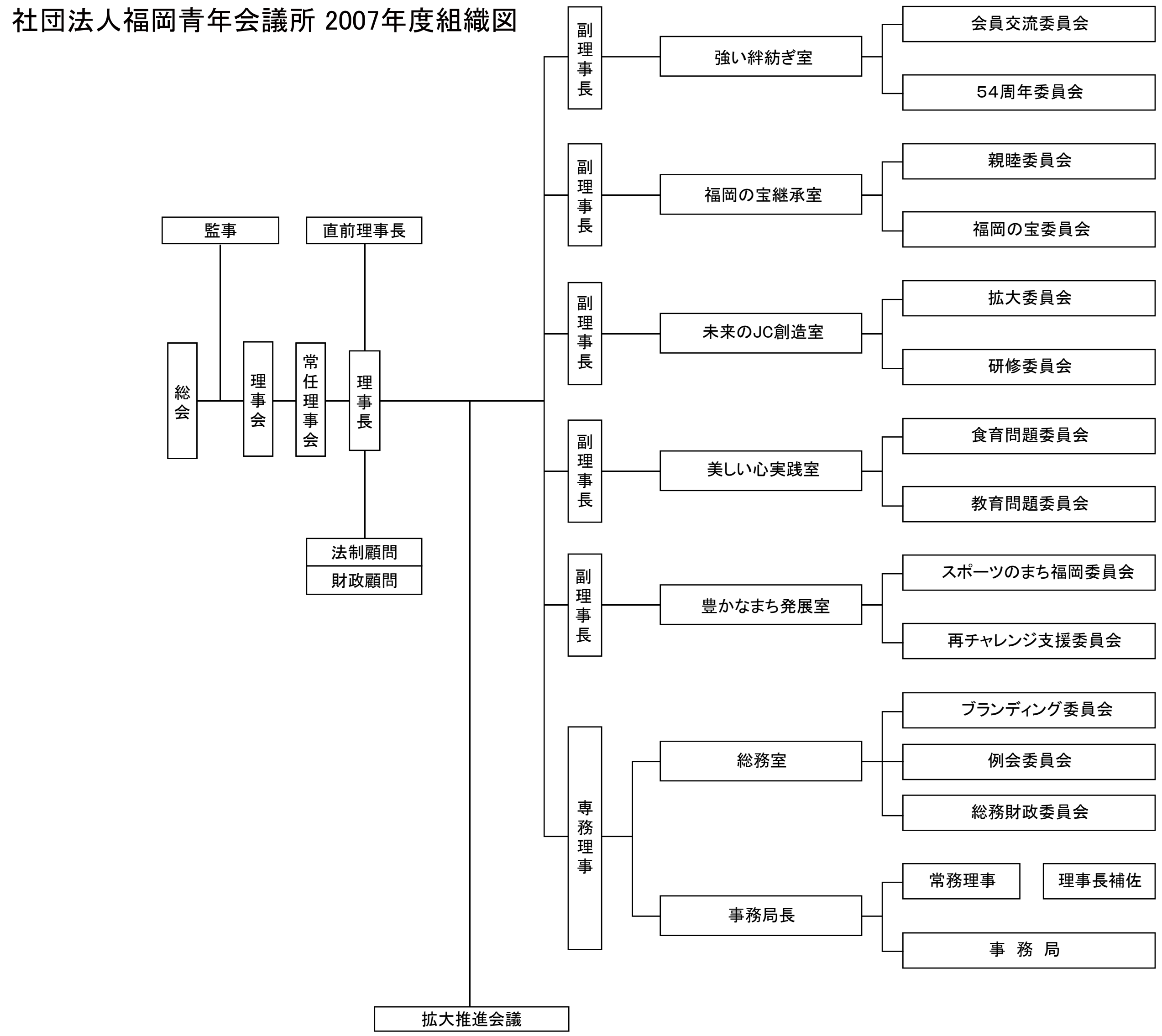
休会者
石橋 広盛



社団法人 福岡青年会議所　　2006 年 度　委 員 会 編 成 表

理事長	小池 勝利													
副理事長				友清 照和		富永 太郎		兼平 一郎		渡辺 剛			専務理事 大村 光	
室 特別委員会	夢動力ふくおか推進特別委員会		夢動力ふくおか経済活性化推進特別委員会		夢絆室		夢伝承室		夢育成室		夢市民室		夢軌道室	
室長 特別委員長	新開 裕司		長沼 慶也		野上 正嗣		大山 哲寿		安武 健一		高力 夏男		中岡 生公	
委員会					会員交流委員会	親睦委員会	研修委員会	指導力開発委員会	教育問題実践委員会	生きるちから開発委員会	政治・行政開発委員会	ブランディング戦略委員会	例会渉外委員会	総務財政委員会
委員長					川口 明広	穴井 幸一郎	庄嶋 毅	大久保 柾幸	中野 洋市郎	岡本 達也	田中 一樹	田川 幸平	野中 俊雄	田平 裕隆
副委員長	池田 長正	吉田 優貴雄	後藤 昭南	花田 孝則	中井 健雄	沖 能成	林 彰	大神 健二	川畑 康太郎	平塚 裕一郎	嵜村 仁志	鷲津 正一	庄司 誠	加地 良貴
運営幹事	仁田 篤志		廣田 佳代子		本村 弘美	西村 勉	末松 大和	春田 克起	佐嘉田 英樹	永田 秀幸	江藤 剛	橋田 和義	忍田 武人	岡部 周二
会計幹事	松山 晋也		原田 浩司		小野 明	秦 勝良	藤井 法雄	友杉 隆志	荻田 英二	尾崎 献泰朗	鬼木 誠	近藤 大量	鬼塚 活人	国本 広次
広報幹事	森山 新樹		入江 有二		山崎 尚典	山田 広美	井上 誉之	井上 博司	鶴 成次	樋口 儀史	和泉 宏幸	大迫 順平	橋元 浩司	岳 将士
拡大幹事	尾籠 秀俊		山田 茂伸		下田 亨	伊藤 忠相	近藤 育高	松山 真介	清田 和也	山口 茂	河野 太郎	松本 泰明	熊本 太郎	井上 哲
(出向理事)	石川 鉄也							川口 慎介				吉田 元彦		
委員 1.	池田 美香	高山 久徳	池田 賢治	長野 毅	大曲 隆太	石橋 聡	石村 善孝	大野 政成	阿利 欽章	池上 慎太郎	明田 勝	貝塚 英樹	井川 博雄	江口 純一
2.	梅野 徹	田麦 純一	黒木 健一郎	濱田 洋	岡本 虎丸	糸瀬 淳二	今尾 彰伸	北野 秀雄	有働 健一郎	上林 泰啓	岡本 成史	具島 秀男	池本 潤	大空 孝男
3.	大塚 誠司	土田 敬博	國府田 篤	濱地 洋幸	神宮司 匡邦	岩尾 一豊	川上 晋平	小池 孝典	大森 一馬	欽 宏新	貞国 秀幸	後藤 繁識	伊藤 孝	川井田 貢
4.	大西 誉郎	中沢 亘	坂本 健一郎	秀嶋 康成	西 忠彦	江崎 知都世	木原 新太	後藤 慎吾	北山 英樹	菅 道文	重久 陽一	瀬尾 浩之	鍛冶 誠一郎	佐藤 賢太
5.	乙藤 朋弘	原 健三朗	菖蒲 徹秀	増田 成泰	平畑 和之	梶原 幸正	坂野 直樹	坂口 正雄	清島 光広	鷹尾 剛	高倉 浩之	田島 敬悟	香田 博	高松 浩二
6.	金岡 弘人	樋口 明	住吉 祐一郎	三吉 俊弘	福井 淳一	小津和 敦	野口 和弘	田中 寛次	草野 真由美	立山 茂樹	高橋 努武	立花 嗣久	南條 一也	高松 裕敬
7.	国武 隆治	府内 栄佳	時任 毅	森田 浩文	堀 宏行	清水 龍平	古川 元紹	薙野 英児	久保 尊善	藤 浩士	竹原 久人	田所 享	福田 庸之助	田村 邦明
8.	栗木 努	吉田 賢太郎	長崎 七和	柚木崎 政和	前田 俊輔	野村 幸治	前村 敬一	野村 勇太	最所 靖典	平井 秀布巳	中村 太一	富永 泰輔	溝江 将光	平川 泰之
9.	高橋 俊輔	岩田 秀雄	光山 敬一	吉田 善太郎	前田 美登子	馬場 英樹	牧 祐仁	安河内 裕一	坂口 大司	福島 庄治	野中 史明	福田 千夏	宿久 徹太郎	水城 四郎
10.	今永 尚宏	依田 健太郎	桐生 浩之	今崎 晋一郎	松田 聡	吉田 宏幸	松尾 敬一	山本 緑	末松 崇	松林 幹雄	長谷 武	松本 倫明	矢野 俊隆	柳澤 賢二
11.	吉田 博道	冬至 竜介	澤田 泰久	山野 浩	山本 敬三	山鹿 政則	松岡 弘一郎	飯塚 輝幸	灘辺 亮	籾井 公貴	細川 日出光	深川 隆之	山本 浩史	渡邊 順
12.					田村 嘉彦	瀬口 正	山川 一俊	高山 秀明	東 直史	山田 訓敬	増崎 有紀	泉 巌	山本 真	大川 貴光
13.					林田 暁紀	庄嶋 健	山田 勝彦	溝口 伸幸	守 隼人	山本 周史	植木 秀樹	大穂 世嗣孝	濱武 秀次	柴田 耕太郎
14.					山野 貴博	中田 泰平	徳永 竜太郎	角 征一郎	石川 英孝	佐々木 誠二	高橋 孝道	髙原 信一	井口 剛	松畠 邦彦
15.					伊原 ルリ子	平田 玲奈	福田 衛	堤 善徳	敷地 健康	久原 博樹	丸尾 剛	児嶋 健太郎	田口 剛	中間 浩史
16.						津田 政典	小川 聖剛		今林 久則	安東 優介	石崎 裕務			中牟田 修二

直前理事長 宮崎 鐘子
監事 久保 慎一郎　毛利 文彦
法制顧問 浜崎 太郎
財政顧問 古賀 弘一郎
事務局長 熊手 祭佐己
常務理事 森口 一寛
理事長補佐 岡部 崇　金子 智明　楠本 健一　村上 一孝
休会者 石橋 広盛　原 有希

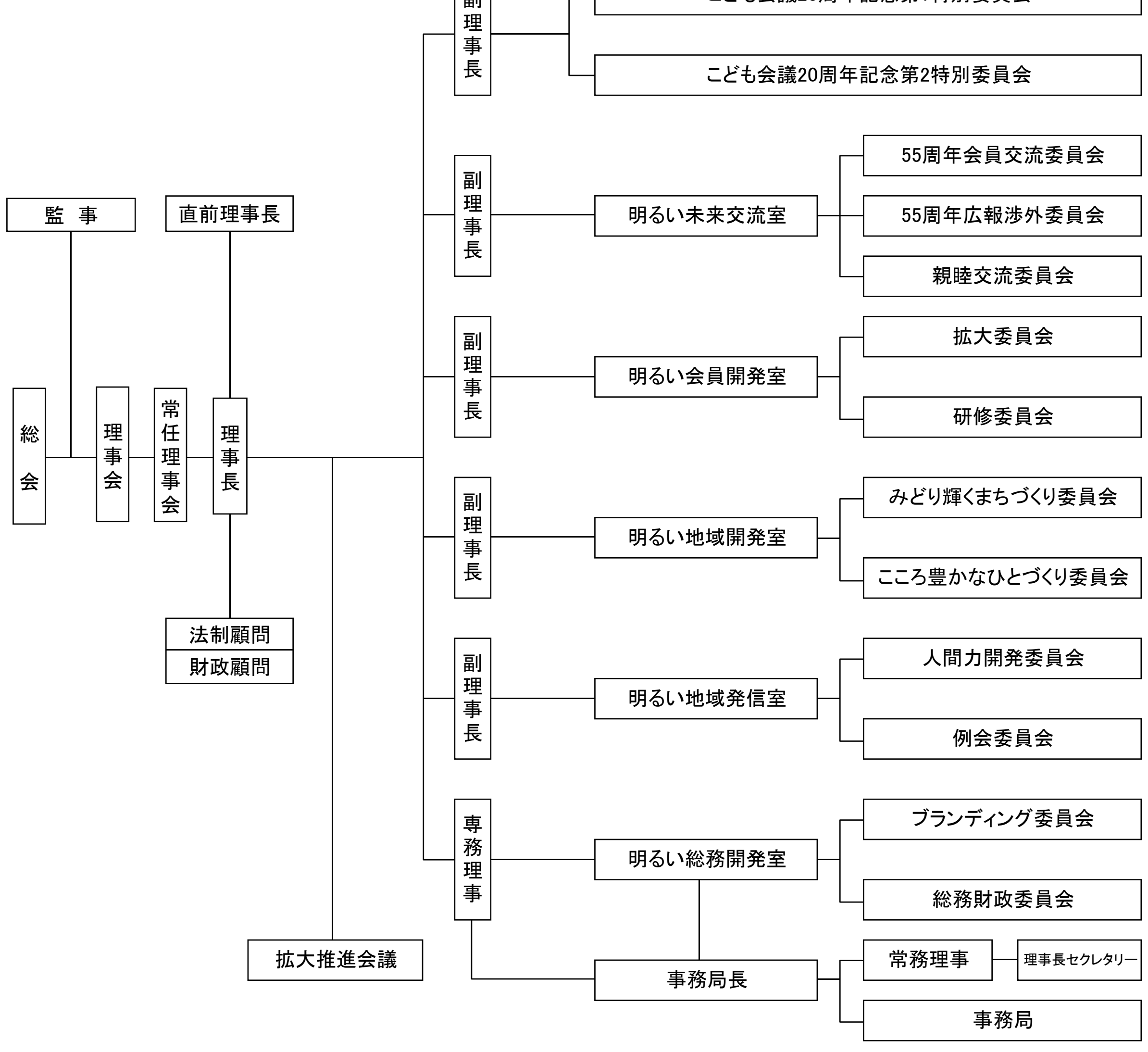


社団法人 福岡青年会議所　　2007 年 度　委 員 会 編 成 表

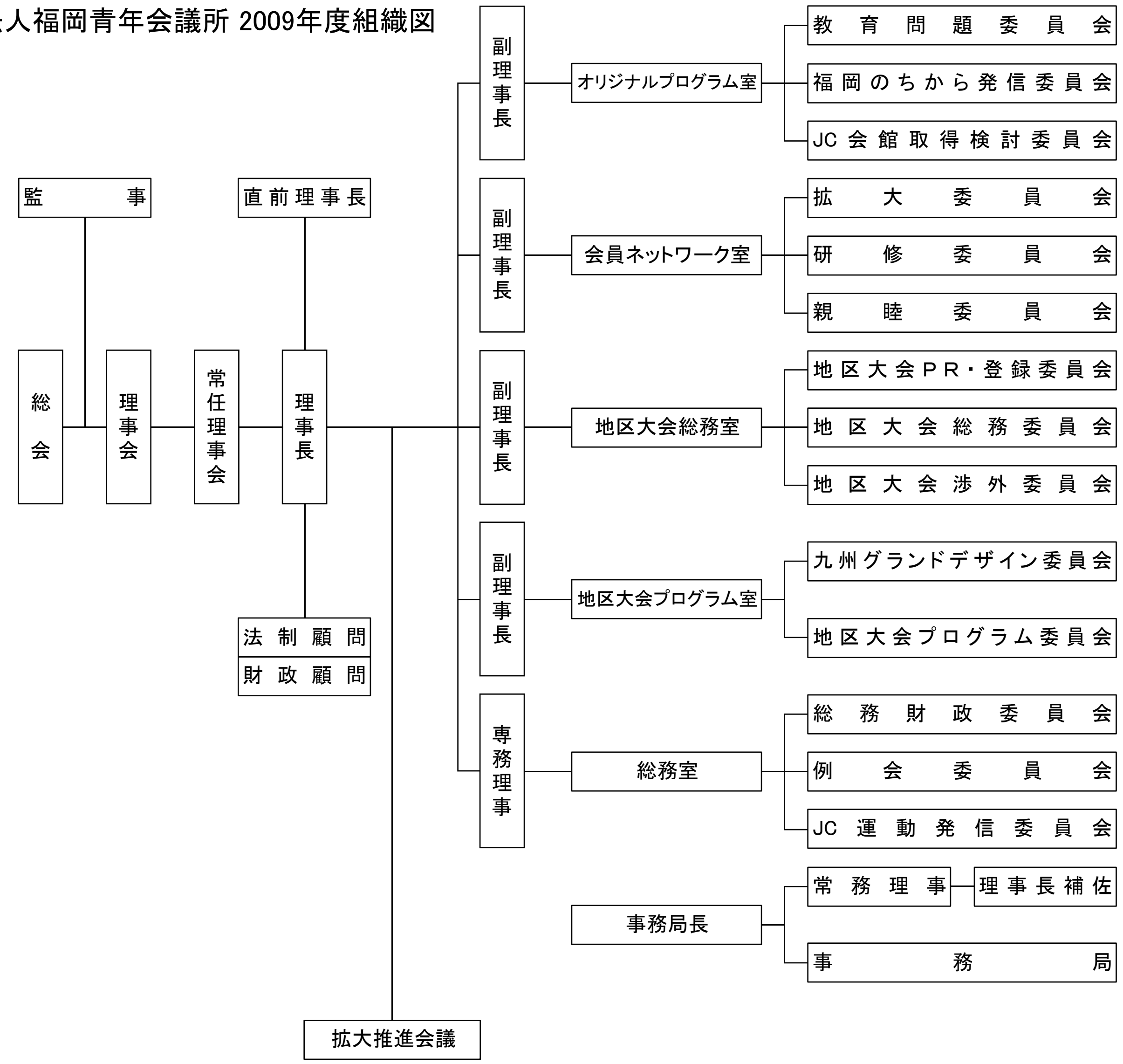
理事長	富永 太郎												
副理事長	長沼 慶也		新開 裕司		野上 正嗣		大村 光		高力 夏男		専務理事 中岡 生公		
室	強い絆紡ぎ室		福岡の宝継承室		未来のJC創造室		美しい心実践室		豊かなまち発展室		総務室		
室長	穴井 幸一郎		田平 裕隆		安武 健一		大山 哲寿		岡本 達也		庄嶋 毅		
委員会	会員交流委員会	54周年委員会	親睦委員会	福岡の宝委員会	拡大委員会	研修委員会	食育問題委員会	教育問題委員会	スポーツのまち福岡委員会	再チャレンジ支援委員会	ブランディング委員会	例会委員会	総務財政委員会
委員長	川畑 康太郎	林 彰	森口 一寛	田中 一樹	後藤 昭南	中野 洋市郎	高橋 努武	阿利 欽章	末松 大和	嵜村 仁志	中井 健雄	石川 鉄也	大曲 隆太
副委員長	橋元 浩司	山口 茂	松山 真介	永田 秀幸	北野 秀雄	山田 茂伸	金子 智明	濱田 洋	馬場 英樹	樋口 儀史	池田 長正	鬼塚 活人	近藤 育高
運営幹事	岡部 崇	松畠 邦彦	鶴 成次	清島 光広	藤井 法雄	井上 誉之	加地 良貴	忍田 武人	庄嶋 健	平畑 和之	森山 新樹	井上 博司	山崎 尚典
会計幹事	増田 成泰	山野 貴博	原田 浩司	大迫 順平	吉田 善太郎	河野 太郎	秦 勝良	池本 潤	本村 弘美	中村 太一	中沢 亘	富永 泰輔	清田 和也
広報幹事	今林 久則	梅野 徹	瀬口 正	高山 秀明	光山 敬一	江藤 剛	橋田 和義	林田 暁紀	石村 善孝	堤 善徳	中間 浩史	深川 隆之	伊藤 忠相
拡大幹事	山野 浩	国本 広次	栗木 努	柴田 耕太郎	柚木崎 政和	野中 史明	荻田 英二	松本 倫明	佐々木 誠二	髙原 信一	今崎 晋一郎	角 征一郎	山本 浩史
委員 1.	岩尾 一豊	石崎 裕務	川口 慎介	泉 巌	飯塚 輝幸	入江 有二	尾籠 秀俊	井口 剛	池上 慎太郎	安東 優介	伊原 ルリ子	江崎 知都世	明田 勝
2.	大西 誉郎	上林 泰啓	北山 英樹	今尾 彰伸	石川 英孝	大神 健二	鍛冶 誠一郎	石橋 聡	池田 賢治	岡本 成史	今永 尚宏	小川 聖剛	井川 博雄
3.	貝塚 英樹	岡部 周二	小池 孝典	大穂 世嗣孝	大川 貴光	小野 明	具島 秀男	川上 晋平	有働 健一郎	川井田 貢	江口 純一	欽 宏新	和泉 宏幸
4.	久原 博樹	沖 能成	重久 陽一	桐生 浩之	後藤 慎吾	近藤 大量	黒木 健一郎	久保 尊善	大塚 誠司	香田 博	岡本 虎丸	楠本 健一	岩田 秀雄
5.	高松 浩二	鬼木 誠	神宮司 匡邦	国武 隆治	澤田 泰久	坂口 大司	小津和 敦	坂本 健一郎	木原 新太	児嶋 健太郎	住吉 祐一郎	田麦 純一	大空 孝男
6.	高山 久徳	坂野 直樹	末松 崇	後藤 繁識	清水 龍平	坂口 正雄	高橋 俊輔	立山 茂樹	冬至 竜介	最所 靖典	田中 寛次	原 健三朗	敷地 健康
7.	田口 剛	菅 道文	岳 将士	佐藤 賢太	友杉 隆志	徳永 竜太郎	田所 享	野中 俊雄	灘辺 亮	佐嘉田 英樹	田村 邦明	廣田 佳代子	瀬尾 浩之
8.	東 直史	村上 一孝	薙野 英児	菖蒲 徹秀	長谷 武	中田 泰平	濱地 洋幸	平塚 裕一郎	野村 幸治	貞国 秀幸	土田 敬博	増崎 有紀	高松 裕
9.	平田 玲奈	安河内 裕一	野村 勇太	高橋 孝道	樋口 明	秀嶋 康成	福田 千夏	福田 庸之助	花田 孝則	庄司 誠	時任 毅	松岡 弘一郎	藤 浩士
10.	松本 泰明	柳澤 賢二	平川 泰之	丸尾 剛	牧 祐仁	府内 栄佳	松山 晋也	細川 日出光	福田 衛	津田 政典	仁田 篤志	溝江 将光	松尾 敬一
11.	籾井 公貴	山田 広美	堀 宏行	吉田 博道	松林 幹雄	山本 真	森田 浩文	溝口 伸幸	水城 四郎	中牟田 修二	松田 聡	宿久 徹太郎	守 隼人
12.	依田 健太郎	渡邊 順	山本 敬三	鷲津 正一	山田 訓敬	古賀 崇真子	吉田 賢太郎	矢野 俊隆	山田 勝彦	古川 元紹	石橋 広盛	吉田 宏幸	山鹿 政則
13.	古井 浩二	永島 藤吾	金子 護	田中 慎介	堤 純子	佐々木 隆憲	髙嶋 はる奈	山本 周史	住吉 大二郎	前田 俊輔	平石 幸治	中島 裕二	青柳 竜正
14.	金子 孝行	中田 茂	盛田 義隆	案浦 洋	真木 智也	松本 喜孝	八頭司 和孝	山下 立	宮田 昭雄	岸川 勝英	中島 雅哉	岡崎 弘	後藤 義和
15.	矢田 拓司	福山 貴之	齊藤 兼一朗	目黒 雄大	峯元 秀爾	長崎 博	笠 伸太郎	大塚 秀樹	西岡 英樹	武藤 仁弥	本多 利行	南部 秀成	城島 雄樹
16.			柴田 慎			藤 眞臣			深堀 通				

直前理事長 小池 勝利
監事 浜崎 太郎　渡辺 剛
法制顧問 古賀 弘一郎
財政顧問 兼平 一郎
事務局長 田川 幸平
常務理事 西村 勉　春田 克起
理事長補佐 熊本 太郎　下田 亨　田島 敬悟
休会者 原 有希

社団法人福岡青年会議所 2008年度組織図



社団法人福岡青年会議所 2009年度組織図



社団法人　福岡青年会議所　　2008 年 度　委 員 会 編 成 表

理事長	新開 裕司												
副理事長	長沼 慶也		大山 哲寿			大村 光		中岡 生公		庄嶋 毅		専務理事 安武 健一	
室 特別委員会	こども会議20周年記念第1特別委員会	こども会議20周年記念第2特別委員会	明るい未来交流室			明るい会員開発室		明るい地域開発室		明るい地域発信室		明るい総務開発室	
室長 特別委員長	中井 健雄	大曲 隆太	石川 鉄也			田中 一樹		田平 裕隆		田川 幸平		中野 洋市郎	
委員会			55周年会員交流委員会	55周年広報渉外委員会	親睦交流委員会	拡大委員会	研修委員会	みどり輝くまちづくり委員会	こころ豊かなひとづくり委員会	人間力開発委員会	例会委員会	ブランディング委員会	総務財政委員会
委員長			春田 克起	鬼塚 活人	岡部 崇	河野 太郎	金子 智明	川畑 康太郎	濱田 洋	馬場 英樹	(仁田 篤志)	松山 真介	末松 大和
副委員長	庄嶋 健	山田 茂伸	友杉 隆志	北野 秀雄	阿利 欽章	具島 秀男	清田 和也	西村 勉	山本 浩史	山口 茂	坂野 直樹	尾籠 秀俊	鶴 成次
運営幹事	和泉 宏幸	下田 亨	井上 誉之	中沢 亘	中島 裕二	大迫 順平	瀬口 正	山野 貴博	大神 健二	野中 史明	大西 誉郎	今崎 晋一郎	秦 勝良
会計幹事	津田 政典	山﨑 尚典	松本 倫明	児嶋 健太郎	国本 広次	今林 久則	中間 浩史	橋田 和義	林田 暁紀	光山 敬一	熊本 太郎	平田 玲奈	青柳 竜正
広報幹事	笠 伸太郎	後藤 義和	荻田 英二	南部 秀成	高橋 俊輔	真木 智也	藤 眞臣	田島 敬悟	住吉 大二郎	安東 優介	近藤 大量	中田 泰平	永島 藤吾
(出向理事)							嵜村 仁志						
委員 1.	池上 慎太郎	案浦 洋	井上 博司	飯塚 輝幸	梅野 徹	井川 博雄	伊原 ルリ子	池田 賢治	沖 能成	岡本 成史	川井田 貢	池本 潤	大空 孝男
2.	今永 尚宏	岡本 虎丸	後藤 慎吾	石橋 広盛	大川 貴光	井口 剛	上林 泰啓	入江 有二	柴田 慎	鍛冶 誠一郎	坂本 健一郎	石村 善孝	加地 良貴
3.	江口 純一	金子 孝行	重久 陽一	大塚 秀樹	大穂 世嗣孝	伊藤 忠相	佐々木 誠二	江崎 知都世	徳永 竜太郎	最所 靖典	橋元 浩司	今尾 彰伸	金子 護
4.	岸川 勝英	欽 宏新	髙原 信一	小川 聖剛	貝塚 英樹	有働 健一郎	佐々木 隆憲	岡崎 弘	中島 雅哉	敷地 健康	原田 浩司	岩尾 一豊	北山 英樹
5.	桐生 浩之	楠本 健一	田口 剛	忍田 武人	栗木 努	川上 晋平	永田 秀幸	小野 明	深堀 通	田所 享	平石 幸治	鬼木 誠	清島 光広
6.	久保 尊善	古賀 すま子	岳 将士	古賀 弘一郎	香田 博	木原 新太	野村 幸治	小津和 敦	福田 衛	土田 敬博	松尾 敬一	田村 邦明	後藤 繁識
7.	小池 孝典	齊藤 兼一朗	堤 善徳	角 征一郎	高松 浩二	貞国 秀幸	平塚 裕一郎	冬至 竜介	堀 宏行	富永 泰輔	山本 敬三	時任 毅	末松 崇
8.	近藤 育高	城島 雄樹	中牟田 修二	灘辺 亮	堤 純子	高橋 孝道	深川 隆之	樋口 明	本多 利行	長﨑 博	依田 健太郎	長谷 武	西岡 英樹
9.	柴田 耕太郎	住吉 祐一郎	秀嶋 康成	濵地 洋幸	平畑 和之	立山 茂樹	牧 祐仁	福田 庸之助	溝口 伸幸	細川 日出光	浅香 祐輔	古川 元紹	野村 勇太
10.	清水 龍平	瀬尾 浩之	峯元 秀爾	古井 浩二	増崎 有紀	田中 慎介	目黒 雄大	福山 貴之	村上 一孝	松岡 弘一郎	原田 良	丸尾 剛	藤井 法雄
11.	菖蒲 徹秀	高嶋 はる奈	安河内 裕一	八頭司 和孝	守 隼人	樋口 儀史	盛田 義隆	松畠 邦彦	矢田 拓司	松本 泰明	堀江 克尚	本村 弘美	松山 晋也
12.	中村 太一	高山 秀明	安部 孝則	山田 勝彦	矢野 俊隆	山野 浩	宿久 徹太郎	水城 四郎	山田 広美	籾井 公貴	小杉 司	柚木﨑 政和	武藤 仁弥
13.	原 健三朗	田麦 純一	佐藤 友紀	占部 歓久	渡邊 順	平木 康裕	内野 慎也	山下 立	吉田 宏幸	柳澤 賢二	布巻 信吾	立部 光宝	阿部 剛士
14.	前田 俊輔	中田 茂		多賀谷 兵馬	今畠 利幸	宮地 哲也	松岡 茂之	永江 貴司	岡部 英信	飯盛 利康	境 和明	五十嵐 亮	白水 剛正
15.	増田 成泰	福田 千夏			清水 浩和	山本 恭平	久保田 大輔		原 有希	三枝 篤史	西 宏史	大塚 拓也	河村 英男
16.	松田 聡	森田 浩文			竹松 大輔				財津 由香	光安 伸之	藤野 優寿	知名 健太郎定信	若杉 佳代
17.	吉田 賢太郎	山鹿 政則							芝原 正輝				
18.	片岡 督雄	吉田 善太郎							藤田 昌弘				
19.	鈴木 大輔	吉田 博道											
20.	新嶋 秀夫	豊福 寿子											
21.	青木 栄憲	川上 伸大											

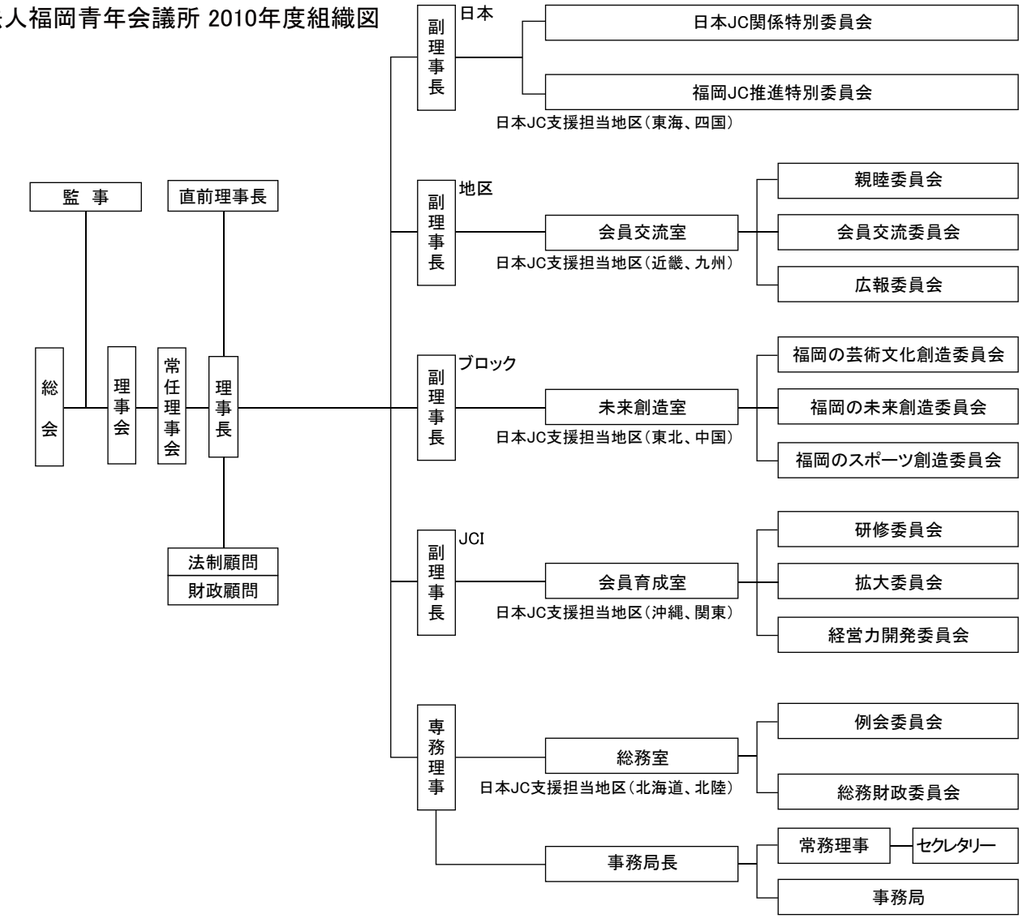
直前理事長　富永 太郎
監事　高力 夏男
法制顧問　穴井 幸一郎
財政顧問　兼平 一郎
事務局長　(中野 洋市郎)
常務理事　江藤 剛　森山 新樹
理事長セクレタリー　澤田 泰久　宮田 昭雄
休会者　森口 一寛　仁田 篤志

社団法人　福岡青年会議所　　2009 年 度　委 員 会 編 成 表

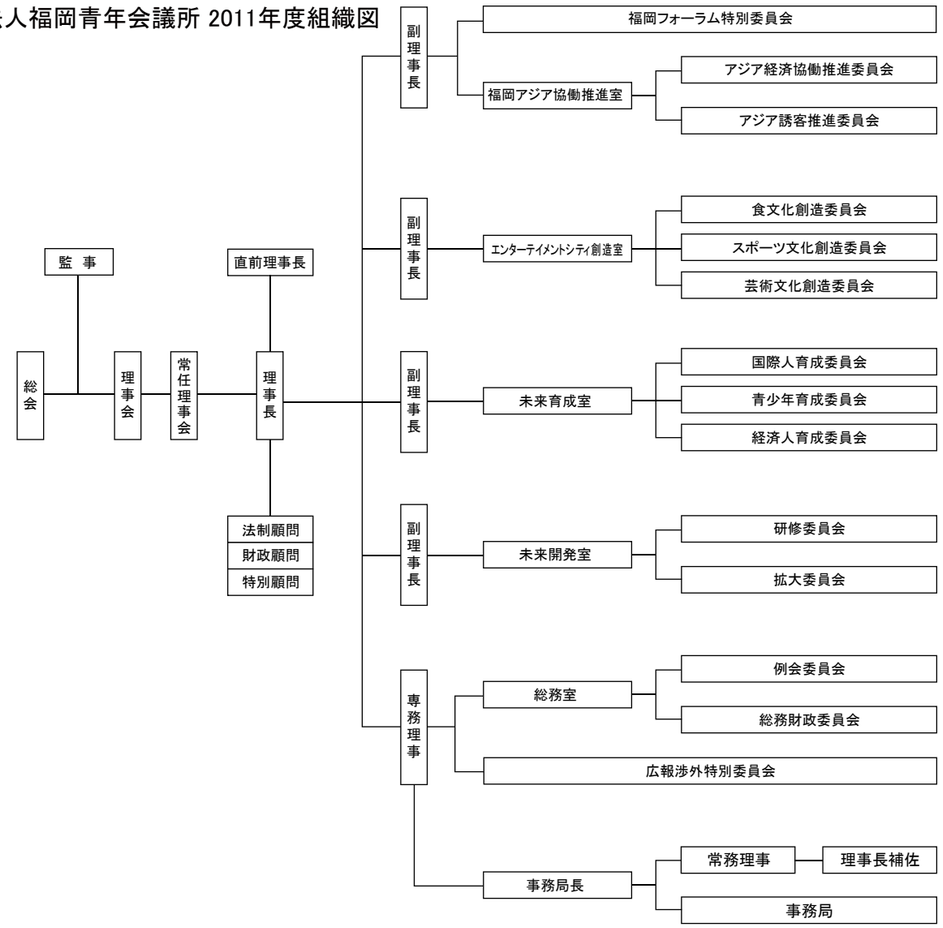
理事長	大村 光													
副理事長	田中 一樹			安武 健一			中岡 生公			大山 哲寿		専務理事 中井 健雄		
室 特別委員会	オリジナルプログラム室			会員ネットワーク室			地区大会総務室			地区大会プログラム室		総務室		
室長 特別委員長	春田 克起			川畑 康太郎			末松 大和			田川 幸平		河野 太郎		
委員会	教育問題委員会	福岡のちから発信委員会	JC会館取得検討委員会	拡大委員会	研修委員会	親睦委員会	地区大会PR・登録委員会	地区大会総務委員会	地区大会渉外委員会	九州グランドデザイン委員会	地区大会プログラム委員会	総務財政委員会	例会委員会	JC運動発信委員会
委員長	江藤 剛	友杉 隆志	山野 貴博	山口 茂	岡部 崇	江崎 知都世	鶴 成次	庄嶋 健	具島 秀男	青柳 竜正	森山 新樹	鬼塚 活人	阿利 欽章	入江 有二
副委員長	最所 靖典	本村 弘美	西岡 英樹	津田 政典	永島 藤吾	山﨑 尚典	下田 亨	富永 泰輔	加地 良貴	大迫 順平	永江 貴司	今崎 晋一郎	松畠 邦彦	増田 成泰
運営幹事	阿部 剛士	深川 隆之	岡崎 弘	八頭司 和孝	南部 秀成	中島 裕二	金子 孝行	山田 勝彦	荻田 英二	山下 立	高橋 俊輔	矢田 拓司	岡本 虎丸	古井 浩二
会計幹事	齊藤 兼一朗	高山 秀明	中島 雅哉	冬至 竜介	宮田 昭雄	栗木 努	和泉 宏幸	佐々木 誠二	武藤 仁弥	橋田 和義	大塚 拓也	大塚 秀樹	城島 雄樹	柴田 慎
広報幹事	野中 史明	西 宏史	依田 健太郎	鈴木 大輔	新嶋 秀夫	財津 由香	熊本 太郎	*筬島 貴宏*	*佐藤 公彦*	山本 恭平	*大久保 学*	平田 玲奈	久保田 大輔	井口 剛
拡大幹事	藤田 昌弘	小杉 司	小津和 敦	徳永 竜太郎	占部 歓久	芝原 正輝	三枝 篤史	原田 良	伊藤 忠相	田島 敬悟	盛田 義隆	藤野 優寿	林田 暁紀	国本 広次
(出向理事)									中田 泰平					
(出向理事)									光山 敬一					
委員 1.	鬼木 誠	飯塚 輝幸	石橋 広盛	片岡 督雄	五十嵐 亮	尾籠 秀俊	伊原 ルリ子	井上 誉之	飯盛 利康	後藤 繁識	大西 誉郎	浅香 祐輔	池本 潤	青木 栄憲
2.	川上 晋平	大神 健二	今永 尚宏	金子 智明	井上 博司	北野 秀雄	小川 聖剛	近藤 大量	貝塚 英樹	佐藤 友紀	金子 護	大穂 世嗣孝	岡部 英信	安部 孝則
3.	岸川 勝英	鍛冶 誠一郎	有働 健一郎	中村 太一	岩尾 一豊	児嶋 健太郎	川上 伸大	角 征一郎	坂野 直樹	重久 陽一	桐生 浩之	岡本 成史	忍田 武人	案浦 洋
4.	欽 宏新	清田 和也	住吉 大二郎	布巻 信吾	白水 剛正	田麦 純一	久保 尊善	土田 敬博	柴田 耕太郎	清水 浩和	野村 勇太	河村 英男	後藤 慎吾	大川 貴光
5.	知名 健太郎定信	境 和明	田中 慎介	樋口 儀史	瀬口 正	堤 善徳	後藤 義和	堤 純子	福田 千夏	竹松 大輔	松岡 弘一郎	髙原 信一	田口 剛	香田 博
6.	時任 毅	高嶋 はる奈	本多 利行	目黒 雄大	多賀谷 兵馬	中牟田 修二	末松 崇	中田 茂	柳澤 賢二	灘辺 亮	吉田 賢太郎	細川 日出光	平木 康裕	古賀 すま子
7.	長﨑 博	岳 将士	村上 一孝	籾井 公貴	西村 勉	馬場 英樹	福田 衛	秦 勝良	笠 伸太郎	樋口 明	吉田 宏幸	丸尾 剛	溝口 伸幸	菖蒲 徹秀
8.	長谷 武	中間 浩史	森田 浩文	坂本 耕作	野村 幸治	原 有希	藤井 法雄	原 健三朗	渡邊 順	福山 貴之	志間 利哉	宿久 徹太郎	光安 伸之	立部 光宝
9.	松田 聡	古川 元紹	吉田 博道	福地 太郎	平石 幸治	松山 晋也	堀江 克尚	山野 浩	堤 認樹	堀 宏行	野中 長武	山田 茂伸	庄野崎 源太	深堀 通
10.	水城 四郎	峯元 秀爾	伊瀬知 晃	野田 孝一	夏山 孝司	山本 浩史	野田 大吾郎	藤井 洋介	井村 仁志	牧 祐仁	丸本 健一	山本 敬三	松本 佐知子	山本 貴紀
11.	吉田 善太郎	柚木﨑 政和	中野 雄将	津田 真二	岩元 知彦	森 崇紀	森口 一寛	高橋 浩介		藤澤 貴世香	木場 茂	楢﨑 靖志	真崎 隼人	吉川 和孝
12.	小林 信翠	寺田 良平	岩瀬 達郎	野田 始	長野 泰吾	渡辺 洋祐	林田 太郎			横山 淳一		樋口 大志	大津 正樹	吉永 大祐
13.	井上 猛	石橋 知枝		松永 康隆	松尾 健太郎	黒木 淳司				松尾 佳人		児玉 邦康		手嶋 健太郎
				山下 雅之	上木 裕寿	津福 宣彰								
						永安 重喜								

直前理事長　新開 裕司
監事　富永 太郎
法制顧問　長沼 慶也
財政顧問　田平 裕隆
事務局長　(河野 太郎)
常務理事　橋元 浩司　守 隼人
理事長補佐　藤 眞臣　真木 智也
休会者　瀬尾 浩之

社団法人福岡青年会議所 2010年度組織図



社団法人福岡青年会議所 2011年度組織図



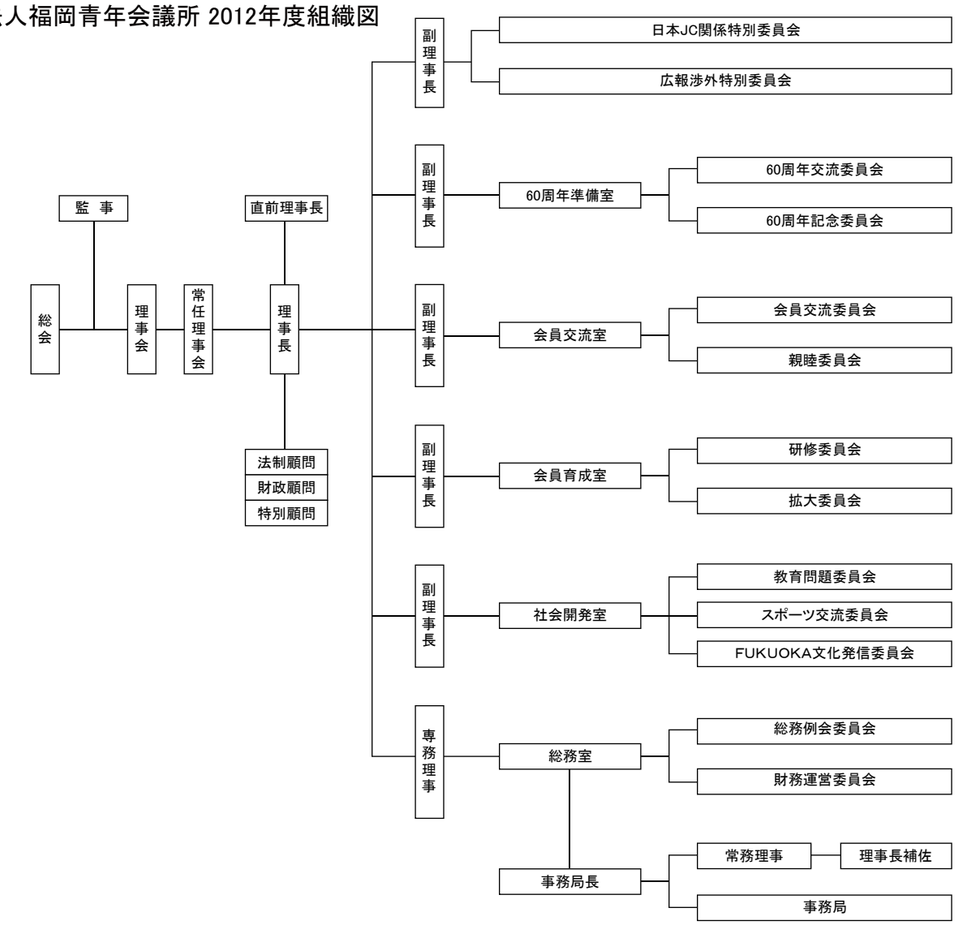
社団法人 福岡青年会議所　　2010 年 度　委 員 会 編 成 表

	理 事 長　大 山　哲 寿												直前理事長 大村　光
副理事長	中 井 健 雄		末 松 大 和			長沼 慶也			安 武 健 一			専務理事 田 川 幸 平	監 事 富 永 太 郎
室 特別委員会	日本JC関係 特別委員会	福岡JC推進 特別委員会	会 員 交 流 室			未 来 創 造 室			会 員 育 成 室			総 務 室	
室長 特別委員長	青 柳 竜 正	庄 嶋　健	友 杉 陸 志			江 藤　剛			森 山 新 樹			岡 部　崇	
委員会			親睦委員会	会員交流委員会	広報委員会	福岡の芸術文化 創造委員会	福岡の未来 創造委員会	福岡のスポーツ 創造委員会	研修委員会	拡大委員会	経営力開発 委員会	例会委員会	総務財政 委員会
委員長			南部 秀成	光山 敬一	江崎 知都世	中田 泰平	大迫 順平	橋田 和義	西岡 英樹	永江 貴司	山野 貴博	下田 亨	橋元 浩司
副委員長	藤　眞臣	津田 政典	秦　勝良	真木 智也	大久保 学	新嶋 秀夫	矢田 拓司	齊藤 兼一朗	井上 誉之	岡本 虎丸	笠 伸太郎	阿部 剛士	葉木 努
総括幹事	瀬口　正	志間 利哉	筑島 貴宏	深川 隆之	井口 剛	荻田 英二	宮田 昭雄	大塚 拓也	守 隼人	松島 邦彦	野中 史晃	近藤 大量	忍田 武人
運営幹事	藤田 昌弘	丸尾 剛	野中 長武	多賀谷 兵馬	松本 佐知子	末松 崇	大塚 秀樹	小林 信翠	久保田 大輔	*武生 悦一*	国本 広次	夏山 孝司	平田 玲奈
会計幹事	山本 恭平	角 征一郎	野田 孝一	今崎 晋一郎	津田 真二	佐藤 公彦	野田 大吾郎	岡部 英信	丸木 健一	堤 認樹	城島 雄樹	山崎 尚典	児玉 邦彦
広報幹事	寺田 良平	石橋 知枝	青木 栄憲	大津 正樹	黒木 淳司	永野 泰吾	岩元 智彦	立部 光宝	永安 重喜	井上 猛	横山 淳一	占部 歓久	津福 宣彰
(出向理事)	石橋 広盛					加地 良貴							事務局長 長島 秀男
委 員 1.	金子 智明	岩尾 一豊	飯塚 輝幸	安部 孝則	五十嵐 亮	伊瀬知 晃	飯盛 利康	上木 裕寿	浅香 祐輔	坂野 直樹	岡崎 弘	岩瀬 達郎	今永 尚宏
2.	金子 護	片岡 哲雄	有働 健一郎	案浦 洋	小川 聖剛	井村 仁志	古賀 すま子	岡本 成史	桐生 浩之	冬至 竜介	柴田 慎	鬼木 誠	川上 伸大
3.	河村 英男	川上 晋平	大穂 世嗣孝	伊藤 忠相	香田 博	岸川 勝英	木場 茂	貞塚 英樹	飲 宏新	富永 泰輔	芝原 正輝	最所 靖典	児嶋 健太郎 常務理事 金子 孝行
4.	小津和 敦	高橋 俊輔	清田 和也	小杉 司	清水 浩和	柴田 耕太郎	財津 由香	久保 尊善	白水 剛正	中野 雄将	高山 秀明	住吉 大二郎	佐々木 誠二 林田 暁紀
5.	後藤 義和	知名 健太郎定信	熊本 太郎	後藤 繁識	高原 信一	中間 浩史	佐藤 友紀	手嶋 健太郎	時任 毅	中牟田 修二	岳 将士	高嶋 はる奈	田妻 純一
6.	境 和明	土田 敬博	庄野崎 源太	後藤 慎吾	堤 純子	布巻 信吾	竹松 大輔	長谷 武	野村 勇太	真崎 隼人	中島 雅哉	田島 敬悟	植崎 靖志 セクレタリー 鈴木 大輔
7.	高橋 浩介	福田 衛	徳永 竜太郎	菖蒲 徹秀	堤 善徳	林田 太郎	田中 慎介	増田 成泰	平木 康裕	清口 伸幸	藤澤 貴世香	鶴 成次	野村 幸治 原田 良
8.	西 宏史	福地 太郎	長崎 博	原 健三朗	中田 茂	松永 康隆	樋口 明	八頭司 和孝	福山 貴之	吉田 善太郎	古川 元紹	永島 藤吾	牧 祐仁
9.	藤野 優寿	松尾 佳人	馬場 英樹	藤井 洋介	野田 始	峯元 秀爾	古井 浩二	山本 貴紀	光安 伸之	吉永 大祐	本村 弘美	西村 勉	松山 晋也 休会者 福久 徹太郎
10.	山下 雅之	松岡 弘一郎	細川 日出光	堀江 克尚	深堀 通	吉田 宏幸	本多 利行	渡辺 洋祐	柳澤 賢二	渡邊 順	頼井 公貴	依田 健太郎	山田 勝彦
11.	山上 祥吾	武藤 仁弥	松尾 健太郎	吉田 賢太郎	盛田 義隆	深野 継介	森 崇紀	川崎 慎吾	澤木 亮治	武藤 誠	森田 浩文	瀬尾 浩之	吉川 和孝
12.	鍾ヶ江 琢磨	目黒 雄大	柚木崎 政和	村山 幸範	野方 浩之	吉田 雄介	税所 政博	宮崎 敬嗣	武本 尚之	吉田 智博	吉村 友佑	福島 卓	西川 真太郎
13.		徳田 将一	日高 史貴	橋本 久志	浦田 純二	大川 陽子	枠築 宏治	才田 洋輔	徳山 慶博	吉永 拓哉	石川 貴浩	川崎 健祐	古賀 幹一良
14.		永延 雄也	中村 智海		大西 久恵		加藤 邦忠	藤林 秀基			村山 嘉一		東野 茂樹
15.		馬渡 卓也											

社団法人 福岡青年会議所　　2011 年 度　委 員 会 編 成 表

	理 事 長　長 沼　慶 也												直前理事長 大山 哲寿
副理事長	青 柳 竜 正			庄 嶋　健			田 川 幸 平			江 藤　剛		専務理事 末 松 大 和	監 事 友杉 陸志
室 特別委員会	福岡フォーラム 特別委員会	福岡アジア協働推進室		エンターテイメントシティ創造室			未 来 育 成 室			未 来 開 発 室		総 務 室	広報渉外 特別委員会
室長 特別委員長	永 江 貴 司	大 迫 順 平		中 田 泰 平			岡 部　崇			横 元 浩 司		森 山 新 樹	笠 伸太郎
委員会		アジア経済協働 推進委員会	アジア誘客 推進委員会	食文化創造 委員会	スポーツ文化 創造委員会	芸術文化 創造委員会	国際人育成 委員会	青少年育成 委員会	経済人育成 委員会	研修委員会	拡大委員会	例会委員会	総務財政 委員会
委員長		藤　眞臣	南部 秀成	守 隼人	金子 孝行	真木 智也	井上 誉之	大久保 学	津田 政典	下田 亨	新嶋 秀夫	野中 史晃	阿部 剛士
副委員長	鈴木 大輔	小林 信翠	永安 重喜	武藤 仁弥	武生 悦一	中間 浩史	近藤 大量	岩元 智彦	井口 剛	宮田 昭雄	野中 長武	大塚 秀樹	德田 将一
総括幹事	矢田 拓司	寺田 良平	徳永 竜太郎	城島 雄樹	後藤 義和	小杉 司	高原 信一	大塚 拓也	永島 藤吾	夏山 孝司	松本 佐知子	多賀谷 兵馬	久保田 大輔
運営幹事	河村 英男	丸木 健一	岩瀬 達郎	藤井 洋介	田島 敬悟	松永 康隆	高橋 俊輔	占部 歓久	兒嶋 健太郎	原田 良	清水 浩和	岡部 英信	浅香 祐輔
会計幹事	福島 卓	松尾 佳人	宮崎 敬嗣	松尾 健太郎	高橋 浩介	加藤 邦忠	峯元 秀爾	橋崎 靖志	福地 太郎	村山 幸範	森 崇紀	浦田 純二	吉田 雄介
広報幹事	武藤 誠	村山 嘉一	中村 智海	才田 洋輔	税所 政博	橋本 久志	日高 史貴	手嶋 健太郎	馬渡 卓也	吉永 拓哉	吉村 友佑	澤木 亮治	東野 茂樹
(出向理事)	齊藤 兼一朗		今崎 晋一郎				西 宏史					柴田 耕太郎	事務局長 光山 敬一
委 員 1.	石川 貴浩	大西 久恵	井村 仁志	青木 栄憲	伊瀬知 晃	有働 健一郎	安部 孝則	飯塚 輝幸	今永 尚宏	五十嵐 亮	伊藤 忠相	岡本 成史	片岡 哲雄
2.	岡本 虎丸	川上 晋平	大穂 世嗣孝	葉木 努	大川 陽子	古賀 幹一良	貞塚 英樹	桐生 浩之	岸川 勝英	岩尾 一豊	上木 裕寿	金子 智明	最所 靖典
3.	具島 秀男	枠築 宏治	小川 聖剛	住吉 大二郎	川崎 慎吾	財津 由香	坂野 直樹	黒木 淳司	国本 広次	荻田 英二	清田 和也	川上 伸大	永野 泰吾
4.	瀬口 正	小津和 敦	鬼木 誠	西川 真太郎	兒玉 邦彦	高嶋 はる奈	佐々木 誠二	本場 茂	土田 敬博	熊本 太郎	芝原 正輝	久保 尊善	細川 日出光
5.	田中 慎介	冬至 竜介	津田 真二	藤林 秀基	後藤 繁識	津福 宣彰	岳 将士	甚蒲 徹秀	福田 衛	瀬尾 浩之	庄野崎 源太	佐藤 友紀	本村 弘美
6.	知名 健太郎定信	真崎 隼人	堀江 克尚	光安 伸之	末松 崇	布巻 信吾	野田 孝一	藤澤 貴世香	松岡 弘一郎	鶴 成次	中野 雄将	柴田 慎	山本 貴紀
7.	富永 泰輔	目黒 雄大	吉田 智博	森田 浩文	立部 光宝	野村 幸治	秦 勝良	盛田 義隆	松島 邦彦	平木 康裕	林田 太郎	高山 秀明	福久 徹太郎
8.	中田 茂	山上 祥吾	渡辺 洋祐	横山 淳一	横田 和義	平田 玲奈	深川 隆之	吉川 和孝	柳澤 賢二	柚木崎 政和	山田 勝彦	深堀 通	向原 栄太郎
9.	林田 暁紀	岡本 由紀子	黒木 真美	平山 貴博	増田 成泰	牧 祐仁	藤野 友章	二村 英文	田代 祐誠	吉田 賢太郎	堀江 陽一	杉山 弘剛	坂本 篤
10.	深野 継介	塚本 尊文	松村 義之	池松 慶太郎	戸田 三喜郎	川端 伸二	泉 巌	竹井 隆二	中島 健作	中園 修治	横山 知佳	光安 慎一郎	吉村 稔
11.	藤野 優寿	吉川 英太郎	桐山 英治	三橋 更太	原田 浩司	杉田 悠	城戸 宏典	入江 幸治	吉原 弘剛	矢幡 健治	関 一優	太田 茂樹	
12.	頼井 公貴	川原 雄介	三角 純康	村岡 祐輔	野中 秀	北原 明典			春山 隆央	岩本 壮一郎	長友 睦宏	中村 隆政	
13.	吉田 善太郎	中島 雅哉							山本 良一	吉良 牧子			
14.	吉永 大祐												
15.	讃 崇史												
16.	青木 眉昌												
17.													

社団法人福岡青年会議所 2012年度組織図



社団法人 福岡青年会議所　　2012 年 度　委 員 会 編 成 表

理事長	末松 大和													直前理事長 長沼 慶也
副理事長	中井 健雄		田川 奉平		岡部 崇		中田 泰平		光山 敬一			専務理事 森山 新樹		監事 江藤 剛
理事 特別委員会	日本JC関係特別委員会	広報渉外特別委員会	60周年準備室		会員交流室		会員育成室		社会開発室			総務室		法制顧問 青柳 竜正
理事 特別委員長	新嶋 秀夫	藤 眞臣	下田 亨		金子 孝行		笠 伸太郎		守 隼人			永江 貴司		財政顧問 庄嶋 健
委員会			60周年交流委員会	60周年記念委員会	会員交流委員会	親睦委員会	研修委員会	拡大委員会	教育問題委員会	スポーツ交流委員会	FUKUOKA文化発信委員会	総務例会委員会	財務運営委員会	特別顧問 大山 哲寿 富永 太郎
委員長			中間 浩史	真木 智也	今崎 晋一郎	岩元 智彦	野中 史晃	永安 重喜	宮田 昭雄	野田 大吾郎	阿部 剛士	井上 誉之	津田 政典	
副委員長	山下 雅之	吉永 拓哉	伊藤 忠相	山本 恭平	荻田 英二	国本 広次	藤田 昌弘	宮崎 敬嗣	徳山 慶博	佐々木 誠二	田島 敬悟	丸本 健一	瀬口 正	
運営幹事	大津 正樹	古賀 幹一良	深野 継介	境 和明	野田 始	多賀谷 兵馬	野方 浩之	秦 勝良	浅香 祐輔	才田 洋輔	澤木 亮治	加藤 邦忠	河村 英男	
会計幹事	吉村 友佑	大西 久恵	橋本 久志	黒木 淳司	松村 義之	川崎 慎吾	庄野崎 源太	青木 慶昌	池松 慶太郎	堀江 陽一	原田 良	吉川 英太郎	藤野 俊寿	
広報幹事	塚本 尊文	村山 嘉一	長友 睦宏	太田 茂樹	立部 光宝	中野 雄将	中島 健作	川原 雄介	山本 良一	戸田 三善郎	二村 英文	藤野 友章	平山 貴博	
拡大幹事	岩本 壮一郎	竹井 隆二	最所 靖典	中村 隆政	三橋 更太	春山 隆矣	入江 幸治	松本 佐知子	関 一俊	比嘉 友彦	坂本 篤	津福 宣彰	矢幡 健治	
(出向理事)		柴田 耕太郎			城島 雄樹									
委員 1.	井村 仁志	飯盛 利康	金子 智明	泉 巌	真島 秀男	今永 尚宏	伊瀬知 晃	大穂 世嗣孝	石川 貴浩	熊本 太郎	青木 栄憲	五十嵐 亮	飯塚 輝幸	事務局長 (永江 貴司)
2.	浦田 純二	井口 剛	清田 和也	岩瀬 達郎	久保 尊善	岡本 虎丸	岩尾 一豊	川端 伸二	大塚 拓也	高嶋 はる奈	安部 孝則	川上 伸大	稅所 政博	
3.	児玉 邦康	大川 陽子	後藤 繁臨	高原 信一	土田 敬博	岡本 由紀子	占部 敦久	請 崇史	筑島 貴宏	高橋 浩介	鬼木 誠	中島 雅哉	佐藤 友紀	常務理事 清水 浩和 日高 史貴
4.	杉田 悠	片岡 智雄	末松 崇	堤 善徳	堀江 克尚	黒木 真美	大塚 秀樹	角 任一郎	桐生 浩之	鶴田 孝志	桐山 栄治	布巻 信吾	寺田 良平	
5.	鈴木 大輔	北原 明典	高山 秀明	徳田 将一	松島 邦彦	梛嶋 健太郎	岡部 英信	竹松 大輔	葉木 努	永島 藤吾	後藤 義和	野村 幸治	冬至 竜介	理事長補佐 鍵ヶ江 琢郎 武本 尚之 中園 修治
6.	田代 祐誠	井築 宏治	知名健太郎定信	中田 茂	松山 晋也	武生 悦一	小津和 敦	永野 泰吾	近藤 大量	永延 雄也	岳 将士	原 健三朗	宮永 泰輔	
7.	津田 真二	嘉藤 徹秀	野中 勇	夏山 孝司	村岡 祐輔	手嶋 健太郎	杉山 弘剛	藤林 秀昌	高橋 俊輔	武藤 仁弥	村上 弘美	深川 隆之	西 宏史	
8.	徳永 竜太郎	堤 認樹	牧 祐仁	宿久 徹太郎	目黒 雄大	穂嶋 靖志	原田 浩司	三角 純廣	田中 慎介	山崎 尚貴	村山 幸範	福地 太郎	野田 孝一	
9.	中村 智海	林田 暁紀	盛田 義隆	吉田 善太郎	藤本 充洋	平木 康裕	深堀 遥	光安 慎一郎	野中 長武	吉原 弘剛	吉田 雄介	頼井 公貴	福島 卓	
10.	西川 真太郎	細川 日出光	松岡 将史	上村 聡	田中 一希	山田 勝彦	吉田 賢太郎	横山 淳一	吉田 智博	新宮 秀一	吉井 大記	渡辺 洋祐	藤井 洋介	
11.	林田 太郎	松尾 佳人	藤塚 勉	中島 大介	添田 恵一	富永 周行	西村 光洋	佐々木 信吾	有光 麻美	横田 匡隆	吉田 圭太	山田 邦彦	吉永 大祐	
12.	平田 玲奈	松岡 弘一郎	金 佑樹	下野 孝幸		古市 剛	大嶋 洋平	内野 千夏	坂野 純一	三枝 篤史	彌登 義明	池上 慎太郎	田中 恵介	
13.	松尾 健太郎	馬渡 卓也	水田 まみ子	井川 陽介		城戸 崇吉	金城 貴雄	白石 三樹	西島 大輔	竹田 光寛	高原 正臣	年岡 裕也	西川 明宏	休会者 渡邊 順
14.	松永 康隆	峯元 秀爾	百田 善太郎	大野 哲		菅原 大				安藤 功	安永 拓一郎			
15.	森 崇紀	向原 栄大朗		佐藤 淳二										
16.	山上 祥吾	楠木崎 政和												
17.	横山 知佳	吉川 和孝												
18.	吉村 稔	大久保 祥二												
19.	石村 良平	城戸 雄光												
20.	村津 万里													

編集後記

創立 60 周年の節目の年を迎え、社団法人福岡青年会議所は、新たなる一歩を踏み出しました。
この記念誌作成に当たり、今現在も多くの各種団体の皆様や諸先輩方に見守られ愛されて歩んでいることを実感した次第であります。
明るく豊かな社会の創造、そして愛する郷土のために、これからも歩みを止めることなく、邁進するきっかけとなることを祈念する次第です。
最後になりましたが、この記念誌を発刊するにあたり、ご指導ご協力を頂きました皆様に心より御礼を申し上げます。
ありがとうございました。

60 周年記念委員会委員長　　真木智也

JCI Junior Chamber International Fukuoka

http://www.fukuoka-jc.or.jp